



# 精華町 地域福祉計画

世代をこえて安心して住めるまちをめざして

平成21年9月  
精華町

## はじめに

今日、地域社会においては、少子高齢化や核家族化の急速な進展、また、住民のライフスタイルの多様化やプライバシーの意識の高まりなどから、身近な交流やコミュニケーションが希薄化する中で、家族や地域で支え合う機能が弱まってきています。



こうした状況は、ひとり暮らしの高齢者や障害のある人、子育て家庭において、不安や孤立感を抱え、ひとりで悩む人が増えるなど、何らかの支えを必要としている人々にさまざまな影響を及ぼしています。ひいては孤独死、虐待、引きこもりなどの社会問題を引き起こす要因にもなっています。

住民の皆さまの願いは、住み慣れた地域で安心して日々を過ごせることだと思います。

隣近所の人たち、さらにすべての住民が、お互いを理解し合おう、認め合おう、尊重し合おう、許し合おう、助け合おう、支え合おうという気持ち、いわばお互いが家族のように相手を思いやる温かな気持ちでつながる人間関係・絆（きずな）を築き、“家族的な地域社会”を創っていくことが大切です。

このような地域社会を築いていくためには、阪神淡路大震災を契機として各地域で活発化しているボランティア活動やNPOなどの住民活動などをより充実させるとともに、地域での人と人とのつながりを大切にして、顔の見える関係やネットワークづくりを進めていくことが重要となってきます。

そこで、本町では住民の皆さまの参画や共働を得て、「世代をこえて安心して住めるまちをめざして」を理念に掲げ、地域福祉計画を策定しました。

今後は、この計画を基本方針として、新旧地域の交流や人のつながりづくり、身近な人とのつながりと支え合いづくり、自立をめざす新しい校区圏域のまちづくり、地域福祉の担い手養成と連携に向けた取り組みを進めてまいります。

本計画の策定にあたり、貴重なアイデアやご意見、ご提言をいただきました精華町地域福祉計画策定委員会や作業部会の委員の皆さまをはじめ、せいか隣人まつりに参加された住民の皆さまなど、多くの住民の皆さまに心からお礼申し上げます。

平成21年9月

精華町長

木村 要

## 目次

### 第1章 計画策定の背景

1	社会動向	1
2	計画の位置づけ	3
3	地域福祉活動の担い手と役割	4
4	計画期間	5
5	計画の進行管理のしくみ	5

### 第2章 精華町地域福祉計画

1	理念	6
2	方針	6
3	施策体系	8
4	重点事業	9
4-1	住民主体の担い手養成と中心組織づくり	10
4-2	専門職や担い手同士の連携	20
4-3	防災・防犯の安全安心づくり	26
4-4	身近な居場所づくり	28
4-5	学校と地域のつながりづくり	30
4-6	精華ならではの環境を生かした人のつながりづくり	32

### 参考資料

1	精華町地域福祉計画策定委員会委員名簿	参考資料-1
2	精華町地域福祉計画策定作業部会委員名簿	参考資料-2
3	策定経過	参考資料-3
4	精華町地域福祉計画の策定・推進に向けた提言書	参考資料-4
5	せいか隣人まつりの報告（平成20年度実施）	参考資料-5
6	アンケート調査結果の概要	参考資料-25

### 用語解説

# 第1章 計画策定の背景

## 1 社会動向

### (1) 地域福祉計画の背景

#### 介護保険、障害者自立支援法にみる社会福祉法制度の転換

人口が増加し経済が右肩上がりの時代には、行政による福祉サービスが中心でしたが、急速に少子高齢社会が進むことにより、福祉需要の拡大とともにニーズも多様化してきました。そして、人口は減少に転じ、自治体は財政危機に直面することになり、行政の力だけでは福祉課題を解決できない時代を迎えました。

国は、「自己責任のもとで利用者が自らサービスを選ぶ」、「給付に応じた一定の費用を負担する」、「行政は環境づくりを行う」ことをめざして社会福祉の改革を進めています。

このような社会状況の変化に対応して、平成 12（2000）年に介護保険法が施行され、高齢者福祉の分野から改革が行われました。また、障害福祉の分野でも、平成 15（2003）年の支援費制度の導入に続き、平成 18（2006）年には障害者自立支援法が施行され、障害者福祉サービスが一元化されるとともに、障害のある人が地域で暮らせるしくみがつくられています。

#### 「だれもが住み慣れた地域で安心して住み続けることができることをめざす」 地域福祉計画

平成 12（2000）年に社会福祉法が制定され、地域福祉の推進が基本理念の一つとしてかかげられました。社会福祉法第 107 条において、地域福祉計画に盛り込むべき事項（①住民参加の促進策、②事業の発達策、③サービス利用の推進策）が規定され、地域福祉を推進する団体として社会福祉協議会が位置づけられました。

地域福祉計画は、「だれもが住み慣れた地域で安心して住み続けることができる」ことをめざすものです。介護保険事業計画や障害福祉計画のような法定計画ではありませんが、地域住民が主役となって、事業者や行政といっしょに支援を必要としている人を支えていく、新たな計画として期待されています。

表 社会動向の変化と地域福祉

分野	年度	内容
地域福祉	平成 12 (2000) 年度	<b>地域福祉計画の策定</b> 社会福祉法で計画策定を規定(介護保険事業計画や障害福祉計画のような法定計画ではない) 社会福祉法で地域福祉を推進する団体として社会福祉協議会を位置づけ
高齢者福祉	平成 18 (2006) 年度	<b>介護保険制度の改革</b> 持続可能な制度運営 予防重視型・地域密着型へ 地域包括支援センターの設置
障害者福祉	平成 15 (2003) 年度	<b>支援費制度の創設・制定</b> 措置制度から選択契約制へ
	平成 18 (2006) 年度	<b>障害者自立支援法の創設・制定</b> 自立支援の考え方の導入 障害者の地域生活移行・一般就労移行 地域自立支援協議会の設置
子育て支援	平成 15 (2003) 年度	<b>次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画づくり</b> 事業者の行動計画で労働環境整備 地域協議会で地域ぐるみの子育てを

## (2) 地域福祉計画の視点

### 国が示す地域福祉計画の7つの視点

平成 12 (2000) 年度以降、策定が始まった地域福祉計画に対して、国が計画の見直しにかかわる視点を示しています(平成 20 年 3 月)。本町の地域福祉計画策定においても、これらの視点を踏まえることが求められています。

表 地域福祉計画見直しの視点

7つの視点	例示
1 住民が生活課題を発見するしくみを持っていること	住民主催の懇談会など、参加の場が用意されている
2 地域福祉活動の担い手・組織養成の方策があること	地域団体やボランティアなどの人材養成や組織づくりのしくみがある
3 活動拠点、活動資金確保の方策があること	身近な場所や拠点が整備され、活動資金確保のしくみがある
4 取り組みについて圏域が設定されていること	小中学校区など生活に根ざした圏域ごとに取り組みが設定されている

5 地域ケア方策があること	フォーマル、インフォーマルサービスの連携のしくみがあり、相談体制がある
6 災害時要配慮者への支援策があること	防災マップ、お助け隊、見守り隊など、要配慮者への支援策がある
7 圏域ごとの計画が策定されていること	圏域の特徴に応じた取り組み計画がある

出典：「これからの地域福祉のあり方に関する研究会 報告書」平成 20 年 3 月 14 日 厚生労働省

## 2 計画の位置づけ

### 人のつながりや支えあいの弱まり、生活課題を抱える人たちの孤立化

本町では「健康長寿のまちづくり」を重点化政策の柱のひとつに掲げており、高齢者や障害のある人などが安心して暮らせる、支えあいの地域福祉の推進を重視しています。開発地域の人口が増加してきたことにともない、人のつながりや暮らしの支えあいは弱まっていないでしょうか。高齢者世帯や子育て世代など、生活課題を抱える人たちが地域で孤立していないでしょうか。

### 社会福祉協議会の計画と一体的に精華町地域福祉計画を策定

精華町社会福祉協議会（以降、町社協）では、平成 19（2007）年度に第 2 期精華町地域福祉活動計画（以降、活動計画）を策定し、町に先行して民間側の地域福祉の取り組みを進めています。

本町においても、地域福祉における行政の役割や施策・事業を示すことが求められており、町社協の活動計画と一体的に精華町地域福祉計画を策定しています。

### 縦割りの計画や活動を地域・住民参加でつなぐ

本町では、高齢者、障害者、子育て支援など、各々の計画を策定し、担当課が福祉サービスを実施しています。また、ボランティア団体などの地域福祉活動の担い手も、それぞれ専門分野別に活動している状況にあります。

地域福祉計画は、縦割りの計画や地域福祉活動を「地域・住民参加」という横糸でつなぎ、住民のニーズに応じて総合的な福祉サービスを提供することをめざして策定しています。

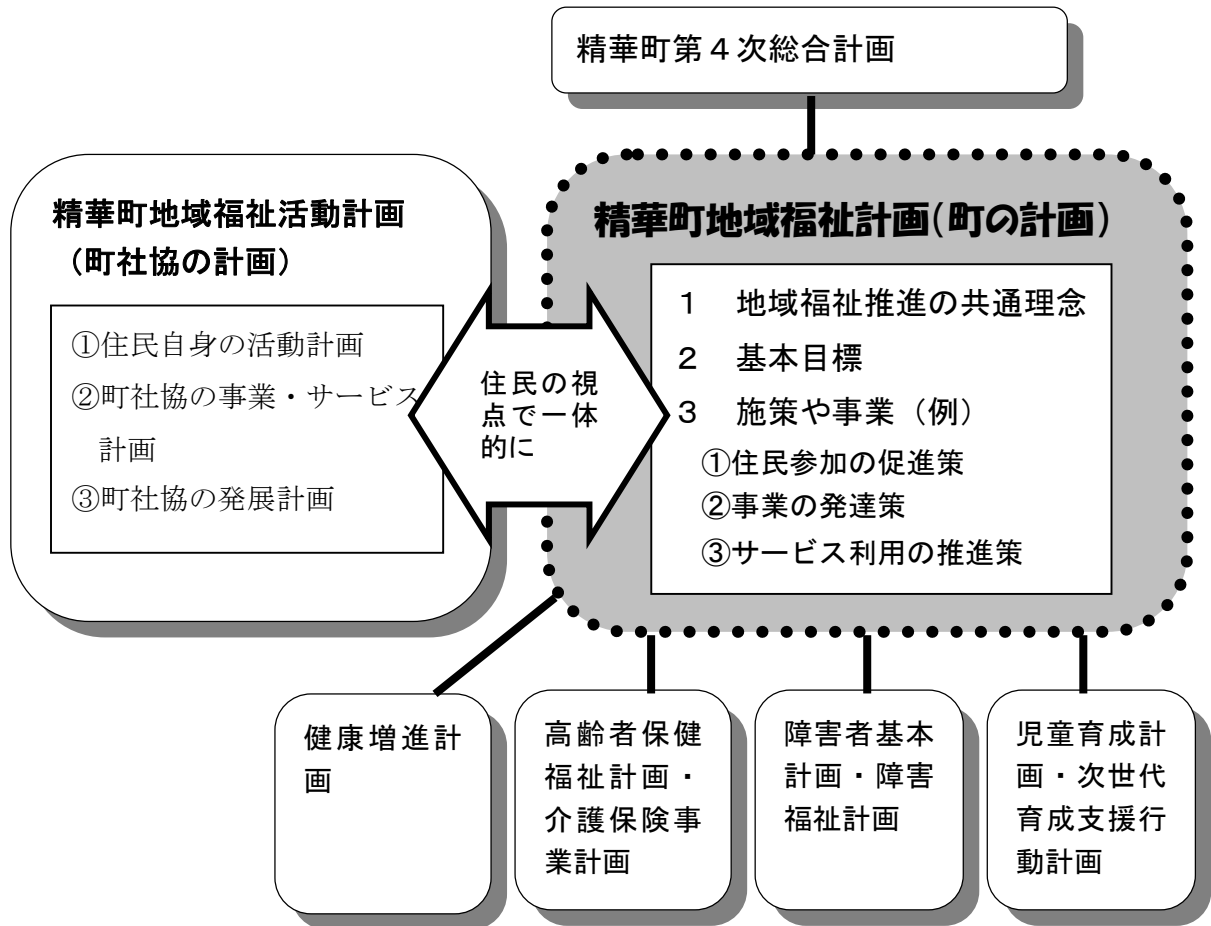


図 計画の位置づけ

### 3 地域福祉活動の担い手と役割

#### 地域福祉活動の多様な担い手の役割が高まっています

支援の必要な人を地域で支えていくためには、住民、地域組織、福祉サービス提供事業者（以降、事業者）、行政といった活動の担い手同士が役割を分担、協働して地域福祉活動を推進していく必要があります。

例えば、一人暮らし高齢者の日常的な安否確認や緊急災害時の支援は、隣近所の住民や自治会が中心的な役割を担い、行政や事業所職員がその活動を支えるなどの役割分担や連携が考えられます。

#### 福祉コミュニティづくりの主体となる住民や地域組織、それを支える専門職

住民や地域組織には、地域福祉活動の中心的な担い手としての役割が、町社協や事業者には、サービスを提供する専門職としての役割が求められます。これらの主体がいっしょになって、福祉コミュニティづくりをめざします。

## 行政による環境整備、町社協による活動支援が求められています

住民や地域組織が主体となり、地域で支えあう力を高めていくために、行政には、本計画に基づく環境整備やしきみづくりが、町社協には、活動計画に基づく住民や地域組織の活動支援が求められています。

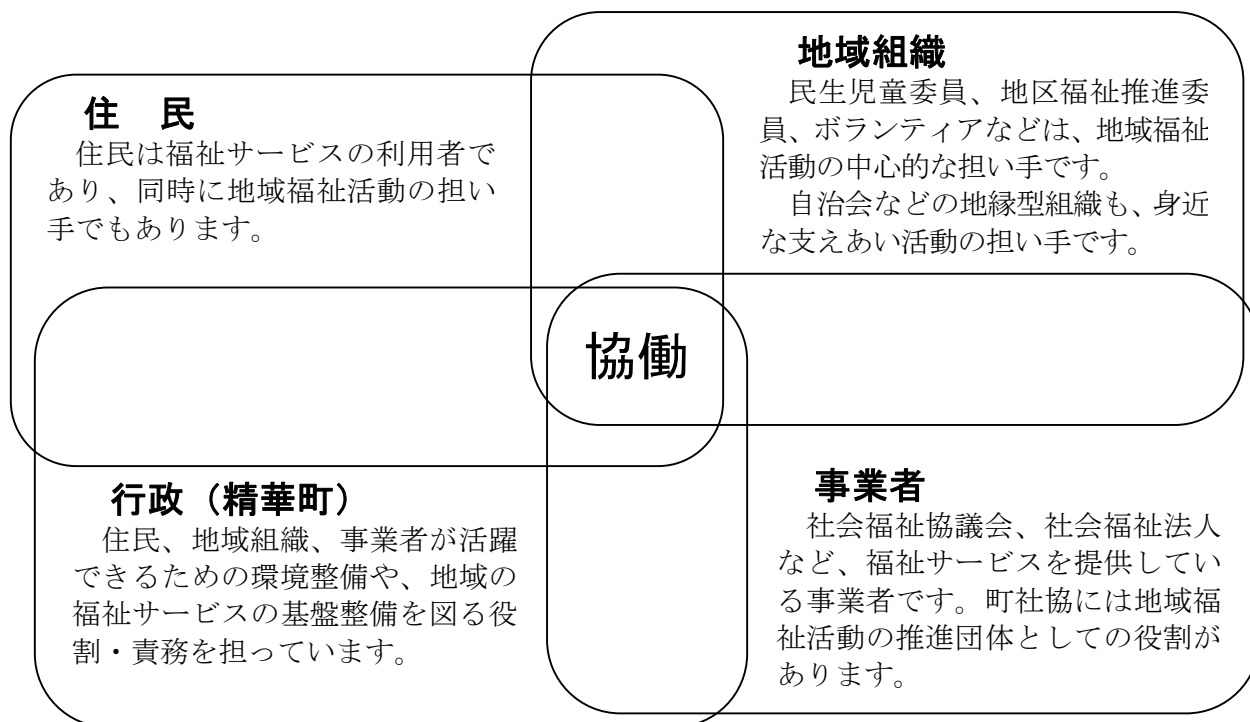


図 地域福祉活動の担い手と役割

## 4 計画期間

本計画は、平成 21（2009）年度から平成 25（2013）年度までの 5 年間を計画期間とします。なお、社会動向の変化や計画の進捗状況に対応して、計画の見直しを行います。

## 5 計画の進行管理のしくみ

住民側の計画の進行管理組織として「地域福祉推進ネットワーク会議」を位置づけ、計画期間の中間年度や最終年度において、計画の進捗状況の評価を行います。本計画策定段階の地域福祉計画作業部会（以降、作業部会）の取り組みを生かして、計画の実践段階においても住民主体の柔軟な推進を支援します。

あわせて、「地域福祉にかかわる庁内調整会議」を立ち上げて、庁内の施策連携を図ることによって、計画の実践を支援します。



## 第2章 精華町地域福祉計画

### 1 理念

#### 世代をこえて安心して住めるまちをめざして

本町においては、開発地域の人口増加とともに、人のつながりや暮らしの支えあいが弱まっています。高齢者や障害のある人、子育て層、外国人など、生活課題を抱える人たちの孤立を防ぎ、人権を守っていくことが求められています。

住民が主体となって地域で支えあう力を高めていくことを支援し、世代をこえて安心して住めるまちをめざします。

### 2 方針

#### 1 新旧地域の交流や人のつながりづくり

本町は既存地域（以降、旧地域）や、昭和40年代以降に開発された地域や学研地域など（以降、新地域）といった多様なコミュニティで構成されており、相互理解を図る、お互いの地域課題を共有するなどの取り組みによって、新旧地域の交流や人のつながりづくりを進めます。

#### 2 身近な人とのつながりと支え合いづくり

住民によるより身近な小地域活動を支援することにより、身近な人とのつながりと支え合いを広げていきます。

#### 3 自立をめざす新しい校区圏域のまちづくり

人口規模に応じたよりきめ細やかな行政サービスや、住民の主体的な地域福祉活動を支援していくために、小中学校を単位とした新しい校区圏域のまちづくりを進めます。

#### 4 地域福祉の担い手養成と連携

地域福祉活動の総合的な推進をめざして、担い手の養成を図るとともに、フォーマル、インフォーマルな担い手同士の連携や、活動計画との連携を図ります。

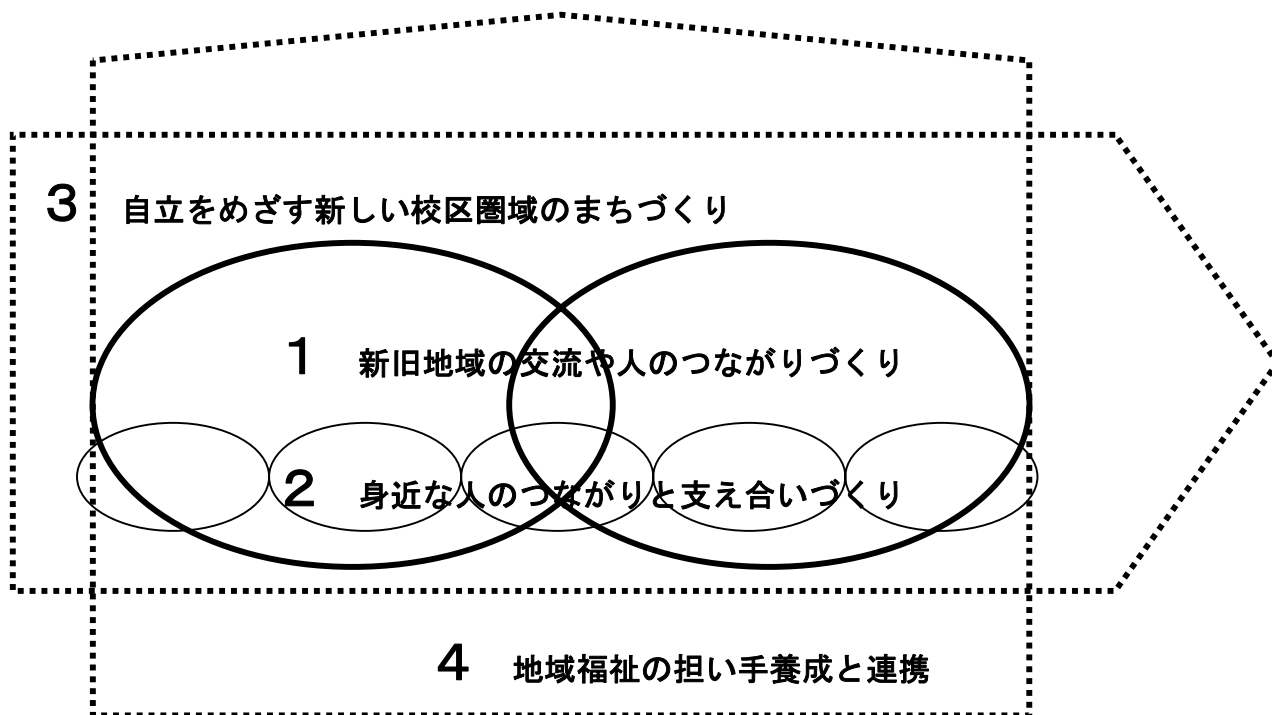


図 計画の方針

### 3 施策体系

表 施策体系

施策	事業	内容
1 住民主体の担い 手養成と中心組 織づくり	(1)せいか隣人まつり(交流・ 気づき・問題解決機能) の活動支援	・せいか隣人まつり、各小中学校区別作業部会などの 新たな活動の支援
	(2)小地域活動の立ち上げ 支援	・せいか隣人まつりなどの校区圏域の活動と連携した 小地域活動の立ち上げ支援
	(3)多様なボランティアの養 成支援	・社会福祉協議会と連携した多様なボランティアの養 成支援
	(4)自治会活性化策の検討	・町政協力員との連携、校区圏域の自治組織や自治会 活性化策の検討
2 専門職や担い手 同士の連携	(5)身近な相談拠点、情報 発信	・自治会未加入者を含めた、サービス情報の発信や身 近な相談体制のしくみづくり
	(6)総合相談窓口体制や地 域ケア会議の開催	・総合相談窓口体制づくりと地域ケア会議(地域包括 支援センター、障害者生活支援センター、子育て支 援センター等の連携)の立ち上げ、連携
3 防災・防犯の安全 安心づくり	(7)緊急災害時の要配慮者 支援、自主防災組織の取 り組み支援	・要配慮者登録制度と連携した『声かけ!せいか隊』 の実施の支援
	(8)防犯推進委員会の取り 組み支援	・防犯推進委員会の活動拡大の支援
4 身近な居場所づ くり	(9)地域ぐるみの子どもの遊 び場づくり	・子育て層を中心とした取り組みの支援 ・子育て支援施策との連携
	(10)コミュニティ・カフェ	・誰もが集える居場所づくり ・障害者地域自立支援協議会と地域福祉計画の連携
	(11)身近な民家活用の支援 策	・身近な居場所づくりの場として、民家のリフォーム 費負担や契約の支援
	(12)身近な拠点の再整備	・集会所について、一時避難場所や地域福祉の拠点な どとして段階的に再整備
5 学校と地域のつ ながりづくり	(13)地域ぐるみの子どもの 安全安心事業	・スクールヘルパー連絡会議の全校区設置
	(14)地域ぐるみの子育て支 援、福祉学習、環境学習 のしくみづくり	・精華学び体験教室と学童保育の地域ぐるみの連携、 地域ぐるみの福祉教育
6 精華ならではの 環境を生かした 人のつながりづ くり	(15)環境にかかわる自治会 や地域の取り組み支援	・環境ネットワーク会議と連携した地域の取り組み支 援
	(16)ペットによる人のつな がりづくりとマナー向上	・マナー改善の働きかけとペットによる人のつながり の支援
	(17)里山や農園、特産品に よる人のつながりづくり	・里山や農園、特産品、地産地消を活用した人のつな がりづくり
	(18)学研都市の住民活動グ ループなどとの連携	・精華町ならではの学研都市の住民活動グループなど との連携
	(19)健康づくり活動グル ープなどとの連携	・健康づくりの施策と地域福祉の施策を連携させて、 健康づくりと人のつながりづくり

## 4 重点事業

### 優先度の高い事業について役割分担を明確にする

地域には、さまざまな課題があるなかで、人材・予算・時間などの制約があるため、それらのすべてに取り組むことは難しい状況があります。

本計画作業部会（以降、作業部会）では、『せいか隣人まつり』を通して、住民の方々から出された意見の分析を行い、すぐに取り組むべきと思われる事業の中から優先順位の高い19の事業を選出しました。

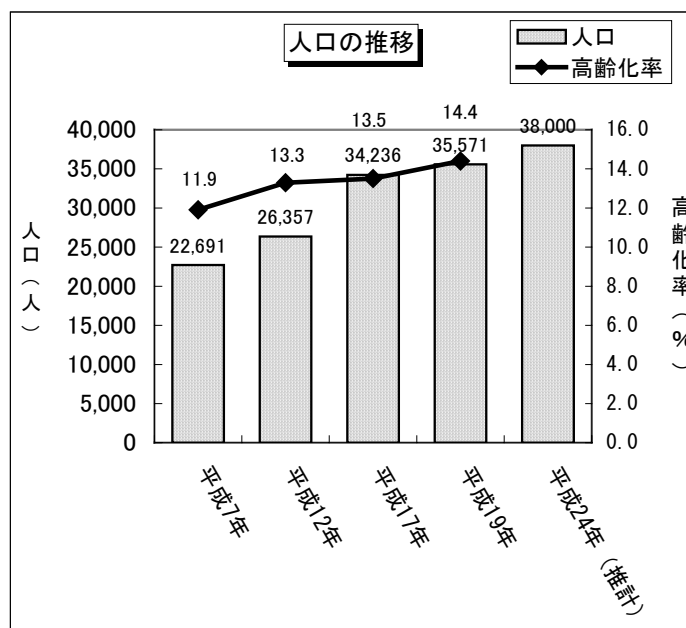
そして、本計画策定委員会では、これらの提案をもとに重点事業として定め、取り組むべき内容や住民、地域組織、事業者、行政それぞれが実施すべきことなどを整理しています。

## 4-1 住民主体の担い手養成と中心組織づくり

### ■ 現状と課題

#### コミュニティの希薄化から、人のつながりや支えあう力が弱まっています

新地域の開発に伴う人口の増加は、若い世代の流入によるものが大きかったことから、町全体では高齢化の進行は緩やかです。一方で、人口の急激な増加傾向は落ち着きつつあり、今後の急速な少子高齢化に対して準備しておくことが求められています。



#### 各圏域（中学校区）で地域特性が大きく異なっています

本町では、中学校区ごとに開発時期が異なるミックスコミュニティとなっていることから、それぞれの圏域（中学校区）の中で地域特性（少子高齢化の進行や環境整備）が大きく異なっています。

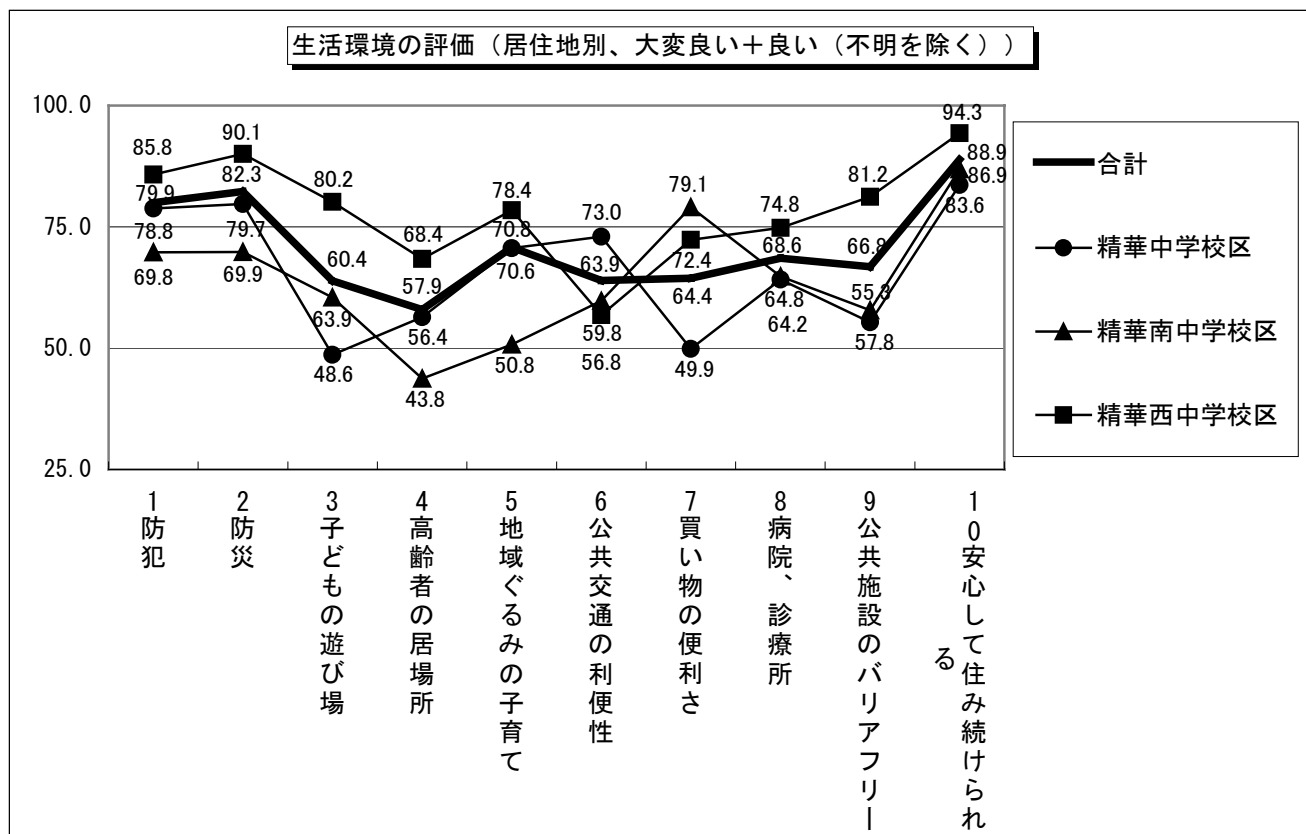
表 地域の高齢化率など

(平成 21 年 8 月 1 日現在)

	地 区	人 口	世帯数	65 歳以 上人口	高 齢 化 率	一 人 暮 らし高 齢者	一 人 暮 らし高 齢者率	0~14 歳人口	年少 人口率
精華 中学校	里	318	110	105	33.0%	10	9.5%	29	9.1%
	谷	326	118	103	31.6%	22	21.4%	24	7.4%
	旭	84	40	19	22.6%	6	31.6%	11	13.1%
	北稲八間	728	290	210	28.8%	37	17.6%	83	11.4%
	南稲八妻	1,013	421	296	29.2%	61	20.6%	143	14.1%
	植田	715	300	212	29.7%	37	17.5%	66	9.2%
	菅井	303	105	105	34.7%	14	13.3%	32	10.6%
	中	452	166	119	26.3%	18	15.1%	55	12.2%
	東	620	282	134	21.6%	49	36.6%	91	14.7%
	西北	301	108	92	30.6%	19	20.7%	29	9.6%
	舟	933	345	202	21.7%	27	13.4%	95	10.2%
	滝ノ鼻	639	238	134	21.0%	20	14.9%	79	12.4%
	菱田	1,510	559	295	19.5%	50	16.9%	235	15.6%
	僧坊	1,583	640	317	20.0%	72	22.7%	237	15.0%
	南	2,017	832	438	21.7%	95	21.7%	306	15.2%
	北ノ堂	841	348	237	28.2%	45	19.0%	93	11.1%
	馬淵	470	193	127	27.0%	21	16.5%	41	8.7%
	中久保田	519	185	37	7.1%	4	10.8%	46	8.9%
	祝園西	1,011	440	115	11.4%	25	21.7%	177	17.5%
	小計	14,383	5,720	3,297	22.9%	632	19.2%	1,872	13.0%
精華 南中学校	山田	652	252	199	30.5%	40	20.1%	56	8.6%
	乾谷	436	151	149	34.2%	16	10.7%	38	8.7%
	柘榴	330	115	104	31.5%	11	10.6%	21	6.4%
	桜が丘	5,578	1,913	618	11.1%	98	15.9%	933	16.7%
	小計	6,996	2,431	1,070	15.3%	165	15.4%	1,048	15.0%
精華 西中学校	東畑	759	238	243	32.0%	33	13.6%	94	12.4%
	光台	7,636	2,594	843	11.0%	134	15.9%	1,610	21.1%
	精華台	6,163	1,865	356	5.8%	58	16.3%	1,856	30.1%
	小計	14,558	4,697	1,442	9.9%	225	15.6%	3,560	24.5%
合計		35,937	12,848	5,809	16.2%	1,022	17.6%	6,480	18.0%

既存地域 (旧地域)	旧居住地域の農村型コミュニティ
昭和地域	昭和 40 年代以降の住宅開発コミュニティ
学研都市地域	学研都市地域の開発コミュニティ

平成20年7月に実施したアンケート調査の結果では、生活環境のすべての項目で満足度は50%以上となっていますが、「高齢者の居場所」「子どもの遊び場」「公共交通の利便性」「買い物の便利さ」などについて評価に地域差が生じています。



### 人のつながりづくりによる隣人力の強化が求められています

『せいか隣人まつり』で寄せられた意見で最も多かったのは「人のつながりづくり」であり、3つの中学校区に共通した課題となっています。近所の人同士や、年齢を超えた付き合い、新地域と旧地域のかかわりが少ないことから、『隣人力』の強化が必要ではないかといった意見が出されています。

また、アパート、マンションの住民が自治会に入らず協力が得られないことや、学校と地域との関係が弱くなっていること、養護学校に通う障害のある子どもは地域との付き合いが少ない、といった意見もありました。

次いで多かった意見は、「マナーなどの人とのかかわり」、「ごみなどの環境美化、環境の保全」です。犬のふん、ごみ、迷惑駐車などの問題が出されており、日常的なコミュニケーションや人のつながりが薄れてしまったことが、これらの問題の背景として考えられます。

### 町全体の共通課題

人のつながりづくり  
マナーなどの人とのかかわり  
地域ぐるみの子育て支援  
世代間などの交流  
地域福祉の担い手の養成  
情報の共有  
医療・福祉サービスの充実  
行政との連携

### 地域性のある課題

駅前周辺のまちづくり（精中校区）  
買い物などの利便性（精中校区）  
公共公益施設の整備（西中校区）

ごみなどの環境美化、環境の保全  
防災・防犯などの安全安心  
道路・公共交通の充実

### 地域福祉周辺の課題



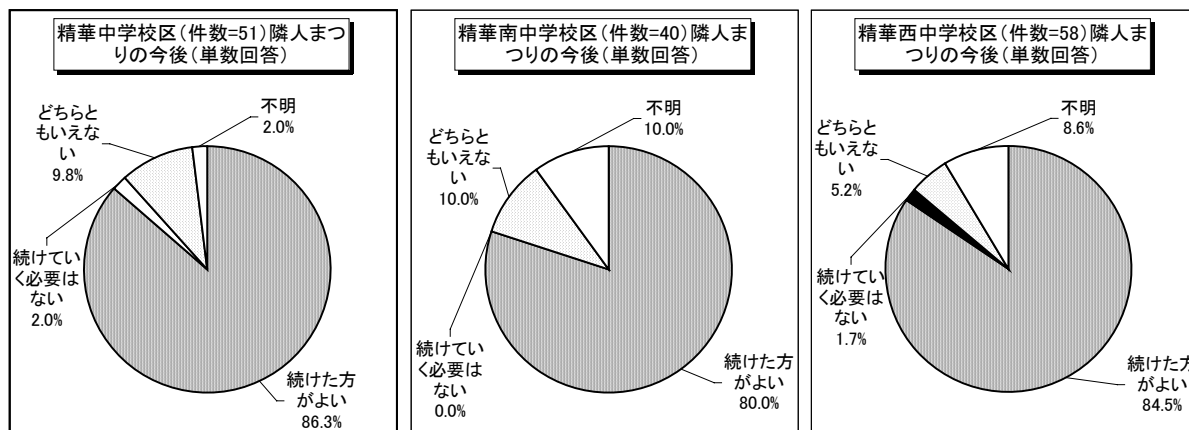
図 せいか隣人まつりの主な意見（地域福祉における課題）



## 新旧地域の交流や横のつながりをつくる場が求められています

今後の『せいか隣人まつり』の開催に関しては、「続けた方がいい（精中学校区 86.3%、精華南中学校区 80.0%、精華西中学校区 84.5%）」という声が多く寄せられました。その理由として「いろいろな声を聞く場が必要」「住民の声を聞くことができ、相互理解ができる」「新旧地域の交流を図る一手段となる」「横のつながりができる」などの回答がありました。

本町では、新旧のコミュニティが混在していることから、地域間の結びつきの弱さを生じています。地区単位の取り組みに加えて、新旧住民間、地域間の人をつながりをつくっていくことにより、地域福祉の活力につなげ、支え合う力を高めていくことが課題となっています。



## 地域福祉の取り組みは小中学校圏域ではなく、自治会の単位となっています

介護保険では、おおむね中学校区圏域（A圏域：精華中学校区、B圏域：精華南・西中学校区）を日常生活圏域として、身近な地域で介護サービスを提供することをめざしています。

しかし、町社協の地域福祉活動計画では、地区単位の小地域福祉委員会活動を重点事業として位置づけています。地域福祉の中心組織は、小中学校圏域ではなく地区単位とし、地区単位の高齢者ふれあいサロンや子育てサロンの拡大を図っています。

また、自治会活動は、地区単位の自治組織が活動しており、全町または小中学校区単位の連自治協議会は、ほとんど組織されていない状況です。

表 地区ごとの小地域福祉委員会、高齢者ふれあいサロン、子育てサロン

地域	地区	小地域福祉委員会	高齢者ふれあいサロン	子育てサロン
精華中学校	里		○	○
	谷	●	○	
	旭			
	北稲八間	●	○	
	南稲八妻	●	○	
	植田	●	○	
	菅井			
	中			
	東		○	
	西北			
	舟		○	
	滝ノ鼻		○	
	菱田	●	○	
	僧坊		○	
	南			○
	北ノ堂	●	○	
	馬淵		○	
	中久保田			
	祝園西一丁目			○
	精華南中学校	山田		
乾谷			○	
柘榴			○	
桜が丘一丁目				○
二丁目			○	
三丁目			○	○
四丁目				○
エスペローマ				
精華西中学校	東畑			○
	光台四丁目			○
	五丁目		○	○
	六丁目	●	○	○
	七丁目	●		○
	八丁目			○
	九丁目			○
	精華台一丁目			○
	二丁目	●		○
	三丁目			○
	四丁目	●	○	○
	一丁目トノキ			
	二丁目インガス			
	アス・マニッシュコート			
全町の活動		—	—	2
合計		10カ所	19カ所	19カ所

(平成21年8月現在)

既存地域（旧地域）	旧居住地域の農村型コミュニティ
昭和地域	昭和40年代以降の住宅開発コミュニティ
学研都市地域	学研都市地域の開発コミュニティ

## 過半数が自治会などの地域団体に参加していますが、若い世代は消極的です

回答者の過半数が自治会活動に参加していますが、若い世代は参加に消極的であり、特に学研都市の若い居住者層は自治会に入っていないことが予想されます。

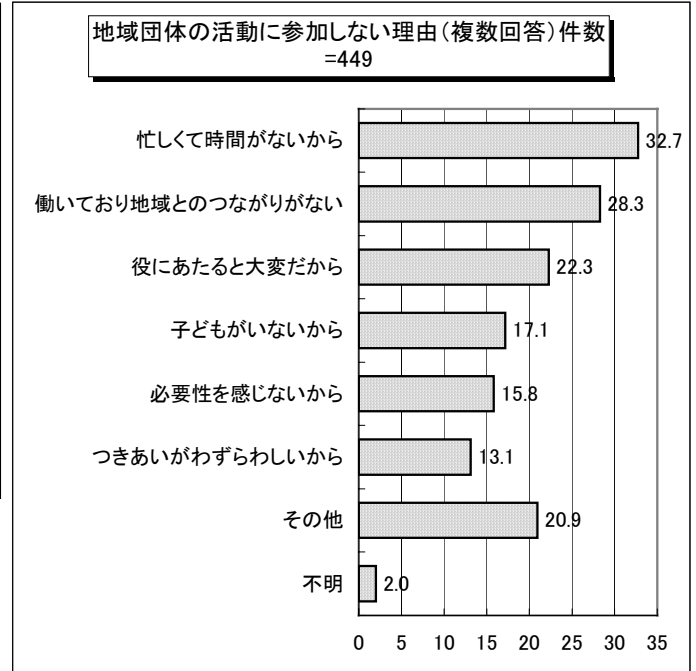
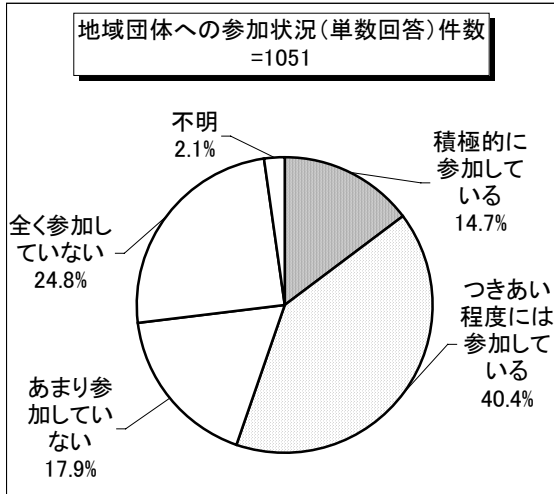


表 若い世代について地域団体の必要性

	全体	大いに必要	どちらかといえば必要	ある程度は必要	あまり必要とは思わない	わからない	不明
合計	1051	220	250	380	45	92	64
%	100.0	20.9	23.8	36.2	4.3	8.8	6.1
20、30歳代	67	5	9	26	0	24	3
%	100.0	7.5	13.4	38.8	0.0	35.8	4.5

## 1/4 はボランティアや NPO 活動の経験があり、若い世代を中心に 3 割弱は参加意向があります

回答者全体の 4 分の 1（25.3%）がボランティアや NPO への参加経験があります。20、30 歳代でも約 2 割（20.9%）は参加経験があり、3 割弱（28.3%）は今後の参加意向があります。

自治会などの地域組織への参加は消極的ですが、ボランティアや NPO などの活動への参加には期待できます。

表 年齢（3 区分）×ボランティアや NPO への参加状況

	全体	参加している	参加したことがある	参加したことがない	不明
合計	1051	88	178	762	23
%	100.0	8.4	16.9	72.5	2.2
20、30 歳代	67	3	11	53	0
%	100.0	4.5	16.4	79.1	0.0
40、50 歳代	363	16	57	290	0
%	100.0	4.4	15.7	79.9	0.0
60 歳代以上	553	63	102	375	13
%	100.0	11.4	18.4	67.8	2.4
不明	68	6	8	44	10
%	100.0	8.8	11.8	64.7	14.7

表 年齢（3 区分）×今後の参加意向

	全体	是非参加したい	機会があれば参加したい	あまり参加したいとは思わない	どちらともいえない	不明
合計	1051	6	252	215	216	73
%	100.0	0.8	33.1	28.2	28.3	9.6
20、30 歳代	67	0	15	18	17	3
%	100.0	0.0	28.3	34.0	32.1	5.7
40、50 歳代	363	2	108	81	70	29
%	100.0	0.7	37.2	27.9	24.1	10.0
60 歳代以上	553	3	124	102	111	35
%	100.0	0.8	33.1	27.2	29.6	9.3
不明	68	1	5	14	18	6
%	100.0	2.3	11.4	31.8	40.9	13.6

## 地域福祉の担い手養成の課題があります

『せいか隣人まつり』における議論では、「地域福祉の担い手の養成」についてボランティアの高齢化や担い手不足の問題が指摘されており、男性や高齢者のボランティアへの参加を進めるべきといった意見がありました。

また、人材確保のために、養成講座を修了した人の交流を深め、各団体間の横のつながりづくりを進めようといった意見がありました。若い層もボランティアや NPO などの活動には参加が期待できることから、必要性に応えることができるような多様な参加の機会をつくっていくことが求められています。

## ■ 取り組みの内容

### (1)せいか隣人まつりの活動支援

本町の地域福祉活動は、自治会単位の小地域福祉委員会活動が中心となっています。一方で、コミュニティやまちづくり施策は、小中学校区圏域での実施が方向づけられています。

本計画策定段階の住民参加の試みとして作業部会が行った『せいか隣人まつり』は、中学校区単位で実施しましたが、住民の交流や気づき、問題解決につながる集いの場となりました。参加者から継続すべきとの声が多く寄せられ、次年度以降はテーマを絞り、より身近な地区で開催するなどの提案も出されています。さらに、作業部会では、計画を策定後も引き続き実践段階に参加していこうという声があがっています。

計画を実践していくために、『せいか隣人まつり』の推進組織の立ち上げや実践活動の支援など、小中学校区圏域での活動支援について検討していきます。

### (2)小地域活動の立ち上げ支援

町社協では、小地域福祉委員会の立ち上げや活動の継続を支援しています。年間5カ所の立ち上げを目標とし、活動の継続に向けて2年間の活動費助成を行っています。

校区圏域の横断的な組織である『せいか隣人まつり』の推進組織と小地域福祉活動のメンバーが連携することによる、小地域活動の立ち上げや継続の支援について検討します。『せいか隣人まつり』では、自治会長などとの連携を強めることにより、新たな小地域活動の立ち上げにつなげていきます。

### (3)多様なボランティアの養成支援

本町では、さまざまな目的をもつボランティア団体や、会員制の支え合いであるふれあいサポート、緊急災害時や日常の見守りを担う『声かけ！せいか隊』など、多様なボランティアが活動しています。町社協はボランティアセンターにおいて、それらのコーディネートを行っています。

ボランティアの高齢化や人材不足、活動ニーズの多様化に 대응していくことが課題となっており、『せいか隣人まつり』では地域単位のボランティア養成や講座終了後の交流、ネットワークづくりなどの提案もありました。

本町と町社協、ボランティア連絡協議会が連携を図り、団塊世代や男性のボランティア養成の取り組みについて検討します。また、ボランティア参加を希望する住民を支援するボランティア・アドバイザーの導入について検討します。

#### **(4)自治会活性化策の検討**

本町では、おおむね自治会長が兼務する町政協力員に町広報誌や議会だよりなどの配布を依頼し、あわせて自治会加入の働きかけを行っています。

しかし、『せいか隣人まつり』の意見にもあったように、少子高齢化とともに自治会の脱会者が増えており、自治会未加入者に情報が届かない、将来的に清掃などの自治活動が維持できなくなるおそれがあるなどの課題が生じています。

小地域福祉委員会は自治会が母体となっており、本町の地域福祉活動において、自治会の役割が重要となっています。校区単位の連合自治会の設置や自治会の活性化推進策の検討など、自治会を中心とした住民主体のまちづくりの取り組みについて検討します。

## 4-2 専門職や担い手同士の連携

### ■ 現状と課題

#### 居住年数5年未満の転入層への対応が求められています

アンケート調査の結果では、居住年数5年未満の回答者の約4割は、近所の「手助けを得ることが難しい」と答えています。

なかでも、精華西中学校区の回答者の4分の1は居住年数5年未満であり、孤立化のおそれがあります。

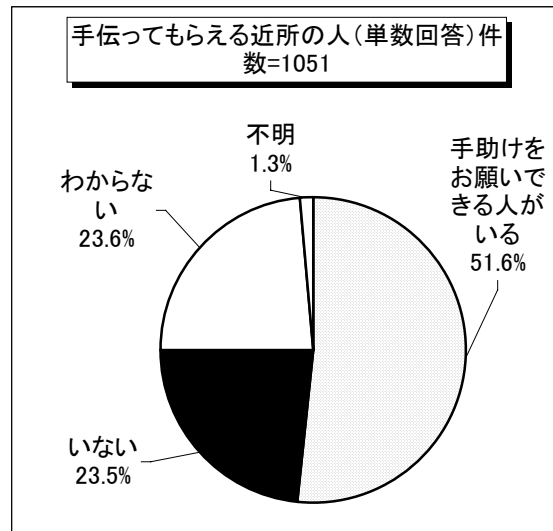


表 居住年数×隣近所とのつきあい

	全体	親しくおつきあいの家がある	自治会や隣近所の行事だけつきあう	道で会えばあいさつする程度	近所づきあいはほとんどない	わからない	不明
合計	1051	484	185	292	62	10	18
%	100.0	46.1	17.6	27.8	5.9	1.0	1.7
5年未満	165	39	28	59	33	5	1
%	100.0	23.6	17.0	35.8	20.0	3.0	0.6
5～10年未満	232	102	49	69	7	2	3
%	100.0	44.0	21.1	29.7	3.0	0.9	1.3
10～15年未満	160	58	32	57	9	1	3
%	100.0	36.3	20.0	35.6	5.6	0.6	1.9
15～20年未満	92	42	20	26	3	0	1
%	100.0	45.7	21.7	28.3	3.3	0.0	1.1
20年以上	392	240	56	76	10	2	8
%	100.0	61.2	14.3	19.4	2.6	0.5	2.0
不明	10	3	0	5	0	0	2
%	100.0	30.0	0.0	50.0	0.0	0.0	20.0

**表 居住年数×隣手伝ってもらえる近所の人**

	全体	手助けをお願いできる 人がいる	いない	わからない	不明
合計	1051	542	247	248	14
%	100.0	51.6	23.5	23.6	1.3
5年未満	165	49	68	48	0
%	100.0	29.7	41.2	29.1	0.0
5～10年未満	232	112	69	48	3
%	100.0	48.3	29.7	20.7	1.3
10～15年未満	160	72	46	39	3
%	100.0	45.0	28.8	24.4	1.9
15～20年未満	92	36	17	38	1
%	100.0	39.1	18.5	41.3	1.1
20年以上	392	266	47	72	7
%	100.0	67.9	12.0	18.4	1.8
不明	10	7	0	3	0
%	100.0	70.0	0.0	30.0	0.0

### **町社協が地域福祉活動の要となっています**

介護サービス・介護予防サービスは、町社協を中心にサービスが提供されています。町社協は、地域ケア体制の要である地域包括支援センターにおいて、介護予防から介護サービスまでのフォーマルサービスを一貫して提供しています。また、ボランティアの養成を行ったり、ボランティアセンターを運営しており、地域福祉活動の要となっています。

### **包括的な地域ケアの拠点としての地域包括支援センターの充実**

包括的な相談窓口として、地域包括支援センターの周知を図り、そして介護予防の成果を上げるために、民生児童委員やボランティアなどとのネットワークを構築していくことが課題となっています。

### **多様なサービス提供事業所が障害のある人の生活を支援しています**

障害者生活支援センターを相談拠点として、サービス提供事業所が障害のある人への日中活動や居住の場を提供し、障害のある人の地域生活を支援しています。また、小中学校の障害児学級、学童保育の障害児受け入れについても支援し、長期休暇時についても、障害のある人に対する事業が行われています。

また、就労支援については、町単独では限界あることから、障害者地域自立支援協議会において就労支援部会を立ち上げ、関係機関や学校等と連携して取り組んでいます。



### **障害のある人と地域とのかかわりはこれからの課題です**

グループホームでは、自治会の清掃などの行事に参加していますが、障害のある人と地域住民とのかかわりについては、まだまだ弱い状況があります。本計画策定時のワークショップでも、障害のある人に対する近隣住民の理解や、障害のある人と地域とのかかわりを充実させたいという意見や、災害時の避難訓練や防災訓練に参加したいという障害のある人の要望もあり、障害のある人と地域とのかかわりはこれからの課題となっています。

また、障害者ボランティアの拡大に向けて、町社協のボランティアコーディネーターと連携できないかといった意見もありました。

### **高齢者福祉、障害者福祉、子育て支援のフォーマルサービスに対する意見がありました**

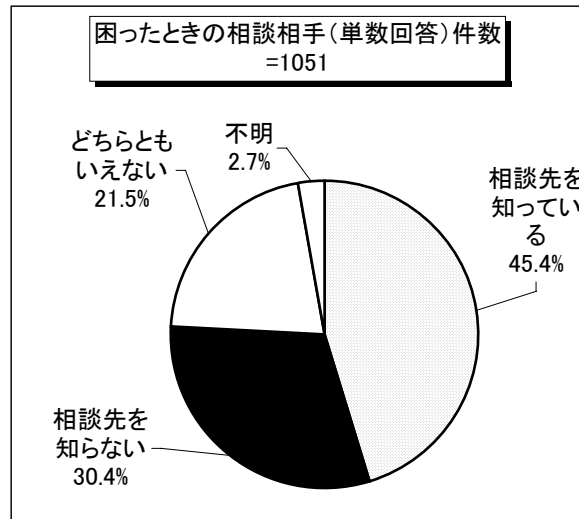
『せいか隣人まつり』の議論では、「地域ぐるみの子育て」についても、3つの中学校区に共通した課題となっていました。旧地域では、子どもの減少が問題視されている一方で、新地域では、核家族の子育て不安などから、子どもに声かけのできる地域を求める意見がありました。

そのほかに、核家族の父母の就労支援、病児保育や病後児保育といった課題や、子どもが大声で遊んだり、ボール遊びをしたり、安心して子どもを遊ばせることができる場がないといった意見がありました。

「医療・福祉サービスの充実」では、一人暮らし高齢者をどのように見守っていくか、学校卒業後の障害のある人の居場所づくりが必要である、小児科の救急医療の受け入れ先が限られているなど、福祉サービスの充実についての意見がありました。

## 情報入手として身近な相談先の充実

アンケート調査では、若い世代ほど情報の入手先はインターネットなど、多岐に渡っています。一方で、高齢者は町広報や病院などから情報収集を行っています。『せいか隣人まつり』では「行政との連携」について、町民のニーズの把握不足や福祉活動の広報(町広報誌に各団体の活動紹介等)の充実などの意見がありました。



相談先としての民生児童委員の認知度は約5割で、うち4割は地域委員を知っています。情報入手として身近な相談先の充実が求められています。

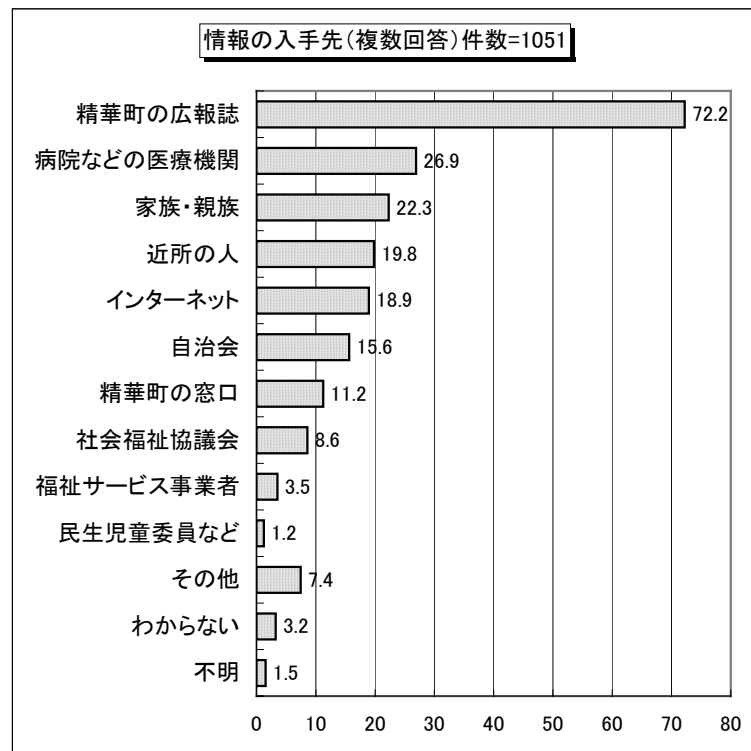


表 年齢（3区分）×情報の入手先

	全体	精華町の広 報誌	病院などの 医療機関	家族・親族	近所の人	インターネ ット	自治会
合計	1051	759	283	234	208	199	164
%	100.0	72.2	26.9	22.3	19.8	18.9	15.6
20、30 歳代	67	24	6	26	5	24	4
%	100.0	35.8	9.0	38.8	7.5	35.8	6.0
40、50 歳代	363	280	72	62	69	107	51
%	100.0	77.1	19.8	17.1	19.0	29.5	14.0
60 歳代以上	553	421	183	121	122	65	99
%	100.0	76.1	33.1	21.9	22.1	11.8	17.9

表 年齢（3区分）×困った時の相談先の有無

	全体	相談先を知 っている	相談先を知 らない	どちらとも いえない	不明	非該当
合計	1051	477	320	226	28	0
%	100.0	45.4	30.4	21.5	2.7	0
20、30 歳代	67	15	34	18	0	0
%	100.0	22.4	50.7	26.9	0.0	0
40、50 歳代	363	112	151	99	1	0
%	100.0	30.9	41.6	27.3	0.3	0
60 歳代以上	553	314	120	103	16	0
%	100.0	56.8	21.7	18.6	2.9	0
不明	68	36	15	6	11	0
%	100.0	52.9	22.1	8.8	16.2	0

## ■ 取り組みの内容

### (5)身近な相談拠点、情報発信

本町に転入したばかりの新住民や、要配慮者の孤立化防止、人のつながりづくりが課題となっています。

情報入手の方法は多様化する中で、商業施設や医療施設と連携して情報提供を行うなど、フォーマルサービスにつなげる前段階の身近な情報収集や相談の体制づくりについて検討します。

### (6)総合相談窓口体制や地域ケア会議の開催

高齢者福祉では、町社協が地域包括支援センターを運営しており、ボランティア支援から介護保険サービスの提供まで一貫したサービス提供を行っています。

障害者福祉では、障害者生活支援センターが広域的に総合相談を行っており、子育て支援では、町立こまだ保育所内の子育て支援センターが町内拠点としての役割を担っています。

障害者福祉では、平成 19 年度に障害者地域自立支援協議会が設置され、人のつながりを広げて新たな取り組みが始まっています。

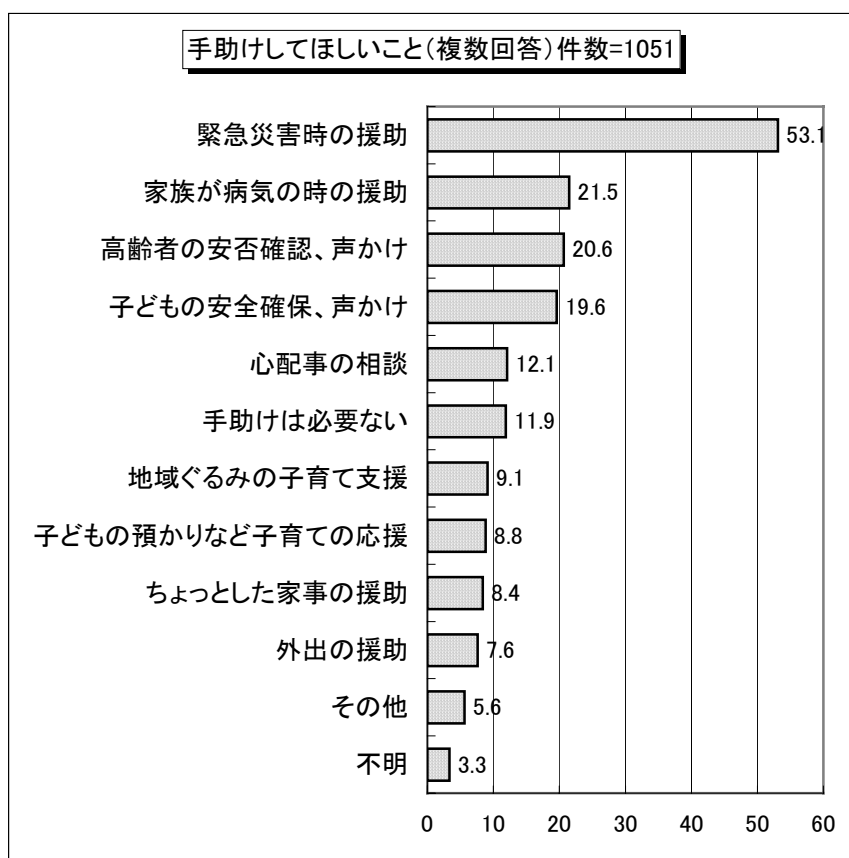
縦割りになりがちな専門職によるサービス提供を連携させていくこと、フォーマル・インフォーマルなサービス提供を連携させていく必要があることから、総合的な相談窓口体制と地域ケア会議の開催について検討します。

## 4-3 防災・防犯の安全安心づくり

### ■ 現状と課題

#### 全町的な対応が求められている緊急災害時の援助

アンケート調査項目の手助けをお願いしたいことでは、緊急災害時の援助が突出しており、全町的な対応が求められています。『せいか隣人まつり』では、「隣近所とのつながりが失われており、災害に弱いのではないか」「消防団を含めた自主防災組織が必要ではないか」という意見がありました。



#### 身近な自治会の自主防災組織づくりや要配慮者支援が課題となっています

本町では、緊急災害時に備えて、住民による自主的な防災の取り組みを支援しています。約半数の自治会で自主防災組織が立ち上がっており、小学校区ごとの防災マップづくりや避難訓練などが行われていますが、活動に地域差が生じており、全町的な取り組みの拡大が課題となっています。

本町の災害時要配慮者登録制度では、民生児童委員を中心とした要配慮者の申請登録による要配慮者台帳づくりが進められています。あわせて、町社協では、台帳

をもとに緊急災害時のお助け隊や日常の見守り活動を行う『声かけ！せいか隊』の事業が始まっています。

身近な自治会での人のつながりを再確認するとともに、緊急災害時だけでなく日常生活においても、支援を求める人と支援する人を結びつけていくことが課題となっています。

### **身近な地域の自主防犯の取り組み支援が課題となっています**

本町では狛田、祝園、光台、精華台の4支部において、防犯にかかわる住民の自主組織として防犯推進委員会が活動しています。

委員会の活動としては、防犯パトロールや外灯設置、住民へのPRなどが行われていますが、活動に地域差が生じており、全町的な取り組みの拡大が課題となっています。

## **■ 取り組みの内容**

### **(7)緊急災害時の要配慮者支援、自主防災組織の取り組み支援**

本町における要配慮者登録制度の広報活動を進め、登録の促進を図ります。

また、町社協の取り組みである『声かけ！せいか隊』と連携して、身近な自治会における緊急災害時や日常生活での支援を形にしていきます。

### **(8)防犯推進委員会の取り組み支援**

4支部の活動成果を広報することや交流の場づくりなどを支援することによって、防犯推進委員会の全町的な拡大をめざします。

## 4-4 身近な居場所づくり

### ■ 現状と課題

#### 高齢者や子育て層、障害児者の身近な居場所づくりが求められています

アンケート調査では、町社協の認知度は7割弱、小地域福祉活動や小地域福祉委員会の認知度は4割弱となっています。

高齢者世帯の6割弱は高齢者サロンを知っており、未参加層の約2割に参加意向があります。また、子育て世帯の3割弱は子育てサロンを知っており、未参加層の4分の1に参加意向があります。これらの身近な居場所づくりの必要性に応じていくことが課題となっています。

『せいか隣人まつり』では、子育て層から、身近な子どもの遊び場、ボール遊びができる場づくりなどの課題が提起されており、空き地の活用や住民による運営など具体的な取り組みが提案されています。

障害者地域自立支援協議会では、障害児者の身近な居場所づくりとしてコミュニティ・カフェの実現に向けて検討が進められています。

#### 身近な拠点の再整備が課題となっています

本町では、自治の単位である地区ごとに集会所が整備されており、緊急災害時の一次避難所に指定されています。旧地域の集会所は、バリアフリーや耐震の点で建て替えが求められており、段階的な再整備が課題となっています。

本町では、むくのきセンターの整備に続く中学校区ごとのコミュニティ拠点の整備が計画されており、校区圏域のまちづくり活動や拠点整備との連携が求められています。

### ■ 取り組みの内容

#### (9)地域ぐるみの子どもの遊び場づくり

身近な子どもの遊び場、ボール遊びができる場づくりなどの子育て層の必要性に応じて、地域ぐるみの子どもの遊び場づくりを支援します。

校区の横断的な組織である各小中学校区別作業部会と子育て支援のメンバーが連携することによって、活動を立ち上げていくことを支援します。

## **(10)コミュニティ・カフェ**

障害者地域自立支援協議会では、障害児者の身近な居場所づくりの必要性が提起されています。また、高齢者についても、現在、活動している高齢者サロンは実施日や時間帯が決まっていることから、いつでも自由に参加できる居場所が求められています。子育て層についても、地域における孤立化を防ぐために、更なる子育てサロンの活発な運営が求められています。

これらの必要性に応えるため、誰もが訪れることができる地域ぐるみの居場所づくりに取り組みます。障害者地域自立支援協議会や各小中学校区別作業部会、子育て支援のメンバーが連携することによって、活動を立ち上げていくことを支援します。

## **(11)身近な民家活用の支援策**

住民による身近な居場所づくりを支援するために、利用されていない公共施設情報や民間の空き家情報を集約するしくみについて検討します。居場所づくりで民間の空き家を活用する場合に備えて、家賃補助、契約支援などについて検討します。

## **(12)身近な拠点の再整備**

地区ごとの集会所について、緊急災害時の一時避難場所、地域福祉の拠点として、段階的に再整備を行います。



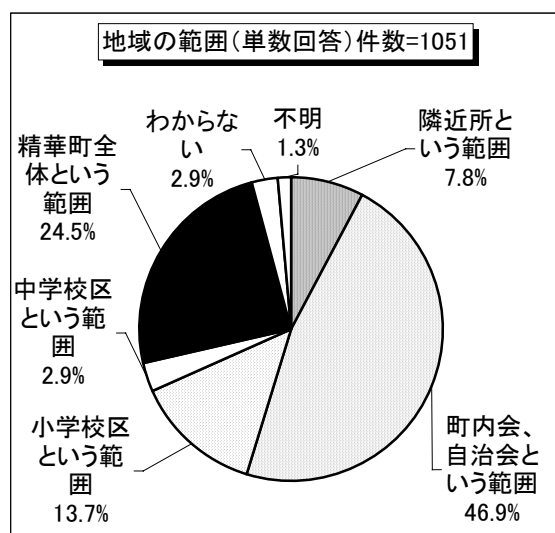
## 4-5 学校と地域のつながりづくり

### ■ 現状と課題

#### 住民には小中学校という圏域はあまり意識されていないようです

アンケート調査結果では、住民が考える地域は「身近な町内会（46.9%）」が最も多く、次いで「精華町全体（24.5%）」となっており、小中学校という圏域はあまり意識されていないようです。

町では、敬老会や町民体育大会といった、町の代表的な行事は全町単位で行われており、身近な小中学校単位での実施について検討が始まっています。



#### 地域ぐるみの子どもの安全対策や子育て支援の取り組みが始まっています

本町では、PTA と老人クラブなどが連携して、多世代交流の子どもの居場所づくりとして「精華学び体験教室（月1回土曜日）」を行っています。精北小学校は伝承遊び、精華台小学校はスポーツをテーマに行っており、川西小学校についても開催が検討されています。

子どもの安全対策として、スクールヘルパー（学校安全地域ボランティア）が、登下校時の子どもの安全パトロールを行っており、現在、約1,000名が登録されています。精北・川西・山田荘・東光小学校では協議会ができ、組織的に活動が始まっています。ボランティアによる組織づくりや主体的な活動の支援が課題となっています。

## ■ 取り組みの内容

### (13)地域ぐるみの子どもの安全安心事業

学校教育と地域福祉にかかわる事業に関して、今後、庁内連携を図ります。

スクールヘルパー協議会の全町設置に向けて、協議会を中心とした住民による活動を支援していきます。一方、高齢者の活躍の場づくりのため、また、地域の多世代交流の視点から、同協議会と老人クラブの活動との連携を図ります。

### (14)地域ぐるみの子育て支援、福祉学習、環境学習のしくみづくり

学校教育、児童福祉、地域福祉にかかわる事業に関して、今後、庁内連携を図ります。

「精華学び体験教室」と学童保育の関連づけを図ることにより、地域ぐるみの子育て支援について検討していきます。

ボランティア団体と教育委員会との連携によって、ボランティアや障害のある人などの当事者が参加する小中学校の福祉学習の仕組みをつくり、児童生徒の福祉意識づくりを図ります。

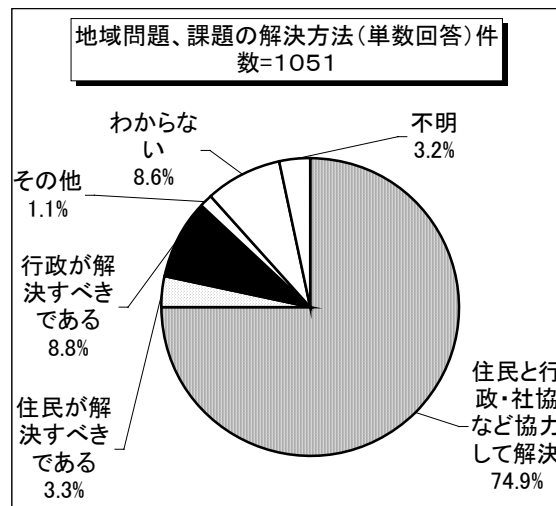
ごみの減量化や環境美化にかかわる住民団体である「環境ネットワーク会議」と小中学校での環境学習に関する取り組みとの連携を図り、地域ぐるみの環境学習の取り組みを支援します。

## 4-6 精華ならでの環境を生かした人のつながりづくり

### ■ 現状と課題

#### 地域の問題は住民・行政・町社協などが協力して解決すべき

アンケート調査では、回答者の4分の3が「地域の問題は住民・行政・社協などが協力して解決すべき」と答えており、協働による地域福祉活動への参加が期待されています。



#### 優先すべき施策として、若い世代では「次代を担う子どもたちの福祉教育」が、高齢者層では「在宅で暮らせるサービスの充実」が多くなっています

優先すべき施策では、「在宅で暮らせるサービスの充実」が最も多く、「住民相互の支え合うしくみづくり」「いつまでも健康なサービスの充実」「次代を担う子どもたちの福祉教育」が続いています。

20～50歳代では「次代を担う子どもたちの福祉教育」や「地域ぐるみの子育て支援」が、60歳代以上では「在宅で暮らせるサービスの充実」「高齢者や障害者等の居場所づくり」の回答が多くなっています。

表 年齢（3区分）×優先すべき施策（上位の施策のみ抜粋）

	全体	在宅で暮らせるサービスの充実	住民相互の支え合うしくみづくり	いつまでも健康なサービスの充実	次代を担う子どもたちの福祉教育	高齢者や障害者等の居場所づくり	身近に相談できる場所づくり	地域ぐるみの子育て支援	権利擁護や苦情対応などの取り組み	ボランティアやNPO等の活動支援
合計	1051	409	355	334	321	313	307	205	104	89
%	100.0	38.9	33.8	31.8	30.5	29.8	29.2	19.5	9.9	8.5
20、30歳代	67	16	16	7	18	11	10	18	3	9
%	100.0	23.9	23.9	10.4	26.9	16.4	14.9	26.9	4.5	13.4
40、50歳代	363	103	121	111	146	80	102	114	38	25
%	100.0	28.4	33.3	30.6	40.2	22.0	28.1	31.4	10.5	6.9
60歳代以上	553	263	198	200	139	200	178	66	59	50
%	100.0	47.6	35.8	36.2	25.1	36.2	32.2	11.9	10.7	9.0
不明	68	27	20	16	18	22	17	7	4	5
%	100.0	39.7	29.4	23.5	26.5	32.4	25.0	10.3	5.9	7.4

## **地域福祉周辺の課題に対して庁内連携による対応が求められています**

『せいか隣人まつり』では、地域福祉の周辺の課題として、「道路・公共交通の充実」にかかわる意見が多く出されてきました。自動車をもっていないと生活しづらいまちであることから、バス交通の充実に対して多くの意見がありました。

そのほかに、精中校区では「駅前周辺のまちづくり」や「買い物などの利便性」、西中校区では「公共公益施設の整備」にかかわる意見があり、庁内連携による対応が求められています。

## **■ 取り組みの内容**

### **(15)環境にかかわる自治会や地域の取り組み支援**

環境衛生と地域福祉に関して、今後、庁内連携を図ります。

ごみの減量化や環境美化にかかわる住民団体である「環境ネットワーク会議」と地域福祉についての取り組みを関連づけて、環境にかかわる自治会や地域の取り組みを支援します。

### **(16)ペットによる人のつながりづくりとマナー向上**

せいか隣人まつりで犬のふんなどペットのマナー改善について、多くの意見が寄せられています。

マナー改善の広報活動などで住民への働きかけを行うほか、ペットを介した人のつながりづくりを支援します。

### **(17)里山や農園、特産品による人のつながりづくり**

本町では、人と自然との共生をめざすまちづくりの一環として、里山や農園の活用に取り組んでいます。

地域福祉の視点で捉えて、里山や農園、特産品による人のつながりづくりを進めます。

### **(18)学研都市の住民活動グループなどとの連携**

本町の学研都市では、「けいはんなのまちづくりを考える会」、「けいはんな市民雑学大学」、「けいはんな地域 SNS 研究会」といったコミュニティが活動しています。これらの住民活動グループの活動支援について検討します。

### **(19)健康づくり活動グループなどとの連携**

本町では、健康づくりにかかわる住民の活動を支援しています。健康づくりは優先すべき施策の上位にあり、必要性も高いことから、健康づくりの施策と地域福祉の施策を連携させて、健康づくりと人のつながりづくりを地域ぐるみの活動としていきます。

# 參考資料

# 1 精華町地域福祉計画策定委員会委員名簿

(敬称略、順不同、平成21年3月現在)

区分	団体名等	委員名	役職等	委嘱・任命
学識経験を有する者	同志社大学	上野谷 加代子	社会学部 教授	委嘱
	花園大学	廣瀬 明彦	社会福祉学部 准教授	委嘱
地域協議会に所属する者	(社)精華町社会福祉協議会	玉岡 宣彰	会長	委嘱
	精華町ボランティア連絡協議会	田中 智美	会長	委嘱
	精華町民生児童委員協議会	笠井 正男	会長	委嘱
	精華町町政協力員協議会	奥 義和	会長	委嘱
	精華町老人クラブ連合会	井上 朗	会長	委嘱
	精華町身体障害者協議会	大上 たえこ	会長	委嘱
	精華町食生活改善推進員連絡協議会『あすなろ会』	中西 敦子	会長	委嘱
福祉団体に関係する者	(社)カトリック京都司教区カリタス会 高齢者総合福祉施設『神の園』	高田 全康	施設長	委嘱
	(社)盛和福祉会 児童養護施設『京都大和の家』	西川 満	施設長	委嘱
	(社)相楽医師会 精華班	天野 基弥	班長	委嘱
	(社)相楽福祉会 相楽地域障害者生活支援センター	傍島 規子	センター長	委嘱
その他の関係する者	精華町立小・中学校校長会	仲野 久仁俊	会長(川西小学校校長)	委嘱
	NPO法人 けいはんな文化学術協会	郷原 秀昭	理事	委嘱
	谷地区小地域福祉委員会 『和会(なごみかい)』	中谷 幸孝	地域総括	委嘱
	子育てサポート『結(ゆい)』	松本 彰子	代表	委嘱
一般公募		曾根 郁子		委嘱
		岩井 三郎		委嘱
		川真田 順子		委嘱

## 2 精華町地域福祉計画策定作業部会委員名簿

(敬称略、順不同、平成20年11月現在)

団体名等	委員名	
精華町民生児童委員協議会	有馬 裕美子	
精華町民生児童委員協議会	飯田 智香子	
公募委員	五十嵐 勇	
公募委員	市原 礎	
精華町消防団	岩井 三郎	
精華町民生児童委員協議会	上羽 弘	
公募委員	遠藤 喜生	
精華町民生児童委員協議会	大西 傑	
公募委員	大平 久代	
地区福祉推進委員	川真田 順子	
精華町民生児童委員協議会	河村 佳子	
精華町食生活改善推進員連絡協議会『あすなる会』	木村 萬里子	
精華町民生児童委員協議会	近藤 かほる	
精華町民生児童委員協議会	齋藤 恵彦	
精華町民生児童委員協議会	澤田 典子	
精華町民生児童委員協議会	清水 朝江	
精華町環境ネットワーク会議	曾根 郁子	
精華町食生活改善推進員連絡協議会『あすなる会』	田中 紀代子	
精華町民生児童委員協議会	田中 茂子	
精華町ボランティア連絡協議会	千葉 弘子	
精華町ボランティア連絡協議会	中筋 郁子	
精華町食生活改善推進員連絡協議会『あすなる会』	中西 つね子	
精華町民生児童委員協議会	中村 教江	
公募委員	中山 堯史	
公募委員	宮田 照代	
公募委員	森田 昭二	
精華町ボランティア連絡協議会	森村 恵子	
精華町民生児童委員協議会	安田 千栄子	
公募委員	渡辺 眞理子	
子育てサポート『結(ゆい)』	松本 彰子	
谷地区小地域福祉委員会『和会(なごみかい)』	中谷 幸孝	
公募委員	杉嶋 茂孝	
公募委員	田尻 久哲	
(社)相楽福祉会 相楽地域障害者生活支援センター	傍島 規子	
(社)相楽福祉会 相楽デイセンター	永井 元	
事務局	社会福祉協議会	杉山 典壽
	社会福祉協議会	細井 宣宏
	社会福祉協議会	下泉 幸美
	同志社大学	永田 祐
	同志社大学	室田 信一
	同志社大学	山本 香織
	アルパック(株)地域計画建築研究所 福祉課	大河内 雅司 岩井 秀樹



### 3 策定経過

	回	日 時	内 容	
策定委員会	第 1 回	平成 20 年 4/20 (日) 午前 11:00～	策定委員会の設置 委員長、副委員長の選出等 地域福祉計画、今後の進め方について	
フォーラム	第 1 回	4/20 (日) 午後 1:00～	基調講演、パネルディスカッション 今後の進め方 など	
作業部会	第 1 回	5/30 (金) 午後 1:30～	顔合わせ せいか隣人まつりについて意見交換 校区ごとのリーダー、サブリーダーの決定	
	第 2 回	6/24 (火) 午後 1:30～	せいか隣人まつりの練習 日程、場所の決定	
	第 3 回	7/15 (火) 午後 1:30～	せいか隣人まつりの準備 プログラムや役割分担について検討	
	第 4 回	8/6 (水) 午後 1:30～ 精中校区 8/7 (木) 午後 1:30～ 南中校区 8/12 (火) 午後 1:00～ 西中校区	校区ごとにせいか隣人まつりの最終準備 参加状況、プログラムを決定、役割分担の確認	
	せいか 隣人まつり	8/23 (土) 午後 1:30～	精華中学校区 せいか隣人まつり むくのきセンター内 多目的ホール	
		8/30 (土) 午後 1:30～	精華南中学校区 せいか隣人まつり 積水ハウス総合住宅研究所内会議室	
		8/31 (日) 午後 1:30～	精華西中学校区 せいか隣人まつり 精華町コミュニティホール	
	第 5 回	9/30 (火) 午後 1:30～	せいか隣人まつりの振り返り 今後の作業部会について	
	策定委員会	第 2 回	10/7 (火) 午後 1:30～	作業部会の経過と今後の取り組みせいか隣人まつり報告 アンケート調査結果のまとめ 地域福祉にかかわる現状と課題について
	作業部会	第 6 回	10/27 (月) 午後 1:30～	リーダー・サブリーダー会議の報告 テーマごとの班分け せいか隣人まつりで出された解決策の検討
第 7 回		11/20 (木) 午後 1:30～	せいか隣人まつりで出された解決策の分析 策定委員会への提案について など	
策定委員会	第 3 回	12/3 (水) 午後 1:30～	作業部会からの最終報告について 精華町地域福祉計画 (素案) について	
	第 4 回	平成 21 年 1/27 (火) 午後 1:30～	精華町地域福祉計画 (案) について 精華町地域福祉フォーラム (案) について	
フォーラム	第 2 回	2/22 (日) 午後 1:30～	計画策定の経過報告 作業部会及び隣人まつりの報告 計画案の説明、計画の実現に向けて など	
策定委員会	第 5 回	3/26 (木) 午後 3:30～	精華町地精華町地域福祉計画 (案) について 精華町地域福祉計画の策定・推進に向けた提 言書 ほか	

## 4 精華町地域福祉計画の策定・推進に向けた提言書

平成 21 年 3 月 26 日

精華町長 木村 要 様

精華町地域福祉計画策定委員会

委員長 上野谷 加代子

### 精華町地域福祉計画の策定・推進に向けた提言書

この地域福祉に関する提言を通して、精華町の新時代を拓くきっかけとなることを切望するとともに、その推進に向けては、住民と行政が対話を重ねながら協働して取り組んでいくことを期待します。

記

#### 1 計画の周知・啓発と、絵に描いた餅にしない住民参加の継続を

この計画の精華町らしさとして、策定委員会とともに作業部会の住民自身が「せいか隣人まつり」を開催することによって、幅広い住民の意見を集約し、計画に反映したことがあげられます。精華町ならではの住民参加によって計画がつけられたわけですが、今後はその実践が問われることとなります。町行政としても計画を「絵に描いた餅」にしないために、計画の周知・啓発に努めるとともに、今後の住民参加を引き続き支援してください。

#### 2 社会福祉協議会や関係機関、事業所などの専門職の連携に向けて

計画の実践では、フォーマル、インフォーマルの両方から多様な担い手の参加、協力が不可欠です。特に、社会福祉協議会や関係機関、事業所などの専門職は、縦割りになりがちな業務をこえて連携し、住民や行政と手を携えて、計画の理念である「世代をこえて安心して住めるまち」の実現をめざしてください。また、住民のニーズに基づき、精華町社会福祉協議会が策定する精華町地域福祉活動計画と、この計画が一体的に推進されるように連携してください。

#### 3 計画の進行管理と見直しについて

この計画では、住民側の計画の進行管理のしくみとして「(仮称) 地域福祉推進ネットワーク」をおくこと、庁内の施策連携を図る「地域福祉に関わる庁内調整会議」を立ち上げることとしています。また、計画の推進にあたり、この進行管理体制のもとで事業の着実な推進に努めていただき、国や京都府の動向やニーズに的確な対応をしていただくため、計画を弾力的に見直すようにしてください。

以上

## 5 せいか隣人まつりの報告(平成20年度実施)

### (1) せいか隣人まつりの概要

#### ①目 的

- 中学校区ごとに住民参加の手法によって、生活課題や解決策についての意見を集約し、計画に反映する。
- 地域福祉の担い手である作業部会委員が、参加の呼びかけから運営を行う。住民主体でせいか隣人まつりを行うことにより、計画策定後の実践に向けて継続的な参加につなげていく。

#### ②日 時・場 所

精華中学校区	8月23日(土)	午後1:30～	むくのきセンター
精華南中学校区	8月30日(土)	午後1:30～	積水ハウス総合住宅研究所
精華西中学校区	8月31日(日)	午後1:30～	精華町コミュニティセンター

#### ③広 報

精華町広報誌

作業部会委員から参加の呼びかけ

#### ④内 容

全体会	せいか隣人まつりの趣旨説明 地域福祉計画の説明 地域福祉にかかわる精華町内の活動事例報告
班ごと	意見交換 地域福祉を考える上で 「困っていること」「問題だと思うこと」「解決策」 発 表

## (2) 出された意見のまとめ

表 せいか隣人まつりで出された意見（件数）

分類	計	精中	南中	西中
1 人のつながりづくり	103	26	38	39
2 マナーなどの人とのかかわり	73	26	15	32
3 ごみなどの環境美化、環境の保全	72	18	26	28
4 防災・防犯などの安全安心	49	11	14	24
5 地域ぐるみの子育て支援	41	9	12	20
6 世代間などの交流	15	—	—	15
7 高齢者の在宅生活支援	10	—	10	—
8 地域福祉の担い手の養成	21	7	9	5
9 情報の共有	13	—	10	3
10 道路・公共交通の充実	93	33	18	42
11 駅前周辺のまちづくり	31	31	—	—
12 公共公益施設の整備	23	—	—	23
13 買い物などの利便性	14	14	—	—
14 医療・福祉サービスの充実	17	11	6	—
15 行政との連携	35	—	21	14
合計	610	186	179	245

出された意見を 15 のタイトルで分類しました。

### ○人のつながりづくり

最も多かったのは「人のつながりづくり（103 件）」であり、3つの中学校区に共通した課題となっています。

近所の人どうし、年齢を超えた付き合い、新地域と旧地域のかかわりがいいことから、隣人力の強化が必要ではないかといった意見がありました。アパート、マンションの協力が得られない、自治会に入らない人が増加しているといった意見もあります。また、学校と地域との関係が弱くなっていることや、その他、養護学校に通う障害児は地域に付き合いが少ない、といった意見もありました。

## ○マナーなどの人とのかかわり

次いで多かった意見は、「マナーなどの人との関わり（73件）」、「ごみなどの環境美化、環境の保全（72件）」です。これらについても、3つの中学校区に共通した課題となっています。

マナーなどの人とのかかわりは、犬のふん、ごみ、迷惑駐車などの問題が出されています。あいさつをしっかりと欲しいといった意見からも、日常的なコミュニケーションや人のつながりが薄れてしまったことが、これらの問題の背景として考えられます。

## ○ごみなどの環境美化、環境の保全

「ごみなどの環境美化、環境の保全」では、ごみ出しのマナーが悪いこと、ごみのポイ捨てが発生していることに加えて、高齢者にとってごみの分別やゴミ出しが難しい状況が指摘されています。

また、高齢化による農業の担い手不足に関連して、農地や空き地の保全の問題も指摘されています。

## ○防災・防犯などの安全安心

「防災・防犯などの安全安心」について49件の意見があり、これらについても、3つの中学校区に共通した課題となっています。

隣近所とのつながりが失われており、災害に弱いのではないかと、消防団を含めた自主防災組織が必要ではないかという意見があります。

また、子どもを狙った犯罪が増えていることに対して、防犯の連絡網づくりやパトロールへの参加呼びかけの意見があります。

## ○地域ぐるみの子育て支援

「地域ぐるみの子育て（41件）」についても、3つの中学校区に共通した課題となっています。

旧地域では、子どもの減少が問題視されている一方で、新地域では、核家族の子育て不安などから、子どもに声かけのできる地域を求める意見があります。そのほかに、核家族の父母の就労支援、病(後)児保育や、子どもが大声で遊んだり、ボール遊びをしたり、安心してできる場がないといった意見があります。

## ○地域福祉の担い手の養成

「地域福祉の担い手の養成（21件）」では、ボランティアの高齢化や担い手不足

の問題が指摘されており、男性の参加、高齢者のボランティアへの参加を進めるべきといった意見があります。また、人材確保のために、養成講座を修了した人の交流が必要なこと、各団体間の横のつながりづくりを進めようといった意見があります。

### ○情報の共有、世代間の交流、高齢者の在宅生活の支援など

そのほかに、「情報の共有（13件）」にかかわる意見のほか、西中では「世代間の交流（15件）」、南中では「高齢者の在宅生活の支援（10件）」について意見がありました。

### ○道路・公共交通の充実

行政とのかかわりが大きな意見として「道路・公共交通の充実（93件）」にかかわる意見が多く出されていました。自動車をもっていないと生活しづらいまちであることから、バス交通の充実に対して多くの意見がありました。

### ○駅周辺のまちづくりなど

そのほかに、精中校区では「駅前周辺のまちづくり（31件）」や「買い物などの利便性（14件）」、西中校区では「公共公益施設の整備（23件）」にかかわる意見があり、地域性が表れています。

### ○医療・福祉サービスの充実、行政との連携

「医療・福祉サービスの充実（17件）」では、一人暮らし高齢者をどのように見守っていくか、卒業後の障害のある人の居場所づくり、小児科の救急医療の受け入れ先が限られているなど、福祉サービスの充実についての意見がありました。

「行政との連携（35件）」では、住民のニーズの把握不足や福祉活動の広報（広報誌に各団体の活動紹介など）の充実などの意見がありました。

## （3）参加者アンケートから

### ①多世代の参加に向けて

参加の呼びかけは作業部会委員が行ったことから、地域の団体間のネットワークや委員の人のつながりが参加状況に反映されています。初めての試みにもかかわらず、精華中学校区 51 名、南中学校区 50 名、西中学校区 62 名、計 163 名（作業部会委員を除く）の住民の参加があり、地域における人のつながりを再確認すること

ができました。

一方で、参加者は高齢者が多かったことから、若い世代の意見の把握が十分ではなく、今後の取り組みでは多世代の参加呼びかけが求められています。

## ②幅広い参加（子育て支援、高齢者、障害者福祉、自治会など）をめざして

参加者の所属は自治会などからが多く、子育て支援や高齢者福祉関係からの参加もありました。障害者福祉関係の参加が少なかったことから、障害のある人が参加できる環境を整えることにより、幅広い参加をめざすことが求められています。

## ③場づくりの期待に応えて

『せいか隣人まつり』の今後について、「続けた方がいい(精中 86.3%、南中 80.0%、西中 84.5%)」という声が多く寄せられています。

その理由では、「住民の声を聞くことができ相互理解ができる。」「新旧地域の交流を図る一手段となる。」「世代、地域を問わずに話し合いができるのでよい。」「いろいろな声を聞く場が必要。」「横のつながりができる。」などの回答がありました。

今後の『せいか隣人まつり』については、「もう少し年代別に中学、高校、20代、30代…とテーマを決めて話し合うとよい。」「若い世代が少なかったことが残念。」「ワークショップの運営はリーダーの役割が大切、テーマを絞って議論を進める方がよい。」「行政まかせの意見が多い。問題解決には住民が自らの力を出す方向にしていくと地域連携が図れる。」「今回の参加は自治会や地域に関心のある人が多かった。今後は、関心の低い層や中間層に対する意識付けが必要。」などの回答がありました。

表 出された意見、改善策

分類	件数	主な意見	主な解決策
<p>1 人のつながりづくり 103件</p> <p>精中 26件 南中 38件 西中 39件</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣人力の強化が必要ではないか</li> <li>・近所の人との会話や話し合う機会がない</li> <li>・年齢を超えた付き合いが少ない</li> <li>・隣近所、特にアパート、マンションの協力が得られない</li> <li>・自治会に入らない人が増加している</li> <li>・新地域と旧地域の人たちがかかわる場が少ない</li> <li>・学校を取り巻く団体等がバラバラである(PTA、学校、ボランティア)</li> <li>・行政や協議会が縦割りである</li> <li>・養護学校に通う障害児は地域に付き合いが少ない</li> <li>・障害のある人へのかかわり方、声のかけ方がむずかしい</li> <li>・地蔵盆がないので(地蔵がないため)子どもに伝えていけない</li> <li>・古くからの伝統行事について、若い世代は、守り、継承していく意思はあるが、金銭面と人員が減少している面で不安を感じている</li> <li>・自治会活動で、子供会が別団体となっており一体の活動がやりにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日のあいさつ、声かけが交流につながる</li> <li>・地域で交流できる場を作る</li> <li>・山田川を通して環境(人のつながりづくり)が出来ないか</li> <li>・他地域が集まる懇談会の開催</li> <li>・PTA活動の活性化、学校との連携</li> <li>・子供世帯の自治会加入促進</li> <li>・祭りなど行事を計画</li> <li>・自治会を中心にネットワークが出来たらと思います</li> <li>・自治会に加入するメリットを考える</li> <li>・無理のないリーダーと楽しい企画作り</li> <li>・県人会、なんでもいいのでつくって交流する場</li> <li>・地域に根ざしたボランティアの育成</li> </ul>
<p>2 マナーなどの人のかかわり 73件</p> <p>精中 26件 南中 15件 西中 32件</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬のふんの後始末をしない人が多くて困る</li> <li>・ごみがそこらじゅうに散らばっていること</li> <li>・あいさつをしっかりして欲しい</li> <li>・あいさつ運動の時、各自治会の協力を働きかける</li> <li>・住宅地内での迷惑駐車</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気づいた者からあいさつしていくような地道な活動</li> <li>・ボランティア活動に参加してもらう</li> <li>・警察に取り締まってもらう</li> <li>・夜間パトロールの強化</li> <li>・罰金を入れた条例を作る</li> <li>・犬が自由に走れる(ドックラン)公園をつくる</li> <li>・自治会でステッカーをはって迷惑している事を伝える</li> <li>・城陽市には市議会で議決された“犬のフン害防止条例”があります</li> </ul>
<p>3 ごみなどの環境美化、環境の保全 72件</p> <p>精中 18件 南中 26件 西中 28件</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ出しのマナーが悪い</li> <li>・ごみの分別が難しい(特にお年寄り)</li> <li>・高齢化により地形的な条件からゴミ(古紙)を回収場所にもっていくのが困難</li> <li>・町内のどの公園もごみのポイ捨てで汚いと思うときがある</li> <li>・旧地域のためゴミステーションがなく汚い</li> <li>・廃品回収、ペットボトル回収の日が少ない</li> <li>・高齢化による農業の担い手不足</li> <li>・空き地の草刈り後の後始末を行って欲しい</li> <li>・草刈りを増やして欲しい(国道163号線)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会、地域で勉強会を開く</li> <li>・住民と公の役割分担を自覚し、住民は分別の徹底を行う</li> <li>・町で荒地の把握</li> <li>・農業生産法人をつくり、明いた農地を管理する。</li> <li>・農業の担い手の育成</li> <li>・自治会の一斉清掃だけでは不十分なので、業者委託等も利用しては</li> <li>・衛生課の方がリサーチして回収して欲しい</li> <li>・雑草等のカット、5月、8月、の2回実施、役場へ申し入れ</li> </ul>
<p>4 防災・防犯などの安全安心 49件</p> <p>精中 11件 南中 14件 西中 24件</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな災害などで一番大切なのは、隣近所とのつながり、これが少ないかな?</li> <li>・集中豪雨時の木津川西岸部の水害が心配(情報伝達と避難指示)</li> <li>・消防団の維持が困難</li> <li>・地区に自主防災組織を立ち上げて欲しい</li> <li>・子育てをターゲットにした犯罪が増えている</li> <li>・防犯の連絡網が自治会上層部でとどまり、末端まですみやかに届く組織づくりを</li> <li>・若いお母さんの昼、朝のパトロールへの参加がない</li> <li>・防犯パトロールの強化</li> <li>・奈良県、木津川市と精華町の県境の防犯への疑問</li> <li>・交番がない</li> <li>・狛田地区の駐在所が廃止されてしまう</li> <li>・光台交番におまわりさんがあまりいない</li> <li>・防犯灯の増設</li> <li>・駐輪場(駅前)が夜間暗くてこわい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害情報の早期伝達と要援護者の早期避難の徹底</li> <li>・各自治会の自主防災・防犯の強化</li> <li>・消防、自治会による意識啓もう活動(訓練)の実施</li> <li>・登下校の時間帯に声かけを行ったり、送迎をしたりする</li> <li>・町会毎に高齢者・子どもの見守り隊を養成、交流をする</li> <li>・消防署の増設</li> <li>・不審者などの情報公開</li> <li>・街路灯の増設</li> <li>・(地域単位)メーリングリストの利用</li> <li>・住民からニーズを上げていく→安全委員へ</li> </ul>



分類	件数	主な意見	主な解決策
5 地域ぐるみの子育て支援 41件  精中 9件 南中 12件 西中 20件		<ul style="list-style-type: none"> <li>・暴走族の取り締まり強化</li> <li>・旧地域の子どもが減少していることに対する将来への不安</li> <li>・若者と同居家庭が少ない</li> <li>・子どもに注意、声かけのできる地域づくり</li> <li>・親が子育てで勉強する場が少ない</li> <li>・育児中の食事支援</li> <li>・核家族の父母の就労不安</li> <li>・学童保育の有り方の見直しと利用者のニーズの把握に努めてほしい</li> <li>・母親が長期の入院等になった際子供の事が心配、病児保育</li> <li>・いつでも気軽に立ち寄れる場所づくり（子育て中のお母さん、子ども、他の年代の方）</li> <li>・子どもたちが安全に遊べる場所が少ない</li> <li>・公民館などの施設が少ない</li> <li>・駐車場のあるグラウンドが精華町にない</li> <li>・子育て支援センターの充実</li> <li>・育児サークルで子供がいるのに集まらない</li> <li>・子どもが大声で遊んだり、ボール遊びをしたり安心してできる場がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援には老人の力を借りるのも一案</li> <li>・補助金を増額し、子どもを地域で育てる環境作り。</li> <li>・校区ネットワーク会議で学校支援の具体化をすすめる</li> <li>・人材バンク窓口を作りボランティアを派遣</li> <li>・府認定地域サポーター連絡協議会に問い合わせを</li> <li>・社会福祉協議会子育て支援センター制度がある</li> <li>・学童保育、同級生で家に人（親）がいる友達の家と一緒に遊べるようなしくみを考える</li> <li>・住民の手で公園の整備をしたらどうか</li> <li>・持主に協力してもらい、空地を活用させてもらう</li> <li>・学校の図書館などの地域開放</li> </ul>
6 世代間などの交流 15件	西中 15件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代交流、例えば、育児サークルと老人サロンとの交流があればいい</li> <li>・異世代交流の場が必要では</li> <li>・意識の無い方や発言できない方の場が必要では</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町社協の方の仲立ちがあればいいのでは</li> <li>・意見を自由に出せる web</li> <li>・自治会を中心に横のつながりをつくる！</li> <li>・つなげていく人材を増やす、確保する</li> </ul>
7 高齢者の在宅生活支援 10件	南中 10件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし高齢者の増加</li> <li>・少子高齢化による医療費負担の問題</li> <li>・高齢者世帯の増加に伴うケアへの不安</li> <li>・地域と比べて福祉関係は劣っている？（ヘルパー・弁当など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設の設置（公立）</li> <li>・運動訓練のできる施設の設置（町立）</li> <li>・老健施設の誘致</li> <li>・老人会の活動を広める</li> </ul>
8 地域福祉の担い手の養成 21件  精中 7件 南中 9件 西中 5件		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの方が高齢になってきた</li> <li>・次世代の地域福祉の担い手が少ない</li> <li>・男性（働き盛りの）の地域参加が少ない</li> <li>・何かをしたいという思いはあるが発揮できる場がない</li> <li>・子育てサポートをしているがボランティアがいない</li> <li>・サポーターやボランティア養成講座を修了した人を知りたい</li> <li>・ボランティア養成講座を中学区毎に開催し、修了したもの同士の交流がしたい</li> <li>・高齢者サロンが作りたいが、老人会もなければボランティアもない</li> <li>・高齢者の活躍できる場を</li> <li>・各団体（自治会、老人会、子ども会、その他のサークル）との横のつながりが少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア講座を町や社協で開いてもらう</li> <li>・役に立ったと感じれば、ボランティアをやるきっかけになる</li> <li>・必要とされることで生きがいに繋がる</li> <li>・各種団体での人材活用、人材バンクの設置</li> <li>・地域のネットワークをつくる</li> </ul>
9 情報の共有 13件 南中 10件 西中 3件		<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の連絡網整備（個人情報問題あり）どこに子どもがいて、老人がどうしているか、などを誰が把握しているか</li> <li>・個人情報の法的制約と過剰反応により地域が見えにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の公用、非公式名簿</li> <li>・自治会単位で論議</li> <li>・自治会でお手伝い（無料）します情報登録制</li> </ul>
計	397		

分類	件数	主な意見	主な解決策
10 道路・公共交通の 充実 93件  精中 33件 南中 18件 西中 42件		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車をもっていないと生活しづらい</li> <li>・バスの本数が少ない増便を、バス停を増やしてほしい</li> <li>・谷・北稲はもっと地域の中にバス停を作してほしい</li> <li>・くるりんバスを東畑の中心まで延ばしてほしい</li> <li>・かしのき苑、むくのきセンターへのアクセスが不便</li> <li>・下粕駅付近の道路幅が狭く、車も多いため危険である</li> <li>・粕田駅の地下通路が暗く危険で、車での送迎もしにくい</li> <li>・住宅区内の大型車乗り入れの規制ができないか</li> <li>・大型スーパーによる交通量増加で子供の事故が心配</li> <li>・横断歩道や歩行者のための道がない（東畑など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの運行時間、回数の見直し</li> <li>・バス会社と地域行政の連携対策</li> <li>・福祉タクシー事業を提案、実行する</li> <li>・駅前整備と同時に区画整理と安全灯の設置、バリアフリー対策を行政にしてもらう</li> <li>・農地、調整区域を市街化区域に変更する</li> <li>・道路規制を町から行う</li> <li>・調査して良い運行を考える</li> <li>・警察によるパトロールの強化（早朝、夜間含む）</li> <li>・関係団体で話し合い、役場、警察に要望活動する</li> </ul>
11 駅前周辺のまちづくり 精中 31件		<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発の新旧格差があり過ぎる。粕田地区の開発はいつか</li> <li>・南区公民館を新しく、もっと利用しやすい場所に移転してほしい</li> <li>・公民館がバリアフリーでないのでお年寄りの集まりも不自由である</li> <li>・南区地域の人口が多い割に集会所の数が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粕田地区の開発の遅れについて住民の意識を高める</li> <li>・住民へのPR活動</li> <li>・南区公民館を移転、新築する（新祝園駅周辺）</li> </ul>
12 公共公益施設の整備 西中 23件		<ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽にスポーツできる施設がほしい</li> <li>・JR 祝園駅にエレベーター、待合室をつけて欲しい（改札からホームへ）</li> <li>・精華町として大きなグラウンドがない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会でまとめて行政へ要望を出す</li> <li>・府・町・行政の区別をなくすべき</li> </ul>
13 買い物などの利便性 精中 14件		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし高齢者で足も弱ってこられた方は、通院や買い物に不便を感じておられる</li> <li>・粕田地区にスーパーがない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域振興券の作成</li> <li>・近鉄にお願いする</li> </ul>
14 医療・福祉サービスの充実 17件  南中 6件 精中 11件		<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉サービス供給主体の不足（施設など）</li> <li>・緊急時の受け入れ先病院が少ない</li> <li>・小児科の救急医療の受け入れ先が限られている</li> <li>・養護学校生の一時預かりの場所が町内にない</li> <li>・障害のある人が学校を卒業してからの居場所の確保</li> <li>・一人暮らし高齢者の方をどのように見守っていくか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談員体制の確立（チーム）</li> <li>・福祉問題の質問先を設ける（町のホームページ・自治会のしかるべき人、組織）</li> <li>・町社協との連携をはかる</li> <li>・空家を利用</li> <li>・NPO法人を作る</li> <li>・行政との話し合いをし続けていく</li> </ul>
15 行政との連携 35件  南中 21件 西中 14件		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共公益施設のかたより（川西地区と山田荘）</li> <li>・医療費補助の対象を広げてほしい。</li> <li>・住民のニーズの把握不足</li> <li>・住民が集まれる気軽な施設がない。</li> <li>・もっと利用できるスポーツ施設など、が欲しい</li> <li>・福祉予算の拡大</li> <li>・福祉活動の広報（華創に各団体の活動紹介等）</li> <li>・地域の民生委員を知らない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タウンミーティング、町政懇談会、アンケートの実施</li> <li>・当面、自治会間で協議を進め、集会所単位の行事活動にも相互に乗り入れを図る</li> <li>・役場に町民の声を聞く係（直通電話）を置いて欲しい</li> <li>・池谷公園の周辺にコミュニティーセンターの設置</li> <li>・公共公益施設の適正配置計画の策定や住民への説明</li> <li>・私の仕事館をつかって施設の改革</li> </ul>
計	213		

平成 20 年 9 月

精華町民生部福祉課 TEL0774-95-1904 FAX0774-95-3974

## 精華中学校区 せいか隣人まつり 報告



平成 20 年 8 月 23 日（土）午後 1:30 から、むくのきセンターにて、精華中学校区せいか隣人まつりが開催されました。隣人まつりは住民が主催する懇談会という、精華町にとって初めての試みです。

地域福祉計画策定に関わる作業部会メンバーが呼びかけから当日の運営を行い、地域の方 51 名の他、作業部会委員や事務局 33 名の計 84 名が参加しました。

隣人まつりで出された意見は、作業部会や策定委員会の議論で取り上げ、計画づくりに反映していきます。



### 第1部 全体会

作業部会のメンバー紹介の後、作業部会長の中谷さんから隣人まつりの趣旨について説明がありました。

その後、精華町の岩井さんから地域福祉計画の目的や内容、スケジュール等について説明がありました。

さらに、参加された方に地域福祉活動のイメージをもってもらうために、精華台地区の片山さんから住民による防犯活動の取り組みについて、北稲人間地区の田中さんから地区福祉委員会による支えあいの活動について報告が行われました。



## 第2部 班ごとに意見交換、発表

6つの班ごとに分かれて、作業部会委員の進行で意見交換を行いました。自己紹介の後、付箋紙と模造紙を使って作業部会メンバーの運営による意見交換を行いました。



「地域福祉を考える上で困っていること、問題だと思うこと」を出し合い、さらにそれらの解決策を考えました。全体で186件の問題点、69件の改善策が出されました（内容が重複するものを含む）。

それらの意見について班ごとに発表を行い、精華中学校区の地域福祉について、問題点や解決策をみんなで共有しました。

最後に同志社大学の上野谷教授から、①中学生から80歳代までの参加によって多世代の集まりとなった、②短時間に生活に根ざした生の声が集められた、③縦割りを超えて福祉を考える場となった等、隣人まつりの成果について講評がありました。また、出された意見を計画づくりに反映していくこと、隣人まつりを同志社大学が地域の皆さんと一緒に取り組んでいく第一歩としたい、との話がありました。



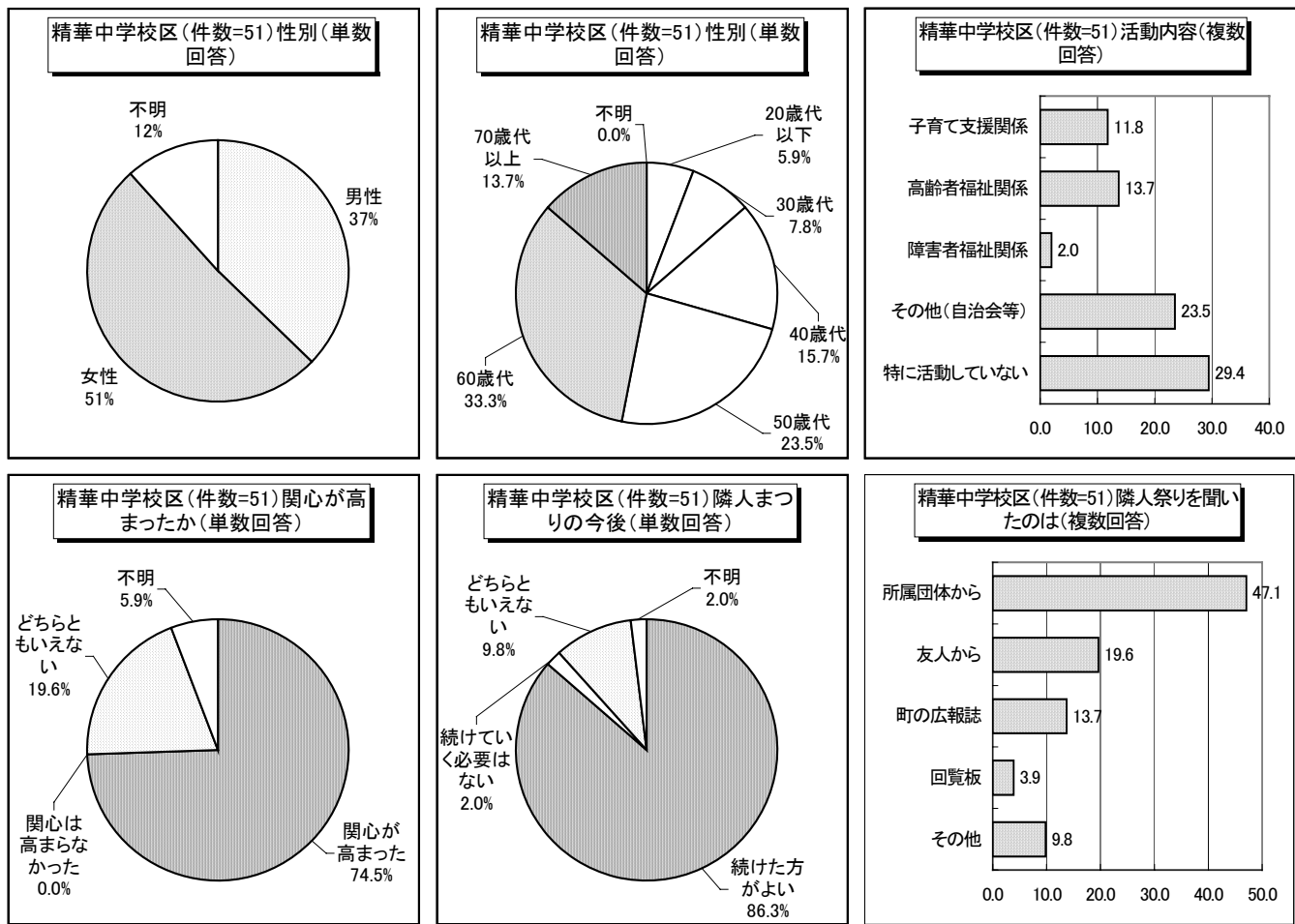
表 出された意見、改善策

分類	件数	主な意見	主な解決策
人のつながりづくり	26	<ul style="list-style-type: none"> <li>顔見知りで挨拶はするが、話をするまではいかない</li> <li>障害者の方への関わり方、声のかけ方がむずかしい</li> <li>近所の人との会話や話し合う機会がない</li> <li>自治会に入らない人が増加している</li> <li>新興住宅と旧村の人たちが関わる場が少ない</li> <li>学校を取り巻く団体等がバラバラである(PTA、学校、ボランティア)</li> <li>行政や協議会が縦割りである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣組、地区のまとまりを活発にする</li> <li>活動報告の仕方を工夫する(学校の外に行事予定を掲示する)</li> <li>子供と高齢者の集まる村会</li> <li>毎日のあいさつ、声かけが交流につながる</li> <li>地域で交流できる場を作る</li> </ul>

分類	件数	主な意見	主な解決策
マナーなどの人との関わり	26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬の糞の後始末をしない人が多くて困る</li> <li>・ごみがそこらじゅうに散らばっていること</li> <li>・集まり場などでタバコを吸ったり、ごみをそのままにして帰る人がいる</li> <li>・一部の住民のマナーが悪い（路上駐車等）</li> <li>・現在の親は自分に自信がないので子供達を叱らない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親が勉強する事と再教育</li> <li>・年長者が教えていく場をつくる</li> <li>・モラルを高める</li> <li>・警察に取り締まってもらう</li> <li>・夜間パトロールの強化</li> </ul>
ごみなどの環境美化	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ出しのマナーが悪い</li> <li>・ごみの分別が難しい(特にお年寄り)</li> <li>・町内のどの公園もごみのポイ捨てで汚いと思うときがある</li> <li>・旧村のためゴミステーションがなく汚い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会、地域で勉強会を開く</li> <li>・住民と公の役割分担を自覚し、住民は分別の徹底を行う</li> <li>・自分の家の前に出したり名前を書いたりする</li> </ul>
防災・防犯などの安全安心	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間暗い(電灯が少ない)</li> <li>・狛田地区の駐在所が廃止されてしまう</li> <li>・集中豪雨時の木津川西岸部の水害が心配(情報伝達と避難指示)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留守駐在所は不要</li> <li>・災害情報の早期伝達と要援護者の早期避難の徹底</li> <li>・登下校の時間帯に声かけを行ったり、送迎をしたりする</li> </ul>
子どもの遊び場	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達が安全に遊べる場所が少ない</li> <li>・公民館などの施設が少ない</li> <li>・駐車場のあるグラウンドが精華町にない</li> <li>・球技のできるような公園や遊び場が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の手で公園の整備をしたらどうか</li> </ul>
福祉サービスの充実	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢で独居の方をどのように見守っていくか</li> <li>・養護学校生の一時預かりの場所が町内にない</li> <li>・障害児の卒業生の進路先が町内にない</li> <li>・社会福祉サービスの供給主体(施設など)が足りていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空家を利用</li> <li>・NPO法人を作る</li> <li>・行政との話し合いをし続けていく</li> </ul>
地域福祉の担い手の養成	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何かをしたいという思いはあるが発揮できる場がない</li> <li>・住民のボランティア精神が希薄である</li> <li>・ボランティアの方が高齢になってきた</li> <li>・各団体はそれぞれに活動していても、横のつながりがほとんどない</li> <li>・次世代の地域福祉の担い手が少ない</li> <li>・男性のボランティア参加が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア講座を町や社協で開いてもらう</li> <li>・広報にてアピールする</li> <li>・役に立ったと感じれば、ボランティアをやるきっかけになる</li> </ul>
計	108		
道路・公共交通の充実	33	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下狛田駅付近の道路幅が狭く、車も多いため危険である</li> <li>・生活道路への進入が多い</li> <li>・狛田駅の地下通路が暗く危険で、車での送迎もしにくい</li> <li>・くるりんバスのルートに分け、谷・北稲はもっと地域の中にバス停を作ってほしい</li> <li>・かしのき苑、むくの木センターへのアクセスが不便</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前整備と同時に区画整理と安全灯の設置、バリアフリー対策を行政にしてもらう</li> <li>・農地、調整区域を市街化区域に変更する</li> <li>・ルートや時間帯の見直し</li> <li>・デマンドシステムの導入</li> </ul>
駅前周辺のまちづくり	31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近鉄の東と西では道路の整備に格段の差がある</li> <li>・ニュータウンの住民と旧村の住民との交流を深める機会をどのようにつくっていくか</li> <li>・開発の新旧格差があり過ぎる。狛田地区の開発はいつか</li> <li>・南区公民館を新しく、もっと利用しやすい場所に移転してほしい</li> <li>・公民館がバリアフリーでないのでお年寄りの集まりも不自由である</li> <li>・南区地域の人口が多い割に集会所の数が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狛田地区の開発の遅れについて住民の意識を高める</li> <li>・住民へのPR活動</li> <li>・南区公民館を移転、新築する(新祝園駅周辺)</li> </ul>
買い物などの利便性	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者独居の方で足も弱ってこられた方は、通院や買い物に不便を感じておられる</li> <li>・狛田地区にスーパーがない</li> <li>・銀行がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近鉄にお願いする</li> <li>・地域振興券の作成</li> </ul>
計	78		



## 参加者アンケートのまとめ



### 「続けた方がよい」と答えた理由

地域住民の声が聞けるから 11件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○色々な年の方、地域の方の意見が勉強になった。</li> <li>○みんなどんなことを考えているか分かり、相互理解ができる。</li> <li>○いろいろな声を聞く場が必要。</li> <li>○自分たちの住んでいる環境問題が話し合えてよかったです。</li> </ul>
集まることに意味があるから 10件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニケーションづくりになるし、各々の問題意識が高まり、行政への参画意識が高まる。</li> <li>○横のつながりができ意識向上につながる。</li> <li>○初めてお会いする方々でしたが、共通するテーマで大いに盛り上がり、有意義な時間を過ごせました。</li> <li>○地域での隣人(友達)づくりは今、最も必要と思う。</li> </ul>
もっと話し合う必要があるから 3件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○また新しい問題点が出てくるかもしれないから、やったほうがいいと思う。</li> <li>○いろんな問題が出ているが、解決策が出ていないので続けたほうが良い。</li> </ul>
活動参加者を増やすために 3件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○より広い年齢層、団体等からの参加を呼びかける必要がある</li> <li>○もっとたくさんの人に来てもらえるように。</li> </ul>

### 感想など

隣人ひろばの内容について 20件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年齢の違う老若が一ヶ所に集まり、このような機会を与えてくださって良かったのでは。</li> <li>○同じように思い、感じている方が多いことがわかった。少しずつでも精華町が良くなればと思います。</li> <li>○10代から80代の人たちの意見がかわされ、大変良かったと思います。これからも住民のいろんな方々が出席され不満や喜びを語り合えたらと思います。</li> <li>○進行係が手際よくして下さったので楽しく話し合いができた。</li> <li>○皆さんいい意見を出されていましたが、これを改善するのはとても難しいと思います。町全体がひとつになって取り組んでいってもらえたらと思います。</li> </ul>
改善してほしいこと 5件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークショップ方式は、たくさんの意見が出てよいと思うが、結論に結びつきにくい。コミュニティーの観点から考えると大成功でしょう。ただ、テーマから考えるとどうしても行政任せの意見が多い。参画はこの場だけでなく、日常生活でも意識できるよう終結したかった。</li> <li>○他の方と自分のまわりを良くしていくための話なので、もっといくつかの題材に深く入っていけるような話し合いをしたかったと感じました。</li> <li>○テーマを絞って、議論を進めるほうがよい。</li> </ul>
その他 2件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一回で終わらないで続けてほしい。</li> </ul>

平成 20 年 9 月

精華町民生部福祉課 TEL0774-95-1904 FAX0774-95-3974

## 精華南中学校区 せいか隣人まつり 報告



平成 20 年 8 月 30 日（土）午後 1:30 から、積水ハウス総合住宅研究所内会議室にて、精華南中学校区せいか隣人まつりが開催されました。隣人まつりは住民が主催する懇談会という、精華町にとって初めての試みです。

地域福祉計画策定に関わる作業部会メンバーが呼びかけから当日の運営を行い、地域の方 50 名の他、作業部会委員や事務局 21 名の計 71 名が参加しました。

隣人まつりで出された意見は、作業部会や策定委員会の議論で取り上げ、計画づくりに反映していきます。

### 第1部 全体会

作業部会のメンバー紹介の後、作業部会長の中谷さんから隣人まつりの趣旨について説明がありました。

その後、精華町の岩井さんから地域福祉計画の目的や内容、スケジュール等について説明がありました。

さらに、参加された方に地域福祉活動のイメージをもってもらうために、桜が丘地区の三原さんから PTA における携帯電話のメールを使った情報交換の取り組みについて、谷地区の永嶋さんから地区福祉委員会による支えあいの活動について、東畑地区の大谷さんから子ども見



守り隊の活動について報告が行われました。

## 第2部 班ごとに意見交換、発表

6つの班ごとに分かれて、作業部会委員の進行で意見交換を行いました。自己紹介の後、付箋紙と模造紙を使って作業部会メンバーの運営による意見交換を行いました。



「地域福祉を考える上で困っていること、問題だと思うこと」を出し合い、さらにそれらの解決策を考えました。全体で179件の問題点、96件の改善策が出されました（内容が重複するものを含む）。それらの意見について班ごとに発表を行い、精華南中学校区の地域福祉について、問題点や解決策をみんなで共有しました。

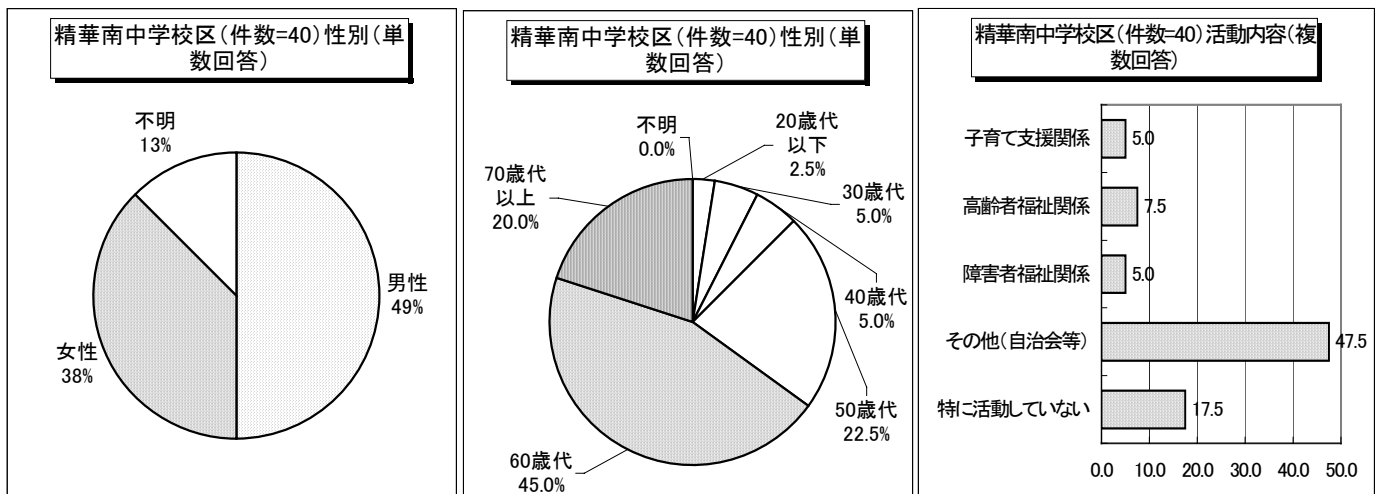
表 出された意見、改善策

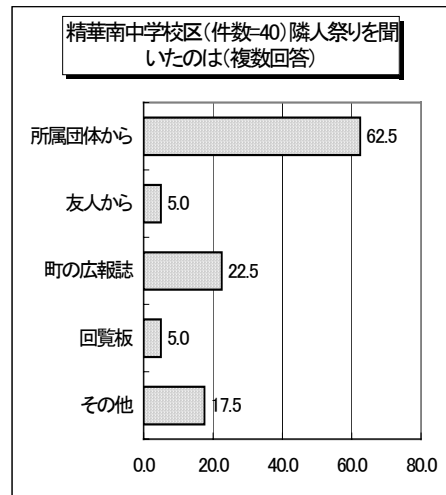
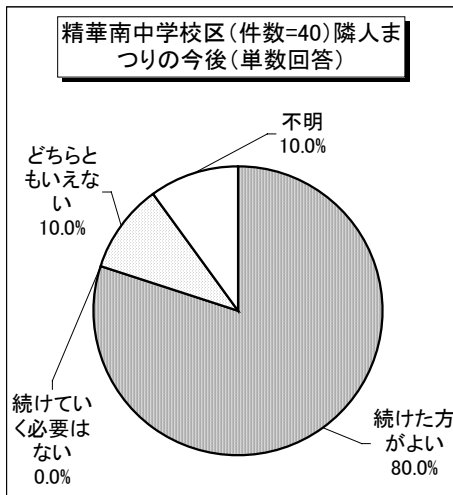
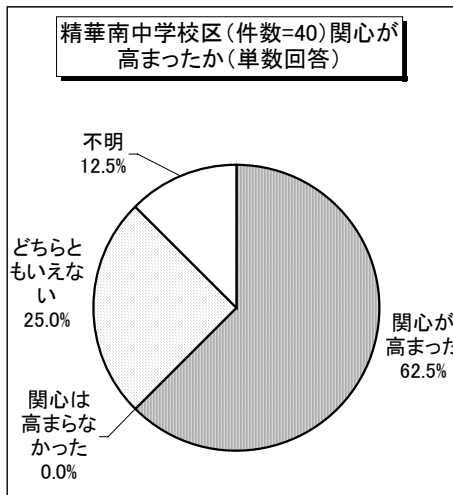
分類	件数	主な意見	主な解決策
人のつながりづくり	38	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣人（近所）と気軽に付き合いたい（挨拶）</li> <li>・各地域との交流ができるしっかりしたネットワークがほしい</li> <li>・隣人力の強化が必要ではないか</li> <li>・世代間の考え方の違い</li> <li>・年齢を超えた付き合いが少ない</li> <li>・旧村と新興の交流がない</li> <li>・地蔵盆がないので（地蔵がないため）子どもに伝えていけない</li> <li>・古くからの伝統行事について、若い世代は、守り、継承していく意思はあるが、金銭面と人員が減少している面で不安を感じている</li> <li>・自治会の加入率の悪さ</li> <li>・養護学校に通う障害児は地域に付き合いが少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山田川を通して環境（人のつながりづくり）が出来ないか</li> <li>・他地域が集まる懇談会の開催</li> <li>・自治会を越えての交流</li> <li>・2丁目集会場は公民館のように集まれるようにする</li> <li>・各自治会単位のサークルを桜ヶ丘全体のものにする</li> <li>・PTA活動の活性化</li> <li>・学校との連携</li> <li>・子供世帯の自治会加入促進</li> <li>・祭りなど行事を計画</li> </ul>
マナーなどの人との関わり	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬の飼い方の問題</li> <li>・車のマナーを守らない</li> <li>・ゴミ出しのマナーを守らない</li> <li>・挨拶をしっかりと欲しい</li> <li>・吸殻のポイ捨て（火災が心配）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター等でマナーを訴えかける</li> <li>・ボランティア活動に参加してもらう</li> </ul>
防災・防犯などの安全安心	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯パトロールの強化</li> <li>・暴走族の取り締まり強化</li> <li>・消防団の維持が困難</li> <li>・地区に自主防災組織を立ち上げて欲しい</li> <li>・交番がない</li> <li>・防犯灯の増設</li> <li>・奈良県木津川市と精華町の県境の防犯への疑問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治会の自主防災・防犯の強化</li> <li>・町会毎に高齢者・子供の見守り隊を養成、交流をする</li> <li>・消防署の増設</li> <li>・不審者などの情報公開</li> <li>・自宅まわりを明るくする</li> <li>・街路灯の増設</li> </ul>
ごみなどの環境美化	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化により地形的な条件からゴミ（古紙）を回収場所にもっていくのが困難</li> <li>・廃品回収、ペットボトル回収の日が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定のゴミ回収日を増やす</li> <li>・ゴミ分別の勉強会の開催</li> </ul>
環境の保全	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化による農業の担い手不足</li> <li>・空き地の草刈り後の後始末を行って欲しい</li> <li>・草刈りを増やして欲しい（国道163号線）</li> <li>・新旧住宅の格差により、同一基準で考えられない。</li> <li>・空区画の雑草が伸び放題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町で荒地の把握</li> <li>・農業生産法人をつくり、明いた農地を管理する。</li> <li>・農業の担い手の育成</li> </ul>
地域ぐるみの子育て支援	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧村の子どもが減少していることに対する将来への不安</li> <li>・若者と同居家庭が少ない</li> <li>・見守り隊の地域により活動が低調なのが心配</li> <li>・子育て支援センターの充実</li> <li>・育児サークルで子供がいるのに集まらない</li> <li>・子供が大声で遊んだり、ボール遊びをしたり安心してできる場がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金を増額し、子どもを地域で育てる環境作り。</li> <li>・校区ネットワーク会議で学校支援の具体化をすすめる</li> <li>・自治会と学校関係者の交流</li> <li>・人材バンク窓口を作りボランティアを派遣</li> <li>・府認定地域サポーター連絡協議会に問い合わせを</li> <li>・小中学生を見つけて声をかけてみる</li> <li>・年齢にこだわらずできることには</li> </ul>



分類	件数	主な意見	主な解決策
高齢者の在宅生活支援	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独居老人の増加</li> <li>・ 少子高齢化による医療費負担の問題</li> <li>・ 高齢者世帯の増加に伴うケアへの不安</li> <li>・ 地域と比べて福祉関係は劣っている？（ヘルパー・弁当など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加を促す</li> <li>・ 高齢者施設の設置（公立）</li> <li>・ 運動訓練のできる施設の設置（町立）</li> <li>・ 老健施設の誘致</li> <li>・ 老人会の活動を広める</li> </ul>
地域福祉の担い手の養成	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育てサポートをしているがボランティアがいない</li> <li>・ サポーターやボランティア養成講座を修了した人を知りたい</li> <li>・ ボランティア養成講座を中学区毎に開催し、修了したものの同士の交流がしたい</li> <li>・ 高齢者サロンが作りたいが、老人会もなければボランティアもない</li> <li>・ 高齢者の活躍できる場を</li> <li>・ 自治会、婦人会などの活動が独立して連携が不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要とされることで生きがいに繋がる</li> <li>・ 各種団体での人材活用、人材バンクの設置</li> <li>・ 地域のネットワークをつくる</li> </ul>
情報の共有	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人情報保護法による社会活動の弊害</li> <li>・ 災害時に隣人の情報が必要</li> <li>・ 緊急時の連絡網整備（個人情報の問題あり）どこに子供がいて、老人がどうしているか、などを誰が把握しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の公用、非公式名簿</li> <li>・ 自治会単位で論議</li> </ul>
計	134		
公共交通等の充実	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かしのき苑、むくのきセンターへのアクセス</li> <li>・ バスの本数が少ない増便を</li> <li>・ 住宅区内の大型車乗り入れの規制ができないか</li> <li>・ 大型スーパーによる交通量増加で子供の事故が心配</li> <li>・ 交通面が不便、車がないと移動が不便</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バスの運行時間、回数の見直し</li> <li>・ バス会社と地域行政の連携対策</li> <li>・ 警察とタイアップしてチェックを</li> <li>・ 道路規制を町から行う</li> </ul>
医療・福祉サービスの充実	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉サービス供給主体の不足（施設など）</li> <li>・ 緊急時の受け入れ先病院が少ない</li> <li>・ 小児科緊急医療の受け入れ先が限られている</li> <li>・ 障害のある人が学校を卒業してからの居場所の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談員体制の確立（チーム）</li> <li>・ 福祉問題の質問先を設ける（町のホームページ・自治会のしかるべき人、組織）</li> <li>・ 町社協との連携をはかる</li> </ul>
行政との連携	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共公益施設のかたより（川西地区と山田荘）</li> <li>・ 3歳未満（？）までの医療費補助はあるが、それを幼稚園、小学校低学年ぐらゐまで対象を広げてほしい。</li> <li>・ 町民のニーズの把握不足</li> <li>・ 住民が集まれる気軽な施設がない。</li> <li>・ もっと利用できるスポーツ施設などが欲しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共公益施設の適正配置計画の策定及び住民への説明</li> <li>・ タウンミーティング、町政懇談会、アンケートの実施</li> <li>・ 池谷公園辺りにコミュニティーセンターの設置</li> <li>・ 当面、自治会間で協議を進め、集会所単位の行事活動にも相互に乗り入れを図る</li> <li>・ 役場に町民の声を聞く係（直通電話）を置いて欲しい</li> <li>・ 私の仕事館をつかって施設の改革</li> </ul>
計	45		

### 参加者アンケートのまとめ





### 「続けた方がよい」と答えた理由

地域住民の声がかかるから 10件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他地域の人たちの意見を聞いて参考になったり、納得し、解決策が出てきた</li> <li>○新旧地域の人と話し合うことができ悩んでいることも違うということが分かり、続けることによってまた分かり合うことができる。</li> <li>○自分一人の考えと、万人の考えとを比較できる。</li> </ul>
集まること自体に意味があるから 8件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関心を持つという事が大事だと思います。</li> <li>○新・旧住民の交流を図る上での一手段である</li> <li>○近所でも特定の人しか話さない状況にある。少しでも話せる人を増やすことでも効果はある。</li> </ul>
もっと話し合う必要があるから 3件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一回だけでは理解されない。</li> <li>○今回は初回なのでもう少し続けたい。知らない人も多いはず。</li> <li>○集まって出た意見、要望を実行につなげてほしい。</li> </ul>
その他	○子供達に祭りの思い出をつくらせてやりたい。地域交流が必要。新地域には祭りが無い。

### 感想など

隣人ひろばの内容について 8件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学生が入り、今までにない新鮮なミーティングができたと思います。</li> <li>○地域にある様々な課題を共有し、解決策を考える中で、今日集まったメンバーの中での共通意識が生まれたと思います。これからの安全で住みよい町づくりのために一人一人が知恵を出し合うことを続けることが、つながりを深め、福祉活動を広げていくことになると思います。</li> <li>○地域福祉の取り組みがこんなに山積みが多いのか。いろんな意見が出され、今後の取り組みが大変かと思われませんが、人と人との交流ができた。</li> <li>○地域の福祉というよりも、国・中央の福祉の動向が気になります。精華町は良くやっている方だと思います。</li> </ul>
改善してほしいこと、提案 11件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年齢層の様々な方が話し合った方が色々な問題が出てくると思う。若い年代が少なかったのが残念。</li> <li>○KJ法のやり方ですが、もう少しテーマを絞った方が良かったと思った。なんでもは広すぎる。“私でもやれること”を皆でもっと出していけば良かったと思った。人材の発掘、把握。</li> <li>○ワークショップは誰でも主体参加として優れているが、運営にはリーダーの役割が大事で、論議の成否に決定的。時間配分の計算も行うことも大事。紹介と問題の出し合いで1時間かかっては議論にならない。1つのテーブルの人数は7人くらいまでが限度では。</li> <li>○限られた人たちだけの意見ではなく、アンケート形式で町内全戸に意見を聞くようにした方が良いのでは？実際意見や考えをもっている人でも、都合により今回来れなかった人もいます。</li> <li>○目的、背景、下資料等を配布するなど事前に予備知識があれば、掘り下げた意見を出すことができました。会議のための会議という感じがしました。したがって目新しい内容はなかったです。地域住民の意見を聞いたというひとつのステップか？</li> <li>○こうした集まりで、将来の住みやすい街づくりの住民の意見として、行政が受け止めてくれることを期待します。</li> </ul>

平成 20 年 9 月

精華町民生部福祉課 TEL0774-95-1904 FAX0774-95-3974

## 精華西中学校区 せいか隣人まつり 報告



平成 20 年 8 月 31 日（日）午後 1:30 から、精華町コミュニティセンターにて、精華西中学校区せいか隣人まつりが開催されました。隣人まつりは住民が主催する懇談会という、精華町にとって初めての試みです。

地域福祉計画策定に関わる作業部会メンバーが呼びかけから当日の運営を行い、地域の方 62 名の他、作業部会委員や事務局 21 名の計 82 名が参加しました。

隣人まつりで出された意見は、作業部会や策定委員会の議論で取り上げ、計画づくりに反映していきます。

### 第1部 全体会

作業部会のメンバー紹介の後、作業部会長の中谷さんから隣人まつりの趣旨について説明がありました。

その後、精華町の岩井さんから地域福祉計画の目的や内容、スケジュール等について説明がありました。

さらに、参加された方に地域福祉活動のイメージをもってもらうために、精華台地区の片山さんから住民による防犯活動の取り組みについて、東畑地区の浦井さんから子ども見守り隊の活動について、光台地区の金子さんからスクールヘルパーの活動について報告が行われました。



## 第2部 班ごとに意見交換、発表

8つの班ごとに分かれて、作業部会委員の進行で意見交換を行いました。自己紹介の後、付箋紙と模造紙を使って作業部会メンバーの運営による意見交換を行いました。



「地域福祉を考える上で困っていること、問題だと思うこと」を出し合い、さらにそれらの解決策を考えました。全体で246件の問題点、104件の改善策が出されました（内容が重複するものを含む）。

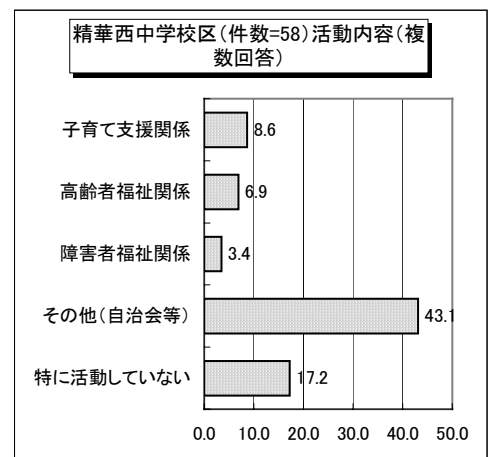
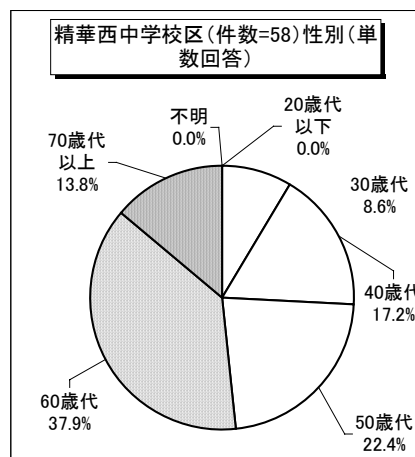
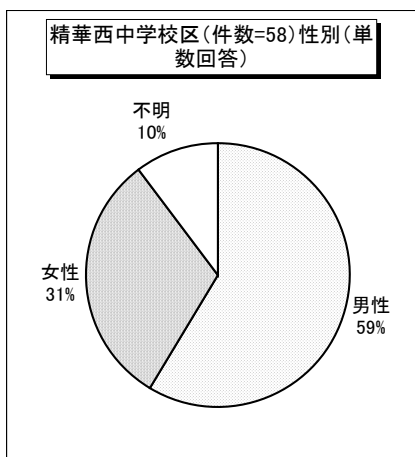
それらの意見について班ごとに発表を行い、精華西中学校区の地域福祉について、問題点や解決策をみんなで共有しました。

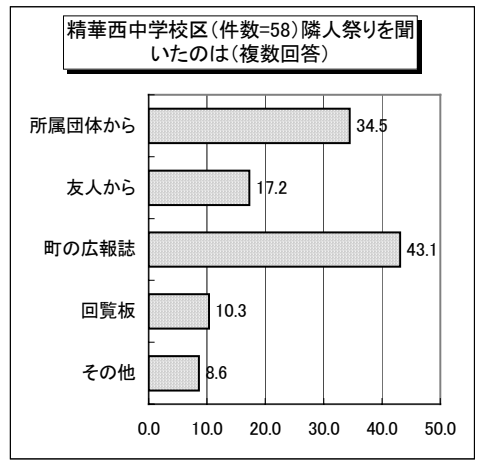
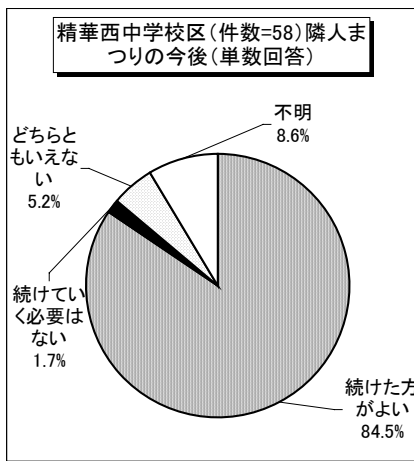
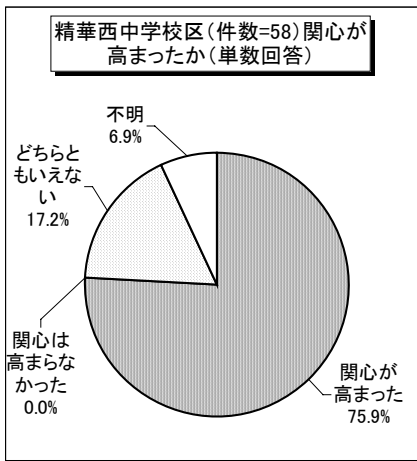
表 出された意見、改善策

分類	件数	主な意見	主な解決策
人のつながりづくり	39	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民同士のコミュニケーション触れ合う場が少ない</li> <li>・古くからの住民の方と知り合う機会がない</li> <li>・町内で子供の遊ぶ声を聞くのが少ない</li> <li>・自治会に対して関心がない人が多い</li> <li>・隣近所、特にアパート、マンションの協力が得られない</li> <li>・高齢者サロンをしているが、参加者が少ない</li> <li>・あいさつ運動がごく当たり前のできる地域に</li> <li>・自治会活動で、子供会が別団体となっており一体の活動がやりにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少数世帯の班の合併</li> <li>・役員、班長免除制度</li> <li>・自治会を中心にネットワークが出来たらと思います</li> <li>・自治会に加入するメリットを考える</li> <li>・無理のないリーダーと楽しい企画作り</li> <li>・県人会をすればおもしろいだろう</li> <li>・なんでもいいのでつくって交流する場</li> <li>・地域に根ざしたボランティアの育成</li> </ul>
マナーなど人との関わり	32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精華町のあいさつ運動の時、各自治会のご協力願えたら有り難いです</li> <li>・世代層の交流のなさを感じる、それぞれの若・中・高層の考えの違いがはっきりしている</li> <li>・公園および道路、犬のふん始末ができてないが改善策がないでしょうか？</li> <li>・住宅地内での迷惑駐車について、町上げて取りくんでほしいです</li> <li>・ゴミの問題で通りすがりの人がぼいとすてて行く事</li> <li>・ゴミに対する規則が町にない（タバコや缶のポイ捨て）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気づいた者からあいさつしていくような地道な活動が必要</li> <li>・罰金を入れた条例を作る</li> <li>・大人が手本を見せること</li> <li>・犬を野放しにできる公園をつくる</li> <li>・自治会でステッカーをはって迷惑している事を伝える</li> <li>・城陽市には市議会で議決された“犬のフン害防止条例”があります</li> </ul>
防災・防犯などの安全安心	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な災害等で一番大切なのは、隣近所とのつながり、これが少ないかな？</li> <li>・大きな災害が起こった時、家族が離ればなれの時、どうしたら良いか</li> <li>・子育てをターゲットにした犯罪が増えている</li> <li>・防犯の連絡網が自治会上層部とどまりず、末端まですみやかにとどく組織づくりを</li> <li>・若いお母さんの昼、朝のパトロールへの参加がない</li> <li>・駐輪場（駅前）が夜間暗くてこわい</li> <li>・光台交番におまわりさんがあまりいない</li> <li>・163号線に抜ける道路を大型車両が通行している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（地域単位）メーリングリストの利用</li> <li>・防犯灯の増加（明るくすれば犯罪しにくい）</li> <li>・消防、自治会による意識啓もう活動（訓練）の実施</li> <li>・住民からニーズを上げていく→安全委員へ</li> <li>・行政へ要望し、交通の実態調査をしてもらい、改善する</li> </ul>
環境の保全	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑草、植木等のカットを早くする</li> <li>・学校・学校周辺の美化（主に除草）</li> <li>・各種団体で草刈りの折、缶ゴミ等有り 立札お願い</li> <li>・ゴミ出しのルールが守られていない（収集されず残る）</li> <li>・府・町道の草刈りを年に二回してほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の一斉清掃だけでは不十分なので、業者委託等も利用しては</li> <li>・衛生課の方がリサーチして回収して欲しい</li> <li>・雑草等のカット、5月、8月、の2回実施、役場へ申し入れ</li> <li>・ゴミ袋に名前を書く</li> <li>・自治会での話し合い</li> </ul>

分類	件数	主な意見	主な解決策
地域ぐるみの子育て支援	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児中の食事支援</li> <li>・核家族の父母の就労不安</li> <li>・学童保育の有り方の見直しと利用者のニーズの把握に努めてほしい</li> <li>・子どもの遊び場が限られている</li> <li>・母親が長期の入院等になった際子供の事が心配、病児保育</li> <li>・いつでも気軽に立ち寄れる場所づくり（子育て中のお母さん、子ども、他の年代の方</li> <li>・子どもに注意、声かけのできる地域づくり</li> <li>・親が子育てで勉強する場が少ない</li> <li>・子供たちへの地域住民の見守り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会子育て支援センター制度がある</li> <li>・子育て支援には老人の力を借りるのも一案</li> <li>・学童保育、同級生で家に人（親）がいる友達の家と一緒に遊べるようなしくみを考える</li> <li>・持主に協力してもらい、空地を活用させてもらう</li> <li>・学校の図書館などの地域開放</li> </ul>
地域福祉の担い手の養成	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまりボランティア～とむずかしく考えないで地域活動をしたい</li> <li>・ボランティアの担い手が少ない</li> <li>・ボランティア不足、コーディネーター役がない</li> <li>・お互いに協力して物事を解決しようとする人が少ない</li> <li>・各団体（自治会、老人会、子ども会、その他のサークル）との横のつながりが少ない</li> <li>・男性（働き盛りの）の地域参加が少ない</li> </ul>	—
世代間などの交流	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代交流、例えば、育児サークルと老人サロンとの交流があればいい</li> <li>・異世代交流の場が必要では</li> <li>・意識の無い方や発言できない方の場が必要では</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協の方の仲立ちがあればいいのでは</li> <li>・意見を自由に出せる web</li> <li>・自治会を中心に横のつながりをつくる！</li> <li>・つなげていく人材を増やす、確保する</li> </ul>
情報の共有	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の法的制約と過剰反応により地域が見えにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会でお手伝い（無料）します情報登録制</li> <li>・広報活動をしっかりして自ら声をだしてもらおう</li> </ul>
計	166		
公共交通の充実	42	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車をもっていないと生活しづらい</li> <li>・くるりんバスのバス停を増やしてほしい</li> <li>・くるりんバスを東畑の中心まで延ばしてほしい</li> <li>・くるりんバスの起点をかしのき苑にして利用者を増やす</li> <li>・横断歩道や歩行者のための道がない（東畑など）</li> <li>・朝晩の通勤、通学時間帯の交通ルール無視多発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査して良い運行を考える</li> <li>・福祉タクシー事業を提案、実行する</li> <li>・警察によるパトロールの強化（早朝、夜間含む）</li> <li>・関係団体で話し合い、役場、警察に要望活動する</li> </ul>
公共公益施設の整備	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽にスポーツできる施設がほしい</li> <li>・JR 祝園駅にエレベーター、待合室をつけて欲しい（改札からホームへ）</li> <li>・精華町として大きなグラウンドがない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会でまとめて行政へ要望を出す</li> <li>・府・町・行政の区別をなくすべき</li> </ul>
行政との連携	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉予算の拡大</li> <li>・福祉事業が統一されて実施されているのか不明に思う</li> <li>・福祉活動の広報（華創に各団体の活動紹介等）</li> <li>・地域の民生委員を知らない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民にわかりやすい条例を設けてほしい（啓蒙活動を行う）</li> <li>・行政と話し合う場を作る</li> </ul>
計	79		

## 参加者アンケートのまとめ





### 「続けた方がよい」と答えた理由

多くの意見を聞けるから 14 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○同じ地域に住んでいても感じることは様々なので、情報共有・意見交換することは住みやすい町を作るために良いと思う。</li> <li>○一人一人の小さな声から始めていかなければ大きなものにならない。近隣の皆で仲良く助け合うことが大切。</li> <li>○地域の問題を住民自身が発表できる。</li> <li>○年代、地域を問わずに話し合いができるので良い。</li> </ul>
集まることに意味があるから 9 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意識が高くなる。人とのつながりを再考するよい機会になった。</li> <li>○とりあえず多くの人が顔見知りになればよい。</li> <li>○様々な情報の共有や連帯感の深まり</li> </ul>
もっと良い話し合いをしたいから 10 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○始まりとしてはいいが、範囲が広すぎて漠然とした議論になった。</li> <li>○時間的な制約で、皆さんの意見を伺う時間が少なくなって、駆け足となってしまったため。</li> <li>○今回の提起内容を深めた議論を進めていく必要あり。</li> <li>表に出てこない方の呼びかけが必要。</li> <li>○切実な問題があり、解決の道を探るべき。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関心が高まり充実するには続けたらよい。</li> <li>○住民活動をする上での最低限必要な場と思う。</li> </ul>

### 感想など

内容について 8 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○色々な意見が出たように思うが、ほとんどみんなが思っていることは同じだと思った。</li> <li>○隣人まつりという意味も良く分からずに参加させていただきましたが、いろいろな福祉、安全活動に関わっている方々のお話が聞けてよかったです。できることから参加させて頂きたいと思いました。</li> <li>○朝日新聞でも隣人まつりの事が紹介され、今日参加してその意義的なものがとても実感できました。皆さんのお話を伺っていて、個々の地域に対する願いや、こうしたいという意欲の高さがすごく感じられたので、今後その熱意をくみ上げるネットワーク作りというか住民参加のスタイルをぜひ作り上げていってほしいと思いました。</li> <li>○多くの方々の関心がある限り、地域の発展はあると確信をもちました。</li> <li>○地域の捉え方が各々で違うと思います。まず自分は地域をどう捉えていて、どうしようと考えているか、もっと知っていきたいです。行政や自治会で用意されている取り組み等もあると思いますが、知らない方、見えていない方、参加できないの方が大切で、そう思うとまず私がどんな隣人になるか…など、意識して考えられる場所、場所作りが必要だと思います。</li> </ul>
改善してほしいこと・提案 18 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題の解決には住民が自らの力を出す方向にしていくと地域連携が取れるのでは。活性化につながる。</li> <li>○隣人まつりだからもう少し近所のコミュニティの話とっていましたが…。これでは行政へのお願いが多いようです。</li> <li>○内容の方向性が広すぎていまいつかみきれない。回数を増やし、方向性を絞ればよい。</li> <li>○もう少し年代別に住民が集まってもらいたい。中学、高校、20代、30代...とテーマを決めて話し合うことも良いかも。年に2回はしてもらいたい。住民がいつも自分の町をどのようにしたいのか考える場の提供をしてほしい。</li> <li>○今回の参加は自治会や地域に関心のある人が多かったと思う。今後は関心の低い層や中間層に対する意識付けが必要。自治会単位などの小単位で開催すればどうか？警察署、消防署、行政がオブザーバーで出席が必要。</li> </ul>



## 6 アンケート調査結果の概要

### (1) 調査の目的

精華町地域福祉計画策定にあたって、地域福祉に関わる住民の意識や活動実態、施策に対する要望を把握することにより、基礎資料として活用することを目的としています。

### (2) 調査方法及び回収状況

#### ①調査対象

平成 20 年 4 月現在の住民基本台帳に記載されている方を対象者として実施しました。

②調査期間 平成 20 年 7 月 18 日（金）～8 月 1 日（金）

③調査方法 郵送配布、郵送回収方式

#### ④調査対象数と回収状況

調査対象数 (A)	2,000 人
回収数 (B)	1,051 人
回収率 (B) ÷ (A)	52.6 %

#### ⑤調査データの表示について

- 構成比の%は小数点第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計は 100%にならない場合があります。
  - 複数回答の構成比は回答数を回答者数（件数）で割っているため、内訳の合計は 100%を超えることになります。
- グラフ上の「不明」には「無回答」の件数を含んでいます。

### (3) 調査結果

#### ①回答者の概要

##### 高齢者の声が多く反映されていることに留意する必要があります

- 回答者の性別は男：女が概ね4：6となっており、年齢別では「60歳代以上（52.3%）」が約半数を占めています。
- 回答者の居住年数は、「10年未満（37.8%）」「10～20年未満（24.0%）」「20年以上（37.3%）」となっています。居住年数10年未満ないしは20年以上の新旧住民がそれぞれ4割弱を占めています。
- 町全体の人口と回答者を比較すると、20、30歳代の回答者が少なく、一方で70歳代以上の回答者が多いことから、回答者全体の傾向を見る場合には、若い世代の声が少なく、高齢者の声が多く反映されていることに配慮が必要です。

##### 精華西中は1/4が居住年数5年未満の新しい住民となっています

- 中学校区別に居住年数をみると、精華西中は回答者の約6割が「10年未満（62.9%）」、概ね1/4が「5年未満（22.8%）」となっています。

問1 あなたの性別についてお答えください。

問2 あなたの年齢についてお答えください。

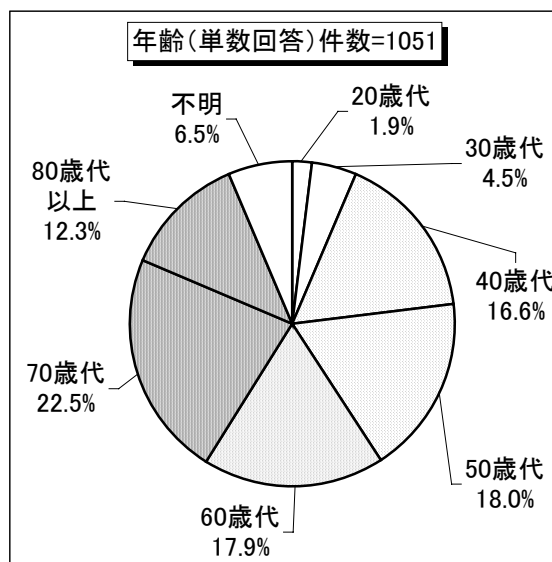
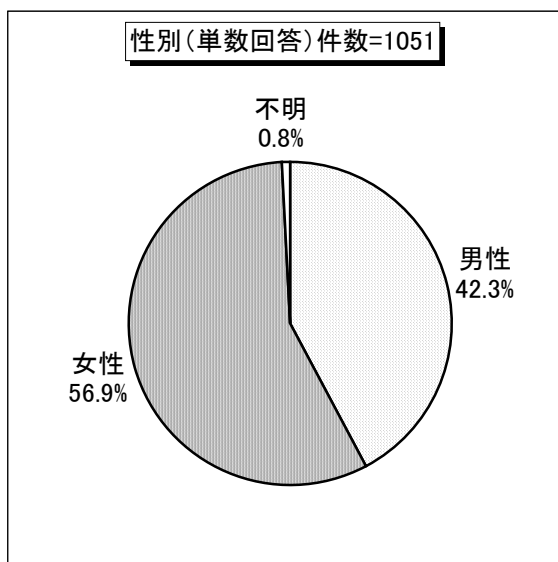




表 町全体と回答者の比較

		20歳代未満	20歳代以上	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	不明
精華町全体	35,798	8,475	27,323	3,756	5,817	5,111	4,921	4,136	2,289	1,293	—
平成20年4月1日	-	-	100.0%	13.7%	21.3%	18.7%	18.0%	15.1%	8.4%	4.7%	—
アンケート調査回答者	1,051	-	1,051	20	47	174	189	188	236	129	68
	100.0%	-	100.0%	1.9%	4.5%	16.6%	18.0%	17.9%	22.5%	12.3%	6.5%

問3 あなたの精華町における居住年数についてお答えください。

問4 あなたのお住まいの地区についてお答えください。

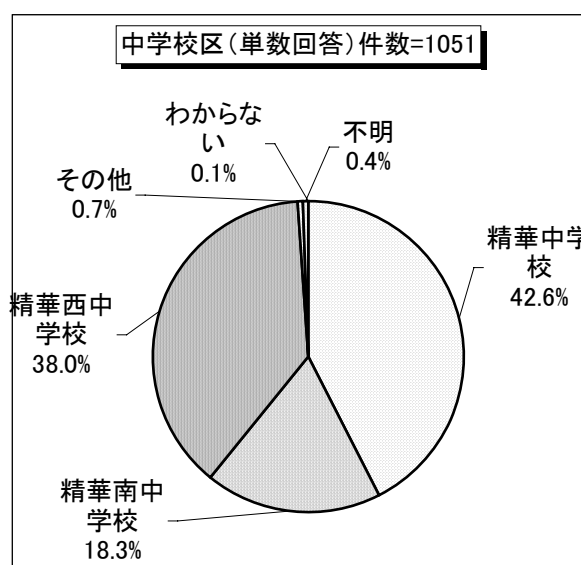
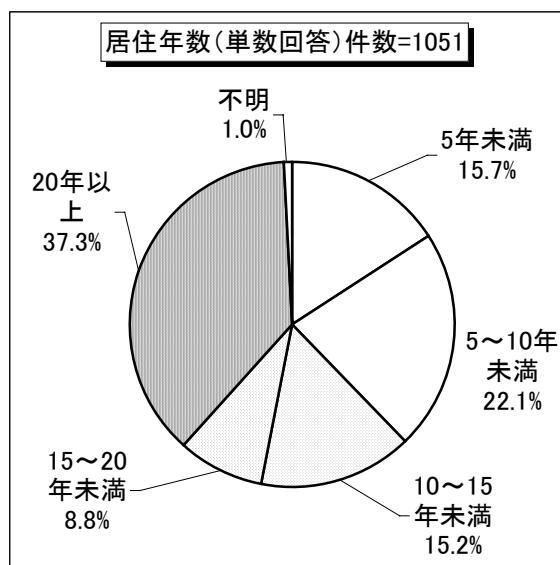


表 居住地区(中学校区) × 居住年数

	全体	5年未満	5~10年未満	10~15年未満	15~20年未満	20年以上	不明
合計	1051	165	232	160	92	392	10
	100.0	15.7	22.1	15.2	8.8	37.3	1.0
精華中	448	46	30	40	41	287	4
	100.0	10.3	6.7	8.9	9.2	64.1	0.9
精華南中	192	23	41	40	30	56	2
	100.0	12.0	21.4	20.8	15.6	29.2	1.0
精華西中	399	91	160	80	21	44	3
	100.0	22.8	40.1	20.1	5.3	11.0	0.8
不明	12	5	1	0	0	5	1
	100.0	41.7	8.3	0.0	0.0	41.7	8.3

## ②近所の支えあいの状況

### 身近な町内会ないしは精華町全体が地域の範囲として認識されています

- 住民が考える地域の範囲は、「町内会、自治会（46.9%）」が最も多く、「精華町全体（24.5%）」が続いています。
- 小学校区、中学校区の圏域を地域と考える人は多くなく（16.6%）、より身近な町内会ないしは精華町全体が、地域の範囲として認識されています。

### 居住年数5年未満の約4割が手助けをお願いできる人がいません

#### 精華西中は1/4が居住年数5年未満であり孤立化のおそれがあります

- 約半数が「親しいお宅がある（46.1%）」一方で、「近所づきあいはほとんどない（5.9%）」人がおり、平成14年度調査と同様の傾向にあります。
- 困っている人がいたら「手助けしたい（78.7%）」が8割弱ある一方で、約1/4の人は「手伝ってもらえる近所の人がない（23.5%）」と答えています。
- なかでも居住年数5年未満の回答者では、約2割が「近所づきあいはほとんどない（20.0%）」、約4割が「手助けをお願いできる人がいない（41.2%）」と答えています。
- 精華西中は回答者の概ね1/4が居住年数5年未満であり、地域において孤立化のおそれがあります。

### 手助けをお願いしたいことでは緊急災害時の援助が突出しています

- 手助けをお願いしたいことは「緊急災害時援助（53.1%）」が突出しています。
- その他に「家族が病気の時の援助（21.5%）」「高齢者の安否確認、声かけ（20.6%）」「子どもの安全確保、声かけ（19.6%）」の回答があります。

問5 あなたの考える「地域」の範囲をお答えください。

問6 あなたは隣近所とどのようなおつきあいをされていますか。

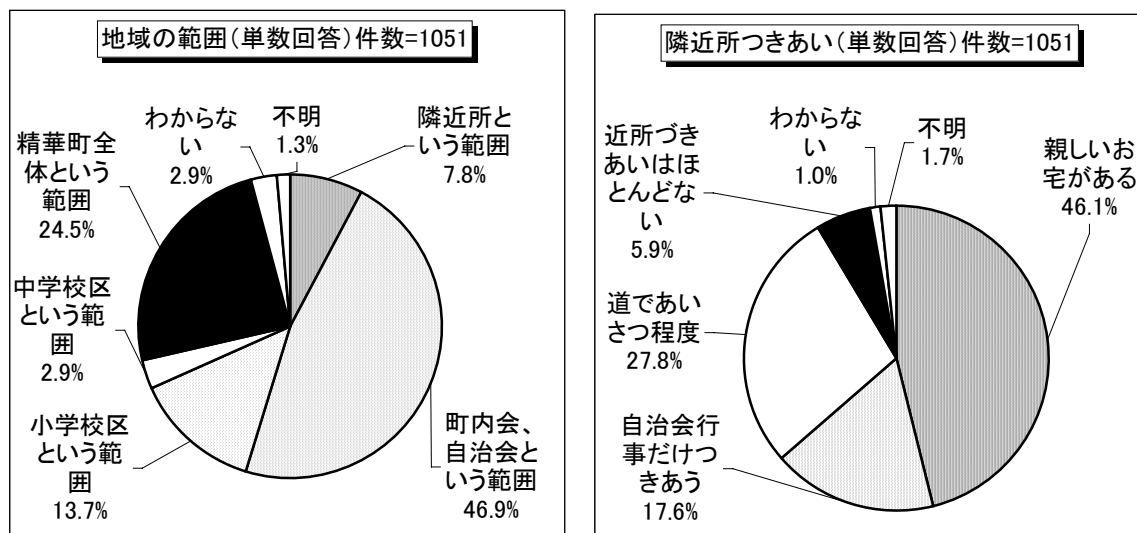


表 隣近所とのつきあい（平成14年度調査との比較）

	全体	親しくおつきあいの お宅がある	自治会や隣近所の行事 だけつきあう	道で会えばあいさつを する程度	近所づきあいはほとん どない
今回の調査 (わからない、不明を除く)	1023	484	185	292	62
	100.0	47.3	18.1	28.5	6.1
平成14年度調査	845	498	100	217	30
	100.0	58.9	11.8	25.7	3.6

表 居住年数×隣近所とのつきあい

	全体	親しくおつきあいの お宅がある	自治会や隣近所の行事 だけつきあう	道で会えばあいさつを する程度	近所づきあいはほとん どない	わからない	不明
合計	1051	484	185	292	62	10	18
	100.0	46.1	17.6	27.8	5.9	1.0	1.7
5年未満	165	39	28	59	33	5	1
	100.0	23.6	17.0	35.8	20.0	3.0	0.6
5～10年未満	232	102	49	69	7	2	3
	100.0	44.0	21.1	29.7	3.0	0.9	1.3
10～15年未満	160	58	32	57	9	1	3
	100.0	36.3	20.0	35.6	5.6	0.6	1.9
15～20年未満	92	42	20	26	3	0	1
	100.0	45.7	21.7	28.3	3.3	0.0	1.1
20年以上	392	240	56	76	10	2	8
	100.0	61.2	14.3	19.4	2.6	0.5	2.0
不明	10	3	0	5	0	0	2
	100.0	30.0	0.0	50.0	0.0	0.0	20.0

問7 あなたは隣近所で困っている人がいたら、手助けしたいと思いますか。

問8 あなたは困った時に、手助けをお願いできる近所の人がありますか。

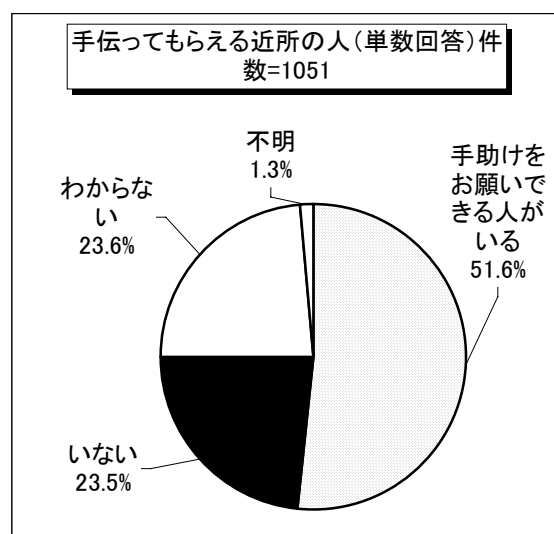
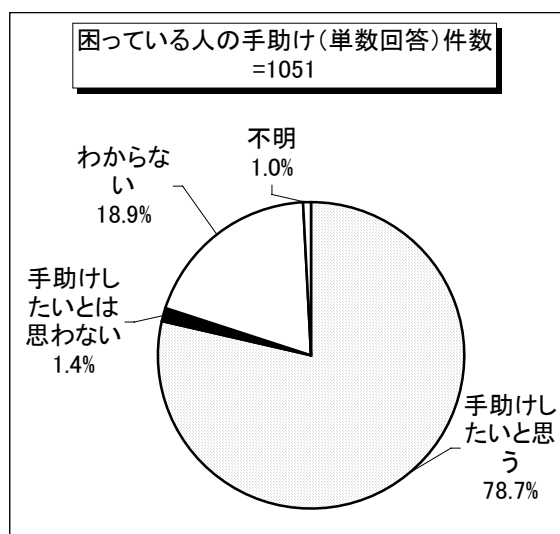


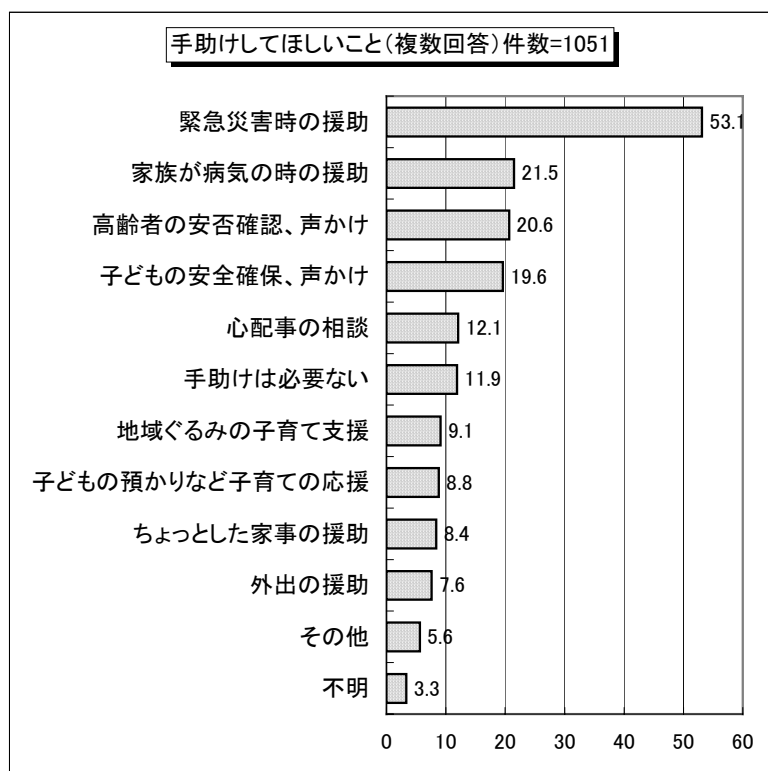
表 居住地区（中学校区）×手伝ってもらえる近所の人

	全体	手助けをお願いできる 人がいる	いない	わからない	不明
合計	1051 100.0	542 51.6	247 23.5	248 23.6	14 1.3
精華中	448 100.0	263 58.7	77 17.2	97 21.7	11 2.5
精華南中	192 100.0	89 46.4	48 25.0	53 27.6	2 1.0
精華西中	399 100.0	184 46.1	117 29.3	97 24.3	1 0.3
不明	12 100.0	6 50.0	5 41.7	1 8.3	0 0.0

表 居住年数×手伝ってもらえる近所の人

	全体	手助けをお願いできる 人がいる	いない	わからない	不明
合計	1051 100.0	542 51.6	247 23.5	248 23.6	14 1.3
5年未満	165 100.0	49 29.7	68 41.2	48 29.1	0 0.0
5～10年未満	232 100.0	112 48.3	69 29.7	48 20.7	3 1.3
10～15年未満	160 100.0	72 45.0	46 28.8	39 24.4	3 1.9
15～20年未満	92 100.0	36 39.1	17 18.5	38 41.3	1 1.1
20年以上	392 100.0	266 67.9	47 12.0	72 18.4	7 1.8
不明	10 100.0	7 70.0	0 0.0	3 30.0	0 0.0

問9 あなたが手助けをお願いしたいことについてお答えください。



### ③高齢者世帯、子育て世帯の状況

4割弱は高齢者がいる世帯、その約2割が独居高齢者、約4割は夫婦共に65歳以上です

- 回答者全体の4割弱が「世帯に高齢者がいる (36.7%)」と答えています。
- 高齢者がいる世帯のうち約2割が「高齢者のひとり暮らし (19.7%)」であり、約4割は「夫婦共に65歳以上 (46.1%)」です。

問10 あなたと一緒に暮らす高齢者(65歳以上)の方についてお答えください。

10-1 あなたを含めて世帯に高齢者(65歳以上)の方がおられますか。

10-2 あなたと一緒に暮らす世帯構成についてお答えください。

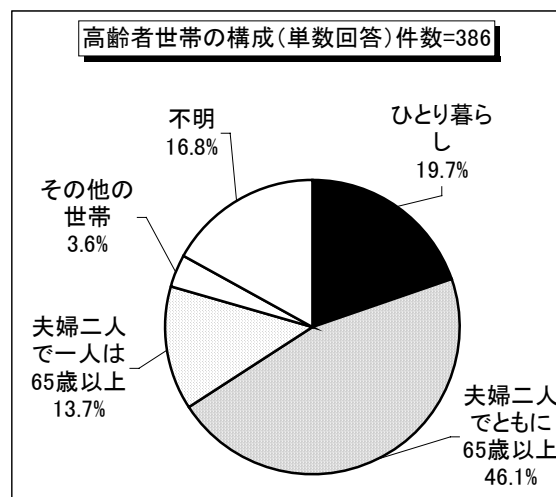
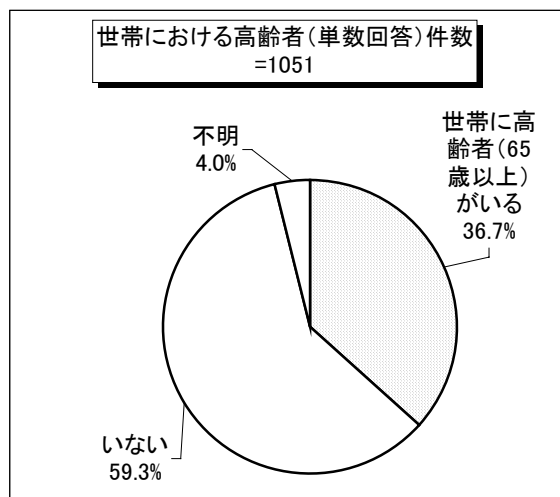


表 居住地区（中学校区）×世帯構成（高齢者世帯）

	全体	ひとり暮らし（あなたのみ）	夫婦二人暮らし（あなたとも65歳以上）	夫婦二人暮らし（一人で65歳以上）	その他の世帯	不明
合計	1051 100.0	76 19.7	178 46.1	53 13.7	14 3.6	65 16.8
精華中	448 100.0	40 19.3	100 48.3	23 11.1	10 4.8	34 16.4
精華南中	192 100.0	16 23.2	34 49.3	9 13.0	0 0.0	10 14.5
精華西中	399 100.0	20 18.3	43 39.4	21 19.3	4 3.7	21 19.3
不明	12 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

2 割弱は子育て世帯で、その8割弱が子育ての応援が必要な核家族です

- 回答者全体の2割弱「小学生までの子どもがいる（17.3%）」と答えています。
- 小学生までの子どもがいる子育て世帯のうち8割弱は「核家族（78.0%）」であり、子育ての応援が求められています。

問 11 あなたと一緒に暮らす子どもについてお答えください。

11-1 あなたの世帯に小学生までの子どもがおられますか。

11-2 世帯構成についてお答えください。

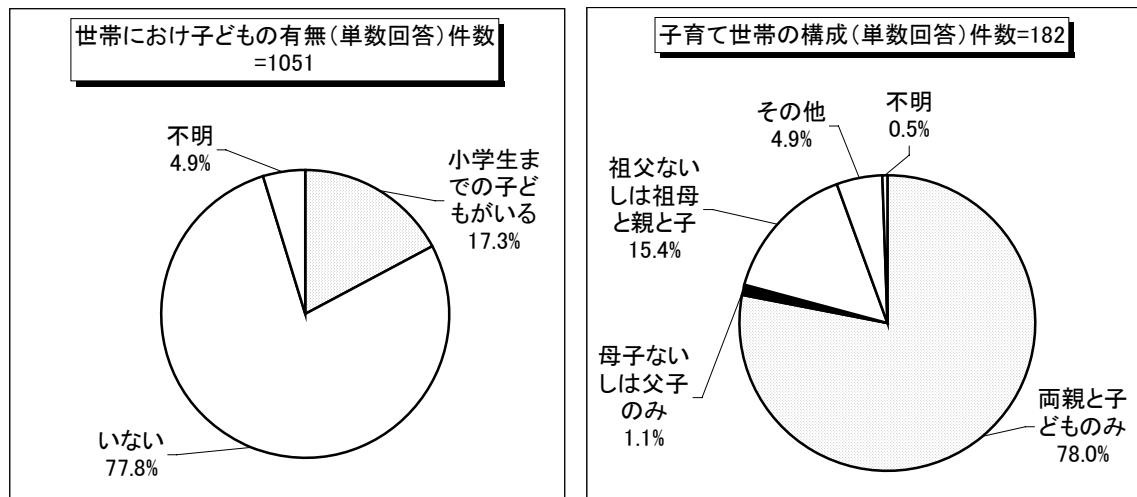


表 居住地区（中学校区）×世帯構成（子育て世帯）

	全体	両親と子どものみ	母子ないしは父子のみ	祖父ないしは祖母と親子	その他	不明
合計	1051 100.0	142 78.0	2 1.1	28 15.4	9 4.9	1 0.5
精華中	448 100.0	44 80.0	0 0.0	7 12.7	3 5.5	1 1.8
精華南中	192 100.0	16 61.5	0 0.0	8 30.8	2 7.7	0 0.0
精華西中	399 100.0	80 81.6	2 2.0	13 13.3	3 3.1	0 0.0
不明	12 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0

#### ④困った時の相談先等

若い世代ほど相談先を知らない傾向がありますが、情報の入手先は多様です

- 20、30歳代の約5割、40、50歳代の約4割が「困ったときの相談先を知らない」と答えています。
- 20、30歳代では、「精華町の広報誌（35.8%）」「家族・親族（38.8%）」「インターネット（35.8%）」のように、情報の入手先は多様です。一方、60歳以上では「精華町の広報誌（76.1%）」が8割弱を占めています。

問12 あなたは、健康や福祉に関する情報をどこから得ていますか。

問13 あなたは、生活や介護などで困った時に、どこに相談すればいいか知っていますか。

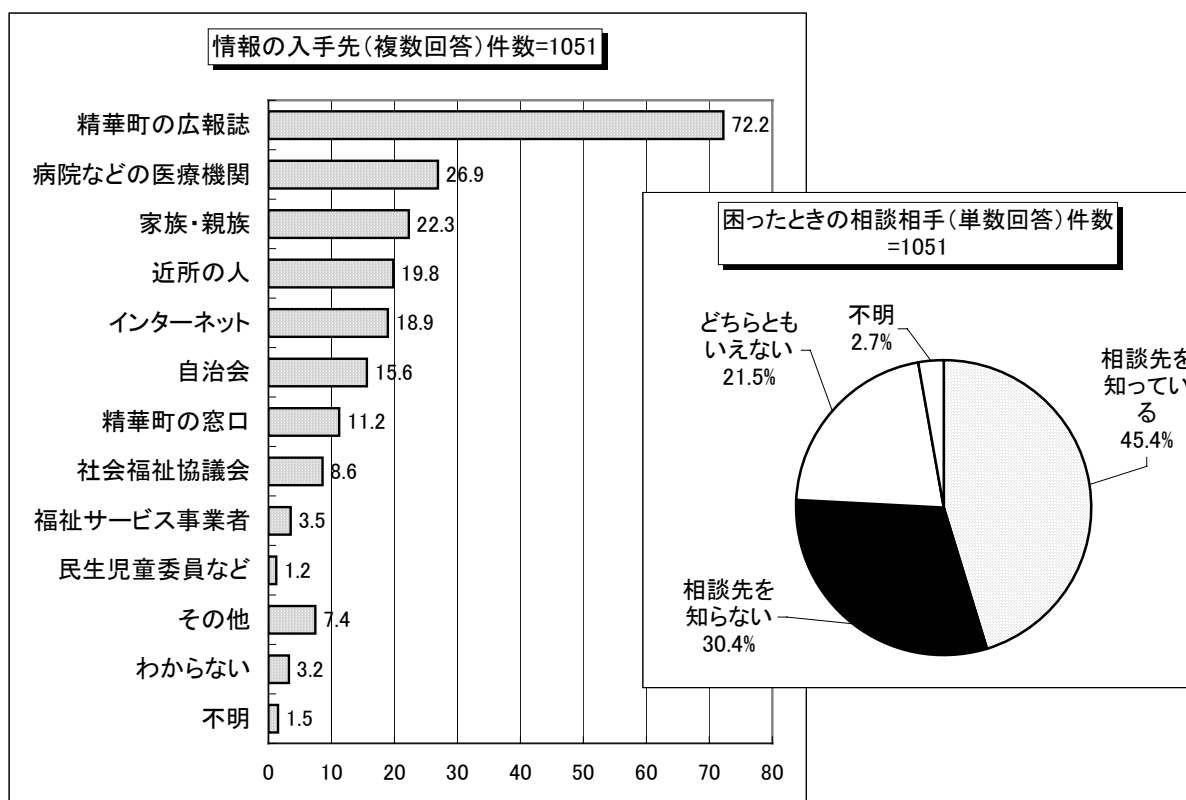


表 年齢(3区分)×情報の入手先

	全体	精華町の広報誌	病院などの医療機関	家族・親族	近所の人	インターネット	自治会
合計	1051 100.0	759 72.2	283 26.9	234 22.3	208 19.8	199 18.9	164 15.6
20、30歳代	67 100.0	24 35.8	6 9.0	26 38.8	5 7.5	24 35.8	4 6.0
40、50歳代	363 100.0	280 77.1	72 19.8	62 17.1	69 19.0	107 29.5	51 14.0
60歳代以上	553 100.0	421 76.1	183 33.1	121 21.9	122 22.1	65 11.8	99 17.9

表 年齢（3区分）×困った時の相談先の有無

	全体	相談先を知っている	相談先を知らない	どちらともいえない	不明	非該当
合計	1051 100.0	477 45.4	320 30.4	226 21.5	28 2.7	0
20、30歳代	67 100.0	15 22.4	34 50.7	18 26.9	0 0.0	0
40、50歳代	363 100.0	112 30.9	151 41.6	99 27.3	1 0.3	0
60歳代以上	553 100.0	314 56.8	120 21.7	103 18.6	16 2.9	0
不明	68 100.0	36 52.9	15 22.1	6 8.8	11 16.2	0

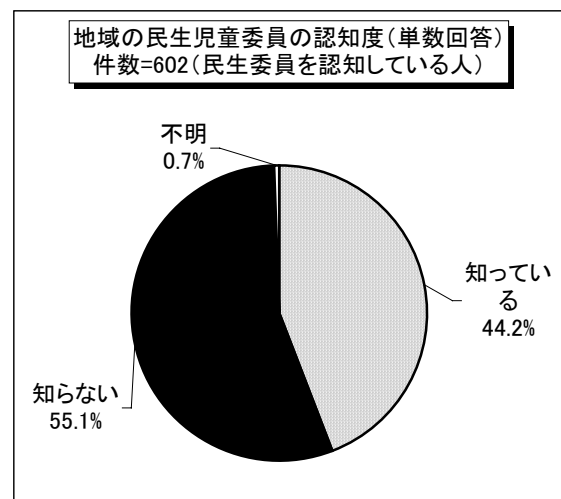
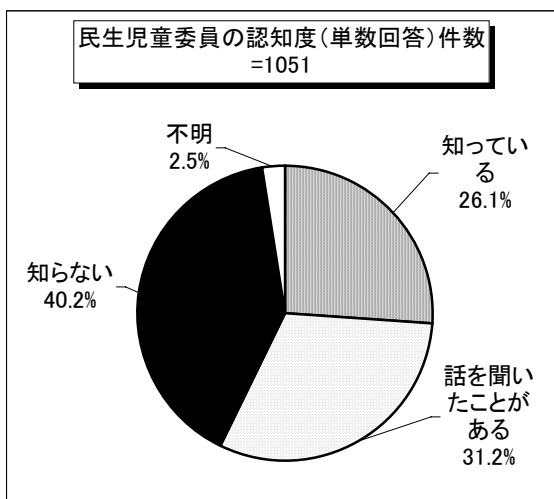
約5割は相談先である民生児童委員を認知しており、うち4割は地域の委員を知っています

- 聞いたことがあるを併せると、回答者全体の約5割は「民生児童委員を知っている+話を聞いたことがある（57.3%）」と答えています。
- 民生児童委員を知っている、聞いたことがある回答者について、自分の地域の民生児童委員について約4割は「地域の委員を知っている（44.2%）」と答えています。

問14 あなたの地域の民生児童委員さんについてお答えください

14-1 民生児童委員の役割や活動をご存じですか。

14-2 あなたは、あなたの地域の民生児童委員さんをご存じですか。





## ⑤自治会等の地域組織について

### 過半数が地域団体の活動に参加していますが、若い世代は参加に消極的です

- つきあい程度を含めると、回答者全体の過半数（55.1%）が自治会などの地域団体に参加をしています。
- 一方で、約 1/4 は「全く参加していない（24.8%）」と答えています。
- 回答者全体の約 4 割は自治会などの地域団体を必要（大いに必要+どちらかといえば必要 44.7%）と答えています。
- 20、30 歳代では地域団体の必要性は約 2 割（20.9%）にとどまっています。

問 15 地域団体の活動への参加についてお答えください。

15-1 あなたは地域団体の活動にどの程度参加されていますか。

15-2 地域団体の活動に参加しない理由についてお答えください。

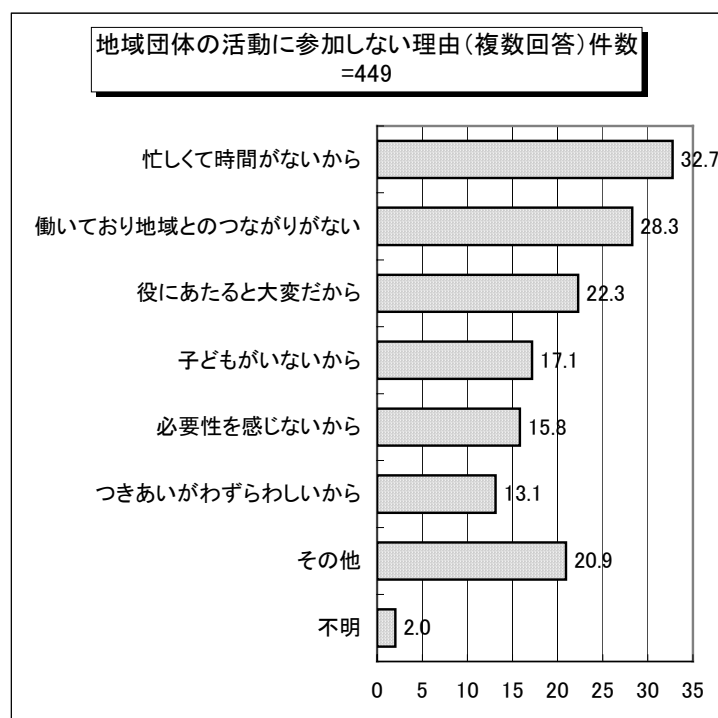
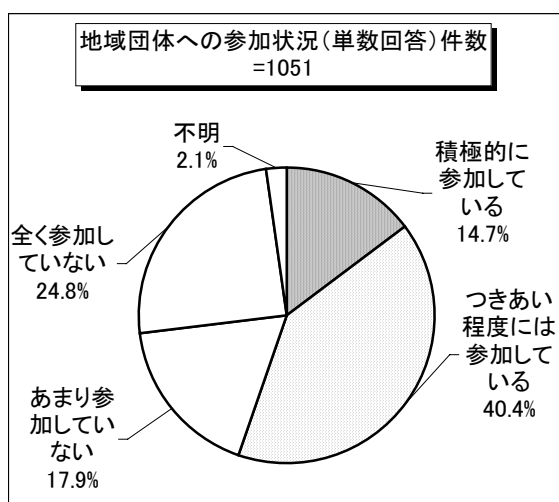


表 居住地区（中学校区）×地域団体への参加状況

	全体	積極的に参加している	つきあい程度には参加している	あまり参加していない	全く参加していない	不明
合計	1051 100.0	155 14.7	425 40.4	188 17.9	261 24.8	22 2.1
精華中	448 100.0	68 15.2	167 37.3	69 15.4	127 28.3	17 3.8
精華南中	192 100.0	30 15.6	77 40.1	39 20.3	44 22.9	2 1.0
精華西中	399 100.0	57 14.3	178 44.6	79 19.8	83 20.8	2 0.5
不明	12 100.0	0 0.0	3 25.0	1 8.3	7 58.3	1 8.3

15-3 地域団体の活動について、どのような感想をおもちですか。

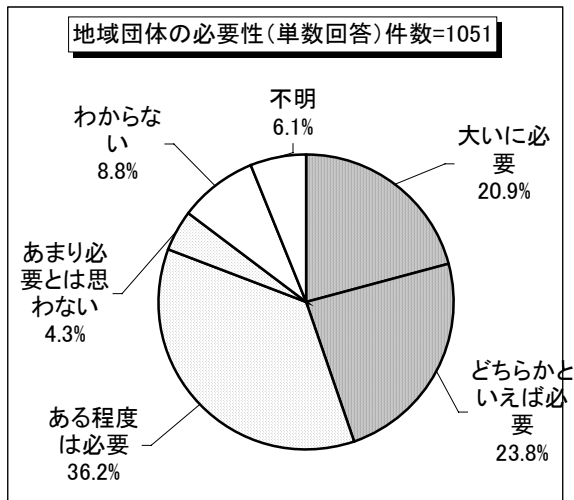


表 年齢（3区分）×地域団体の必要性

	全体	大いに必要	どちらかといえば必要	ある程度は必要	あまり必要とは思わない	わからない	不明
合計	1051 100.0	220 20.9	250 23.8	380 36.2	45 4.3	92 8.8	64 6.1
20、30歳代	67 100.0	5 7.5	9 13.4	26 38.8	0 0.0	24 35.8	3 4.5
40、50歳代	363 100.0	54 14.9	93 25.6	160 44.1	20 5.5	26 7.2	10 2.8
60歳代以上	553 100.0	143 25.9	138 25.0	177 32.0	23 4.2	34 6.1	38 6.9
不明	68 100.0	18 26.5	10 14.7	17 25.0	2 2.9	8 11.8	13 19.1

## ⑥ボランティア活動やNPO活動について

1/4 はボランティアやNPO活動の経験があり、若い世代を中心に3割弱は参加意向があります

- 回答者全体の1/4 (25.3%) がボランティアやNPOへの参加経験があります。また、回答者全体の約3割 (33.9%) に今後の参加意向があります (平成14年度調査では9.2%が「参加している」と答えています)。
- 20、30歳代でも約2割 (20.9%) に参加経験があります。また、3割弱 (28.3%) に今後の参加意向があります。

問16 ボランティア活動やNPO活動への参加についてお答えください。

16-1 あなたはボランティア活動やNPO活動に参加されたことがありますか。

16-2 ボランティア活動やNPO活動に活動に参加しない理由についてお答えください。

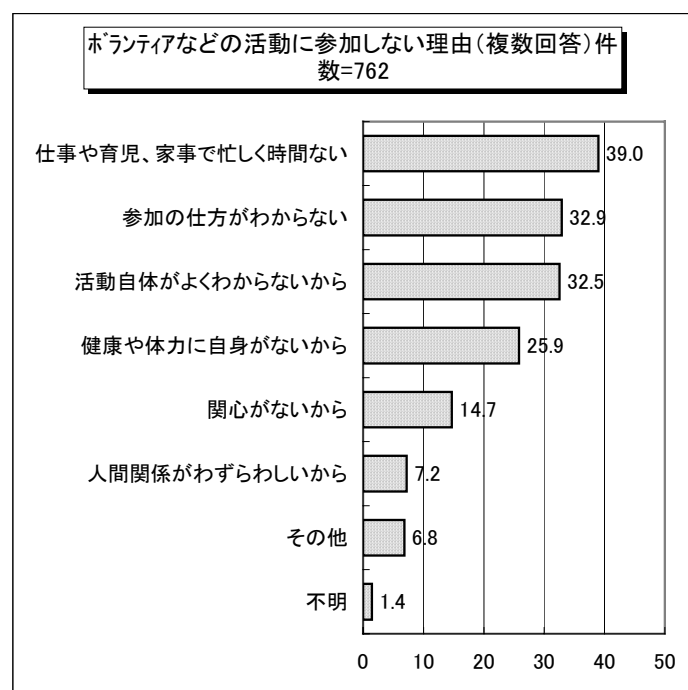
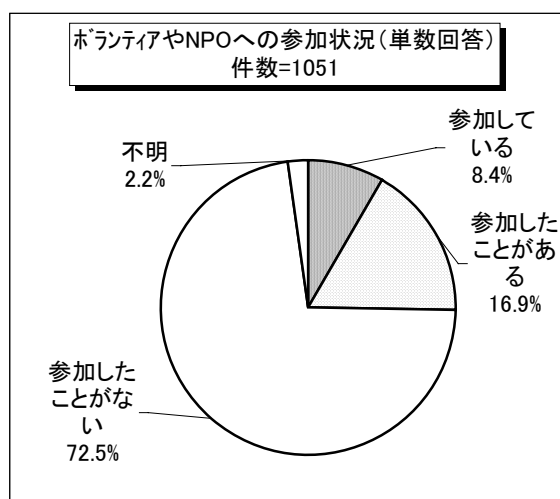


表 年齢(3区分)×ボランティアやNPOへの参加状況

	全体	参加している	参加したことがある	参加したことがない	不明
合計	1051	88	178	762	23
	100.0	8.4	16.9	72.5	2.2
20、30歳代	67	3	11	53	0
	100.0	4.5	16.4	79.1	0.0
40、50歳代	363	16	57	290	0
	100.0	4.4	15.7	79.9	0.0
60歳代以上	553	63	102	375	13
	100.0	11.4	18.4	67.8	2.4
不明	68	6	8	44	10
	100.0	8.8	11.8	64.7	14.7

16-3 あなたは今後、ボランティアやNPO活動に参加したいと思われませんか。

16-4 ボランティアやNPOの活動を発展させるために、どのような基盤整備や活動が必要だと思いますか。

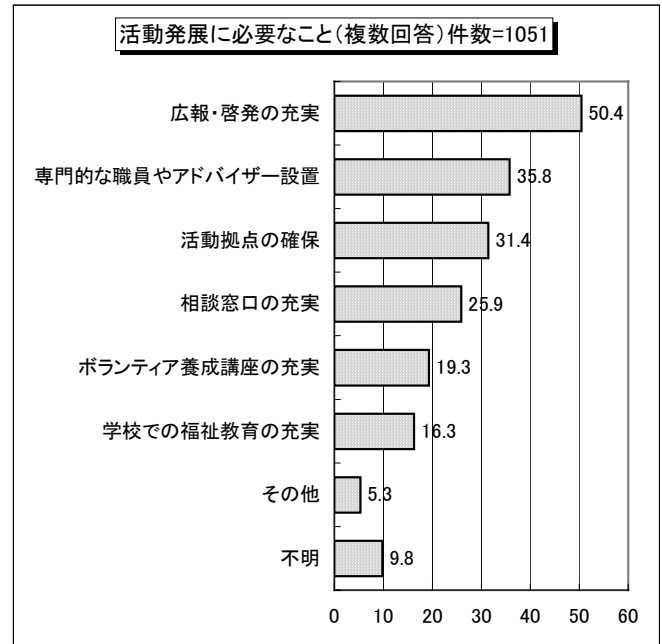
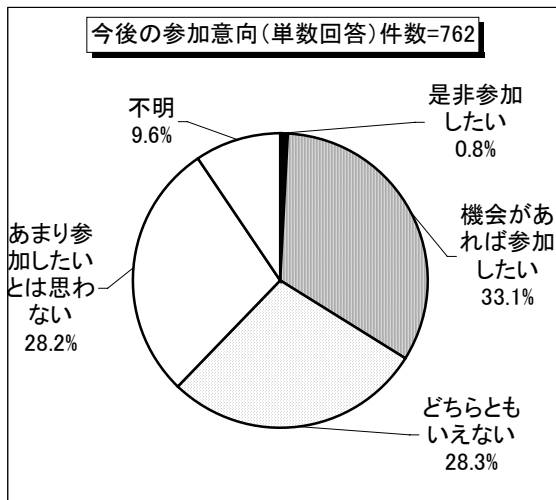


表 年齢(3区分) × 今後の参加意向

	全体	是非参加したい	機会があれば参加したい	あまり参加したいとは思わない	どちらともいえない	不明
合計	1051 100.0	6 0.8	252 33.1	215 28.2	216 28.3	73 9.6
20、30歳代	67 100.0	0 0.0	15 28.3	18 34.0	17 32.1	3 5.7
40、50歳代	363 100.0	2 0.7	108 37.2	81 27.9	70 24.1	29 10.0
60歳代以上	553 100.0	3 0.8	124 33.1	102 27.2	111 29.6	35 9.3
不明	68 100.0	1 2.3	5 11.4	14 31.8	18 40.9	6 13.6

## ⑦精華町社会福祉協議会の活動について

### ア. 町社協や小地域福祉活動の認知度

7割弱は町社協を認知しており、4割弱は小地域福祉活動を知っています

- 聞いたことがあるを併せると、回答者全体の7割弱は「社協を知っている＋話を聞いたことがある（68.0%）」と答えています。平成14年度調査では認知度が82.6%であったのに対して、今回調査では69.7%となっています。
- 同様に回答者の4割弱は「小地域福祉活動を知っている＋話を聞いたことがある（38.2%）」と答えています。

問17 あなたは社会福祉協議会について聞いたことがありますか。

問18 あなたは小地域福祉活動について聞いたことがありますか。

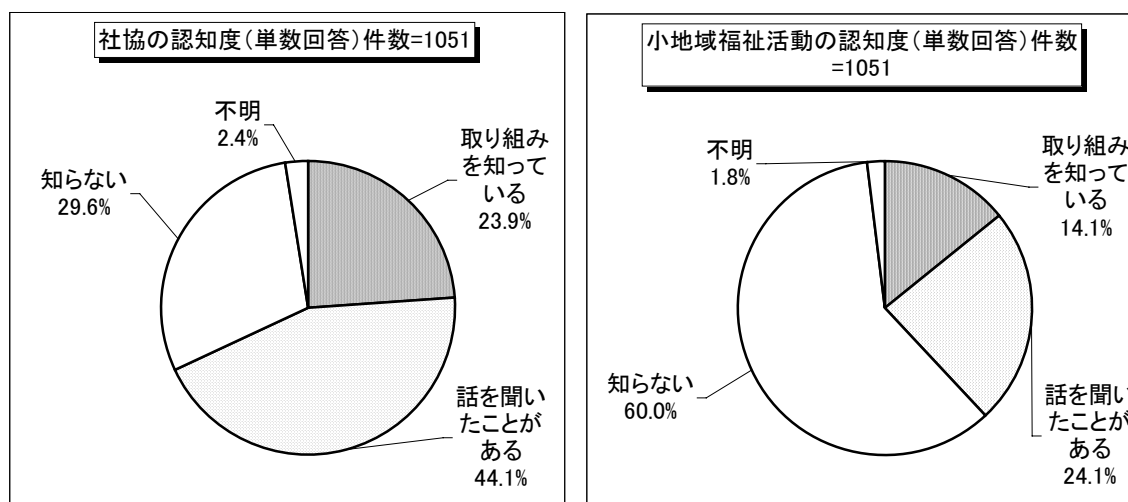


表 社協の認知度（平成14年度調査との比較）

	全体	全体（不明を除く）	取り組みを知っている	話を聞いたことがある	知らない	不明
今回の調査	1051	1026	251	464	311	25
	100	100.0	24.5	45.2	30.3	—
平成14年度調査	791	—	236	418	137	—
	100	—	29.8	52.8	17.3	—

表 年齢（3区分）×社協の認知度

	全体	取り組みを知っている	話を聞いたことがある	知らない	不明
合計	1051	251	464	311	25
	100.0	23.9	44.1	29.6	2.4
20、30歳代	67	2	15	50	0
	100.0	3.0	22.4	74.6	0.0
40、50歳代	363	53	166	143	1
	100.0	14.6	45.7	39.4	0.3
60歳代以上	553	181	255	105	12
	100.0	32.7	46.1	19.0	2.2
不明	68	15	28	13	12
	100.0	22.1	41.2	19.1	17.6

表 居住地区（中学校区）×社協の認知度

	全体	取り組みを知っている	話を聞いたことがある	知らない	不明	非該当
合計	1051 100.0	251 23.9	464 44.1	311 29.6	25 2.4	0
精華中	448 100.0	126 28.1	187 41.7	122 27.2	13 2.9	0
精華南中	192 100.0	41 21.4	86 44.8	61 31.8	4 2.1	0
精華西中	399 100.0	83 20.8	187 46.9	122 30.6	7 1.8	0
不明	12 100.0	1 8.3	4 33.3	6 50.0	1 8.3	0

## イ. 小地域福祉委員会、高齢者ふれあいサロン、子育てサロンの認知度

### 約 4 割は小地域福祉委員会を認知しています

- 聞いたことがあるを併せると、回答者全体の約 4 割は「小地域福祉委員会を知っている＋話を聞いたことがある (39.1%)」と答えています (平成 20 年 1 月現在、精華中学校区の 3 地区及び西中学校区の 2 地区で委員会活動が行われています)。
- 年齢別にみると 20～50 歳代の 7、8 割には知られていません。

問 19 小地域福祉委員会、高齢者ふれあいサロン、子育てサロンについてお答えください。

19-1 あなたは小地域福祉委員会について聞いたことがありますか。

問 19-2 あなたは高齢者ふれあいサロンについて聞いたことがありますか。

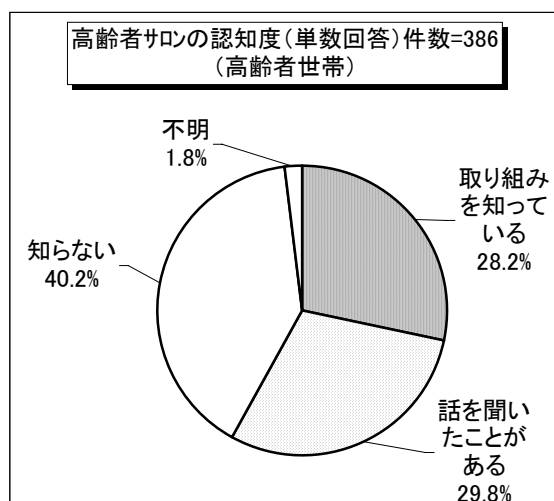
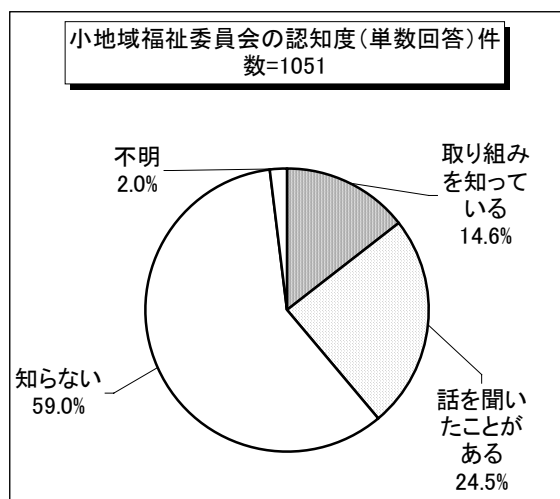


表 年齢(3区分)×小地域福祉活動の認知度

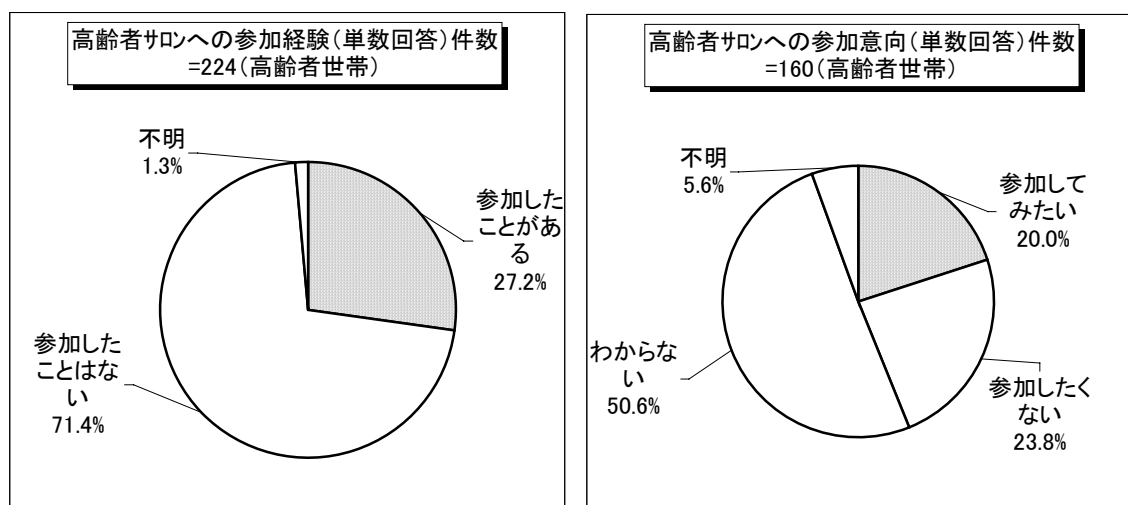
	全体	取り組みを知っている	話を聞いたことがある	知らない	不明
合計	1051 100.0	148 14.1	253 24.1	631 60.0	19 1.8
20、30歳代	67 100.0	2 3.0	6 9.0	59 88.1	0 0.0
40、50歳代	363 100.0	23 6.3	67 18.5	270 74.4	3 0.8
60歳代以上	553 100.0	110 19.9	160 28.9	276 49.9	7 1.3
不明	68 100.0	13 19.1	20 29.4	26 38.2	9 13.2

表 居住地区(中学校区)×小地域福祉委員会の認知度

	全体	取り組みを知っている	話を聞いたことがある	知らない	不明
合計	1051 100.0	153 14.6	257 24.5	620 59.0	21 2.0
精華中	448 100.0	91 20.3	117 26.1	225 50.2	15 3.3
精華南中	192 100.0	21 10.9	28 14.6	143 74.5	0 0.0
精華西中	399 100.0	41 10.3	109 27.3	244 61.2	5 1.3
不明	12 100.0	0 0.0	3 25.0	8 66.7	1 8.3

問 19-3 あなたは高齢者ふれあいサロンに参加したことがありますか。

問 19-4 あなたは高齢者ふれあいサロンに参加してみたいと思われませんか。



**高齢者世帯の6割弱は高齢者サロンを認知しており、未参加層の約2割に参加意向があります**

- 聞いたことがあるをあわせると、高齢者世帯の6割弱は「高齢者サロンを知っている+話を聞いたことがある(58.0%)」と答えています(平成20年1月現在、精華中学校区の9地区、南中学校区の3地区、西中学校区の4地区で高齢者サロンが行われています)。
- 高齢者世帯の約1/4は「参加したことがある(27.2%)」と答えており、参加したことがない人の約2割に「参加してみたい(20.0%)」意向があります。



### 子育て世帯の約6割は小地域福祉委員会を認知しています

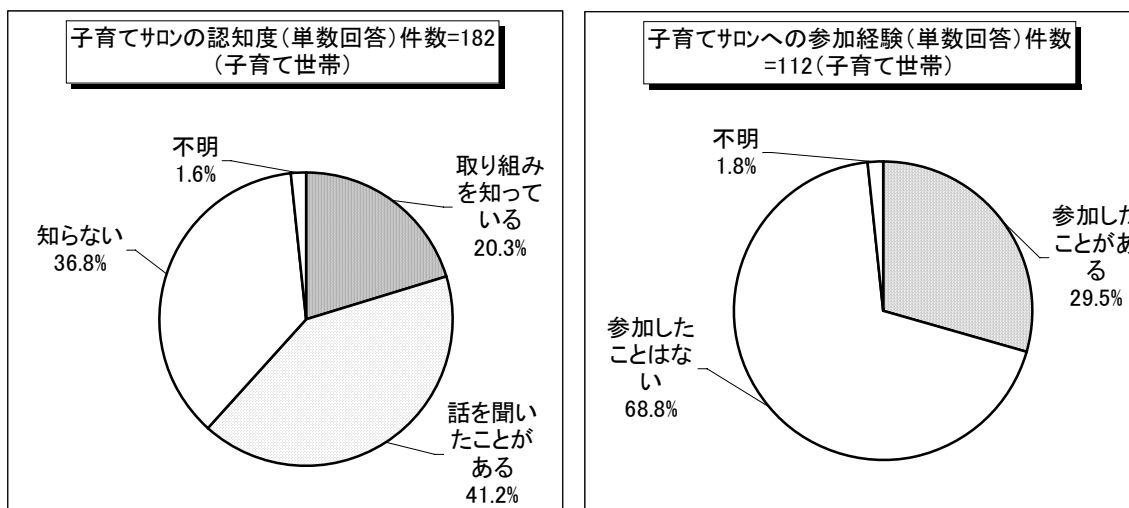
- 聞いたことがあるを併せると、子育て世帯の約6割は「子育てサロンを知っている+話を聞いたことがある(61.5%)」と答えています(平成20年1月現在、精華中学校区の1地区、南中学校区の4地区、西中学校区の14地区で子育てサロンが行われています)。

### 子育て世帯の3割弱は子育てサロンを認知しており、未参加層の1/4に参加意向があります

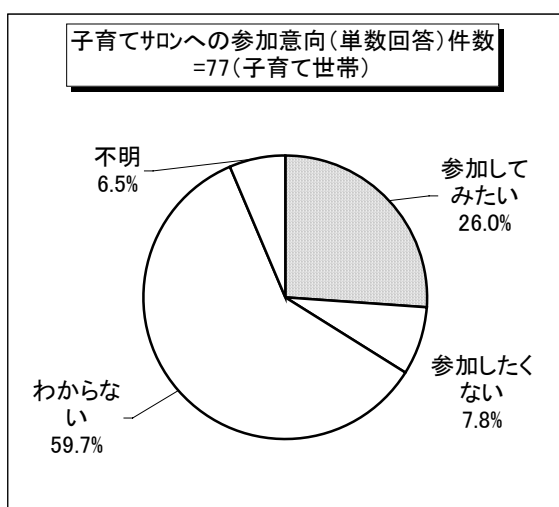
- 同様に子育て世帯の約3割は「参加したことがある(29.5%)」と答えており、参加したことがない人の約2割は「参加してみたい(26.0%)」と答えています。

問 19-5 あなたは子育てサロンについて聞いたことがありますか。

問 19-6 あなたは子育てサロンに参加したことがありますか。



問 19-7 あなたは子育てサロンに参加してみたいと思われませんか。

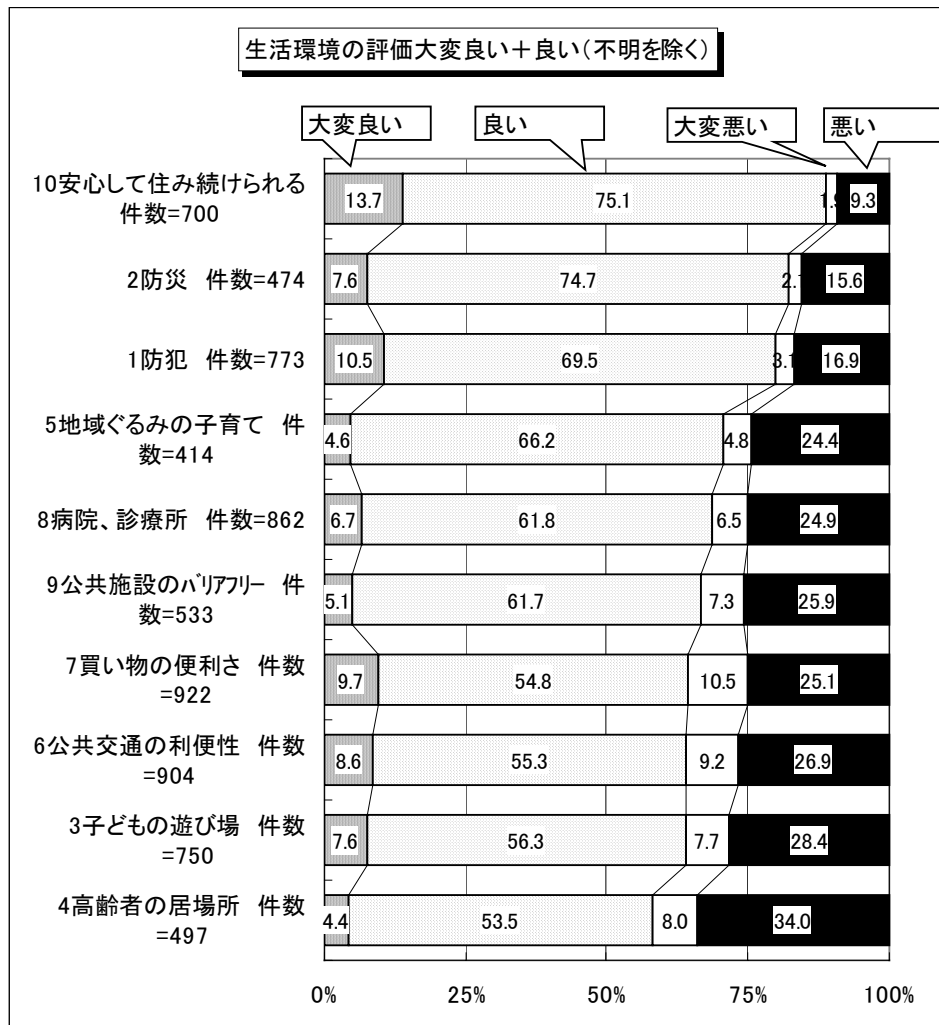


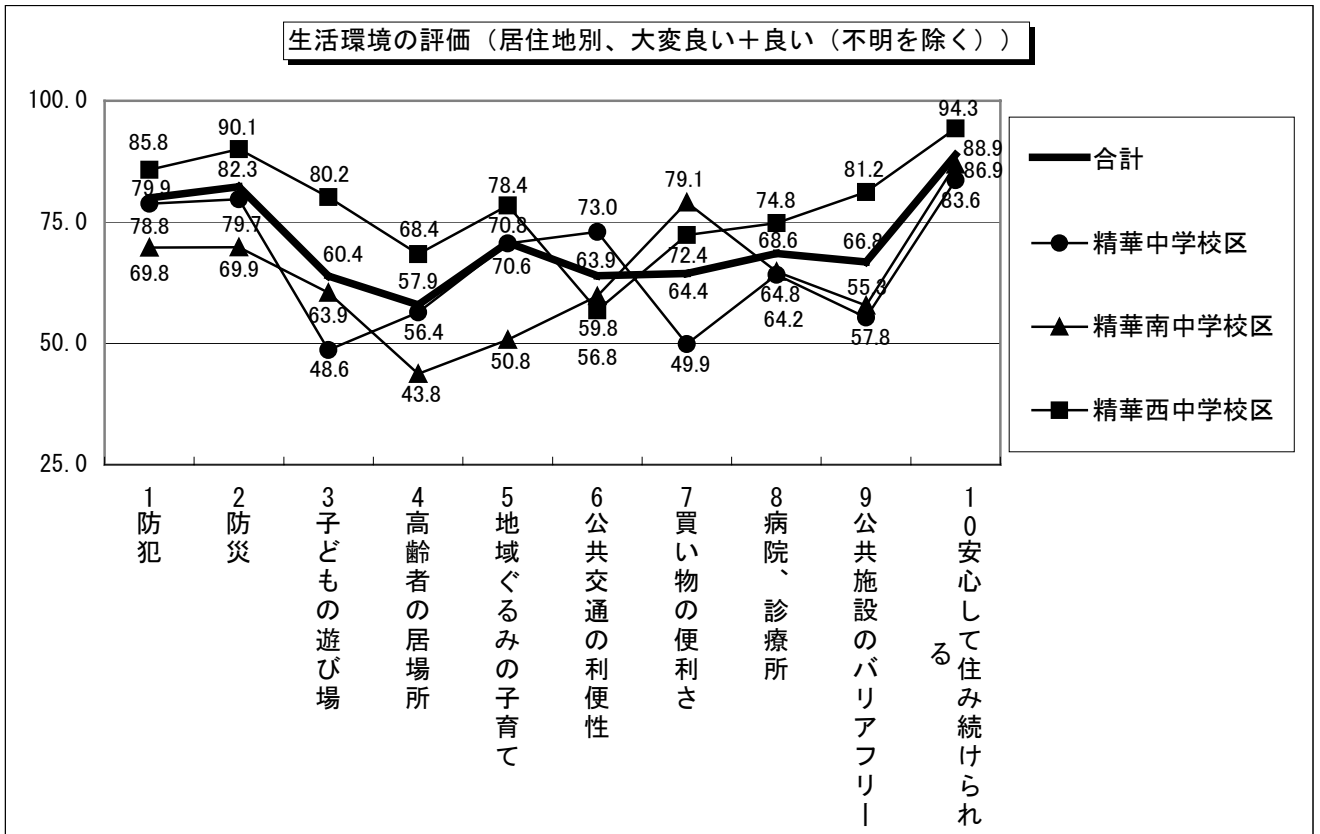
## ⑧生活環境の評価

すべての項目が満足度 50%以上ですが、高齢者の居場所、子どもの遊び場、公共交通の利便性、買い物の便利さ等について評価に地域差を生じています

- 生活環境についてすべての項目が満足度 50%以上となっています（満足度＝大変良い＋良い／合計（不明を除く））。
- 満足度の下位は「高齢者の居場所（57.9%）」「子どもの遊び場（63.9%）」「公共交通の利便性（63.9%）」「買い物の便利さ（64.5%）」となっています。
- 居住地別で評価が合計を下回っているのは、精華中学校区では子どもの遊び場、買い物の便利さ、病院・診療所、公共施設のバリアフリーです。同様に、南中学校区では、防犯、防災、子どもの遊び場、高齢者の居場所、地域ぐるみの子育て、公共交通の利便性、病院・診療所、公共施設のバリアフリーについて評価が合計を下回っています。西中学校区では、公共交通の利便性について評価が合計を下回っています。

問 20 あなたのお住まいの地域の生活環境についてお答えください。





### ⑨優先すべき施策等

#### 地域の問題は住民・行政・町社協などで協力して解決すべき

地域の問題や課題の解決方法について回答者の3/4は「住民・行政・社協などで協力して解決（74.9%）」と答えています。

問 21 地域の問題や課題の解決方法についてどのように考えていますか。

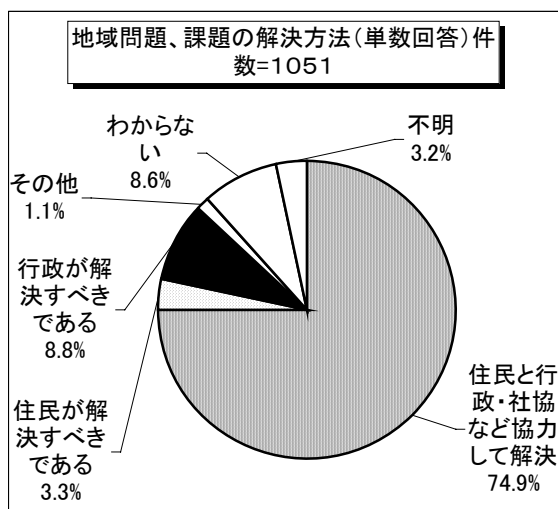


表 年齢（3区分）×地域問題、課題の解決方法

	全体	住民と行政・社協など協力して解決	住民が解決すべきである	行政が解決すべきである	その他	わからない	不明
合計	1051 100.0	787 74.9	35 3.3	93 8.8	12 1.1	90 8.6	34 3.2
20、30歳代	67 100.0	33 49.3	4 6.0	7 10.4	1 1.5	21 31.3	1 1.5
40、50歳代	363 100.0	292 80.4	15 4.1	27 7.4	4 1.1	23 6.3	2 0.6
60歳代以上	553 100.0	421 76.1	14 2.5	55 9.9	6 1.1	41 7.4	16 2.9
不明	68 100.0	41 60.3	2 2.9	4 5.9	1 1.5	5 7.4	15 22.1

表 居住地区（中学校区）×地域問題、課題の解決方法

	全体	住民と行政・社協など協力して解決	住民が解決すべきである	行政が解決すべきである	その他	わからない	不明
合計	1051 100.0	787 74.9	35 3.3	93 8.8	12 1.1	90 8.6	34 3.2
精華中	448 100.0	305 68.1	12 2.7	58 12.9	8 1.8	44 9.8	21 4.7
精華南中	192 100.0	139 72.4	8 4.2	19 9.9	2 1.0	18 9.4	6 3.1
精華西中	399 100.0	335 84.0	13 3.3	16 4.0	2 0.5	27 6.8	6 1.5
不明	12 100.0	8 66.7	2 16.7	0 0.0	0 0.0	1 8.3	1 8.3

優先すべき施策として、若い世代では「次代を担う子どもたちの福祉教育」が、高齢者層では「在宅で暮らせるサービスの充実」が多くなっています

- 優先すべき施策では、「在宅で暮らせるサービスの充実」が最も多く、「住民相互の支え合うしくみづくり」「いつまでも健康なサービスの充実」「次代を担う子どもたちの福祉教育」が続いています。
- 20～50歳代では「次代を担う子どもたちの福祉教育」や「地域ぐるみの子育て支援」が、60歳代以上では「在宅で暮らせるサービスの充実」「高齢者や障がい者等の居場所づくり」の回答が多くなっています。

問 22 今後、本町はどのような施策を優先して充実すべきだと思いますか。

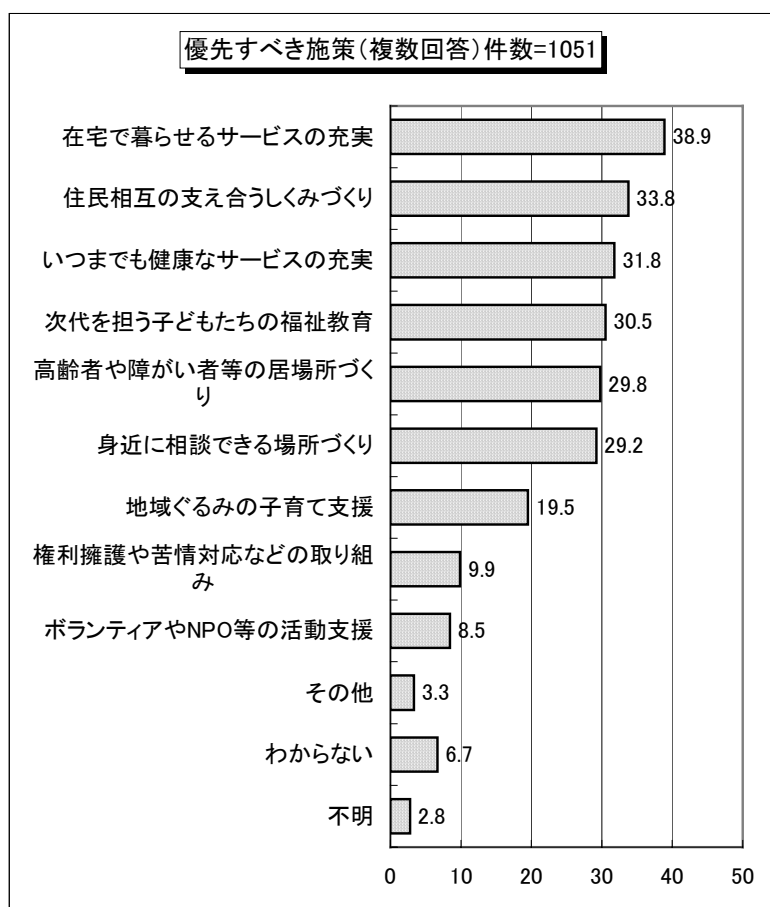


表 年齢(3区分) × 優先すべき施策

	全体	在宅で暮らせるサービスの充実	住民相互の支え合うしくみづくり	いつまでも健康なサービスの充実	次代を担う子どもたちの福祉教育	高齢者や障がい者等の居場所づくり	身近に相談できる場所づくり	地域ぐるみの子育て支援	権利擁護や苦情対応などの取り組み	ボランティアやNPO等の活動支援
合計	1051 100.0	409 38.9	355 33.8	334 31.8	321 30.5	313 29.8	307 29.2	205 19.5	104 9.9	89 8.5
20、30歳代	67 100.0	16 23.9	16 23.9	7 10.4	18 26.9	11 16.4	10 14.9	18 26.9	3 4.5	9 13.4
40、50歳代	363 100.0	103 28.4	121 33.3	111 30.6	146 40.2	80 22.0	102 28.1	114 31.4	38 10.5	25 6.9
60歳代以上	553 100.0	263 47.6	198 35.8	200 36.2	139 25.1	200 36.2	178 32.2	66 11.9	59 10.7	50 9.0
不明	68 100.0	27 39.7	20 29.4	16 23.5	18 26.5	22 32.4	17 25.0	7 10.3	4 5.9	5 7.4

## 用語解説

### 【あ】

---

#### インフォーマル（サービス、活動）

地域住民やボランティアが行う制度外（非公式）の援助サービス。

### 【か】

---

#### グループホーム

障害のある人が地域の住宅などで、世話人から相談、食事などの日常的な生活援助を受けながら共同生活を行う形態。

#### 高齢者ふれあいサロン

小地域福祉委員会などが主催する、住民による高齢者の居場所づくり。お茶会のほかに、多世代交流、季節の行事などを行っている。

#### 声かけせいか隊

地域住民が災害時要配慮者台帳などをもとに、緊急災害時の助け合いや、日常の見守り活動を行う取り組み。町社協が活動を支援している。

#### 子育てサロン

子育てサークルが主催する、住民による子育て層の居場所づくり。子育ての孤立を防ぎ、母親同士の交流や育児支援の場となっている。

#### コミュニティ

居住地域を同じくし、利害などをともにする共同社会。

### 【さ】

---

#### 自主防災組織

緊急災害時に備えた住民による自主的な防災組織。防災マップづくりや避難訓練などが行われている。

## **障害者自立支援法**

今まで三障害ごとに分かれていた法律、制度、医療やそれらに伴う費用負担などの制度をすべて一本化し、障害のある人が地域で自立して生活できることをめざした法律。

## **小地域福祉委員会**

安心して生き生きとした生活を続けるために、地区福祉推進委員を中心に各自治会単位で住民組織が行う福祉活動。

## **障害者生活支援センター**

障害のある人の相談拠点であり、必要に応じてサービス提供事業所が障害のある人の日中活動や居住の場を提供し、障害のある人の地域生活を支援している。

## **障害者地域自立支援協議会**

相談事業をはじめ地域の障害福祉に関するシステムづくりのために、中核的な役割を果たす協議の場として設置する組織。町単独では限界ある課題について部会を立ち上げ、関係機関や学校などと連携して取り組んでいる。

## **スクールヘルパー（学校安全地域ボランティア）**

子どもの安全対策として、登下校時の子どもの安全パトロールを行っているボランティア活動。

## **【た】**

---

## **第2期精華町地域福祉活動計画**

精華町社会福祉協議会は平成19（2007）年度に第2期精華町地域福祉活動計画を策定し、町に先行して民間側の地域福祉の取り組みを進めている。活動計画の計画期間は平成20（2008）年度から平成24（2012）年度まで。

## **地域包括支援センター**

要支援1・2に認定された高齢者の支援計画作成業務や、高齢者の権利擁護業務、虐待防止に関する取り組み、介護支援専門員（ケアマネジャー）に対する助言など支援を行う機関。本町では、町社協に委託し実施している。

## 【は】

---

### フォーマル（サービス、活動）

国や地方公共団体など公的機関が行う、法律などの制度に基づいたサービス。

### 福祉コミュニティ

地域において支援が必要な方を中心にして、お互いに生活を支えあうコミュニティづくりをめざすもの。まちづくり活動の中に福祉活動があるように、福祉コミュニティは、一般コミュニティに内包される概念。

### 防犯推進委員会

防犯にかかわる住民の自主組織であり、防犯パトロールや外灯設置、住民への広報活動などが行われている。

### ボランティア・アドバイザー

ボランティアを始めたい人を応援したり、ボランティアを必要とする人をボランティアセンターにつなぐなど、小中学校区などのより身近な地域で活動するボランティア。

## 【や】

---

### 要配慮者登録制度

緊急災害時に住民による要配慮者支援を行うために、民生児童委員を中心とした要配慮者の申請登録による要配慮者台帳づくりの活動。

## 【ら】

---

### 隣人祭り

今から 18 年前、パリの青年 3 人が、あるパーティーを始めました。きっかけは、同じマンションに住む一人暮らしの孤独なお年寄りの死。「住民同士の触れ合いがあれば、こんな悲劇は起こらなかつたはず……」。地域の隣人たちがそれぞれに集い、食事をしながら語り合う、それが「隣人祭り」。年に一度、同日同時刻に世界中で一斉に開催される世界 29 カ国、計 750 万人参加の一大イベントが、ついに、日本初上陸。平成 20（2008）年に日本支部ができ、5 月には日本でも新宿御苑で



第1回が開催された。

計画策定にあたって、住民主催の懇談会を「せいか隣人まつり」と称して開催し、出された意見を計画に反映する。「せいか隣人まつり」の開催にあたり、隣人祭り日本支部と連携している。

出典：隣人祭り―「つながり」を取り戻す大切な一歩 ― アタナーズ・ペリファン、南谷桂子 共著

## 精華町地域福祉計画

～世代をこえて安心して住めるまちをめざして～

発行


平成 21 (2009) 年 9 月

京都府相楽郡精華町 民生部福祉課

〒619-0285 京都府相楽郡精華町南稲八妻北尻 70

TEL 0774-95-1904

FAX 0774-95-3974

再生紙  を使用。地球環境に配慮した用紙とインキです。